

晴れの国おかやまの未来に向けて



©岡山県「ももっち・うらっち」

みんなで取り組む岡山県の少子化対策のために

合計特殊出生率「見える化」分析

《岡山県出生率地域格差要因分析業務報告書》



平成 29 年 (2017 年) 3 月

岡山県



目次

序章

1 はじめに	2
(1) 問題意識と目的	2
(2) 分析の構成	3
2 合計特殊出生率とは	4
(1) 合計特殊出生率の定義	4
(2) 期間合計特殊出生率の特徴	5
(3) 分析の対象とする合計特殊出生率	6

第1章 合計特殊出生率の地域格差要因分析

1 岡山県と中国地方他県を中心とした合計特殊出生率地域格差要因分析	8
(1) 合計特殊出生率地域差の出生構造要因による分析	8
(2) 合計特殊出生率変化の出生構造要因による分析	11
(3) 合計特殊出生率に対する社会経済要因の影響分析	15
2 市町村を対象とした合計特殊出生率地域格差要因分析	19
(1) 合計特殊出生率地域差の出生構造要因による分析	19
(2) 合計特殊出生率変化の出生構造要因による分析	22
(3) 合計特殊出生率に対する社会経済要因の影響分析	27

第2章 市町村分析シート

市町村分析シートの見方	34
市町村分析シート	
岡山市	35
倉敷市	36
津山市	37
玉野市	38
笠岡市	39
井原市	40
総社市	41
高梁市	42
新見市	43
備前市	44
瀬戸内市	45
赤磐市	46
真庭市	47
美作市	48
浅口市	49
和気町	50
早島町	51
里庄町	52
矢掛町	53
新庄村	54
鏡野町	55
勝央町	56
奈義町	57
西粟倉村	58
久米南町	59
美咲町	60
吉備中央町	61

資料

1 出生順位別有配偶出生率に対する年齢階層別女性有配偶率の影響	64
2 女性有配偶率・有配偶出生率に影響を及ぼす要因の理論・仮説	65
3 参考文献	67
4 分析に利用した主なデータ	68

合計特殊出生率「見える化」分析
《岡山県出生率地域格差要因分析》

序章

(1) 問題意識と目的

問題意識

2015年の岡山県の合計特殊出生率は1.54であり、全国の1.45を0.09ポイント上回る。しかしながら、中国地方5県の中では最も低く、最も高い島根県とは0.24ポイントの差が生じている。

2010年から2015年にかけての合計特殊出生率の変化をみると、全国が0.06ポイントの上昇であったのに対して岡山県は0.04ポイントにとどまり、山陰2県の0.1ポイントを超える上昇とは大きな開きがある。

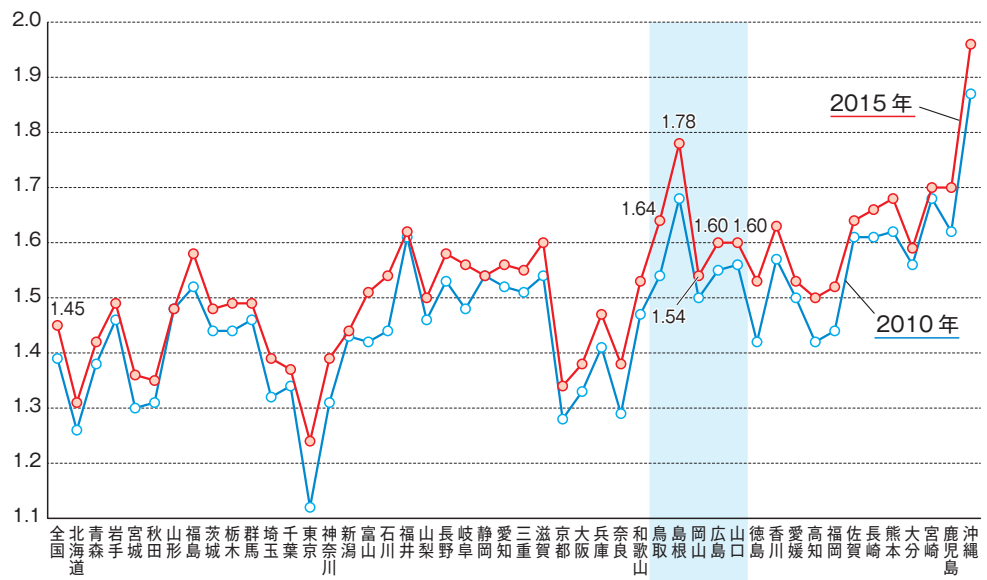
このように合計特殊出生率は、全国的に上昇しつつも大きな地域格差が生じており、効果的な少子化対策を進めるためには、地域格差の背景にある要因を把握することが必要になっている。

目的

本分析では、岡山県と中国地方他県との比較を中心に合計特殊出生率に地域格差が生じている要因を把握するとともに、岡山県と県内市町村の合計特殊出生率に影響を与えている地域特性を「見える化」することに取り組む。

本分析の目的は、「見える化」した結果を、本県が取り組むべき施策の評価・検証を行うための基礎資料とするとともに、市町村と共有することによって、広域的な連携を含め、市町村の潜在的な地域力を生かした施策の検討を後押しし、県全体として少子化対策の底上げを図るものである。

都道府県の合計特殊出生率の推移



資料：厚生労働省「人口動態調査」、総務省「国勢調査」

本分析のまとめに当たっては、国立社会保障・人口問題研究所の鎌田健司主任研究官（人口構造研究部）と意見交換を行い、アドバイスを頂いた。ここに心よりお礼申し上げる。

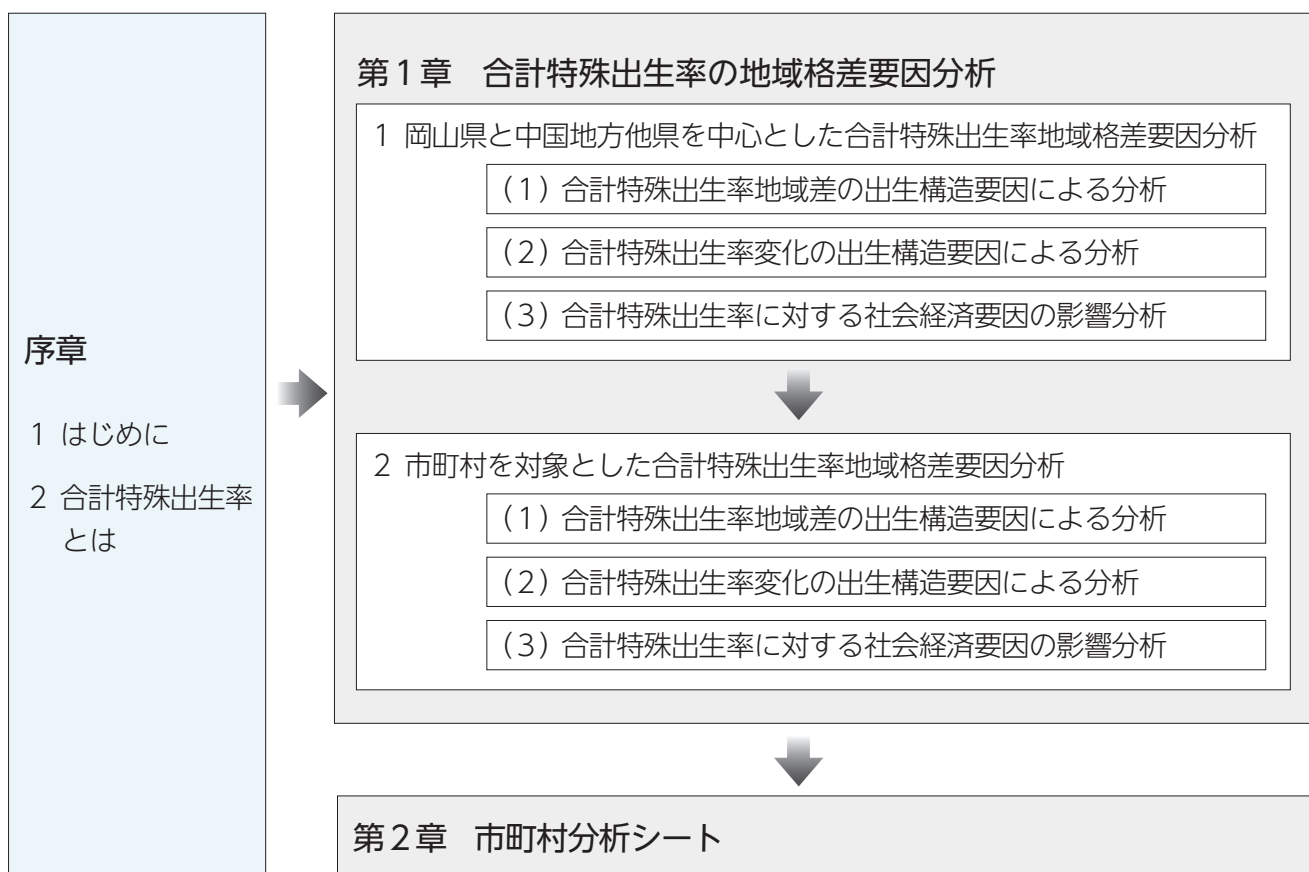
(2) 分析の構成

序章では、この後に、分析対象である合計特殊出生率の定義を明らかにするとともに、指標としての特徴を整理する。

続く第1章では、前半において、岡山県と中国地方他県の比較を中心に都道府県における合計特殊出生率地域格差の要因分析を行う。分析は三つの部分からなり、(1)合計特殊出生率の「地域差」に対する「出生構造要因」による分析、(2)合計特殊出生率の「変化」に対する「出生構造要因」による分析、(3)合計特殊出生率に対する「社会経済要因」の影響の分析である。

第1章の後半は、中国地方他県等との比較から明らかになった岡山県の特徴と、県内市町村における合計特殊出生率の地域格差との関わりについて分析を行う。前半と同様の三つの分析から構成される。

第2章は、第1章の分析結果を、県内市町村が施策に生かしやすいように、個々の市町村ごとの特性把握の形に編集したものである。

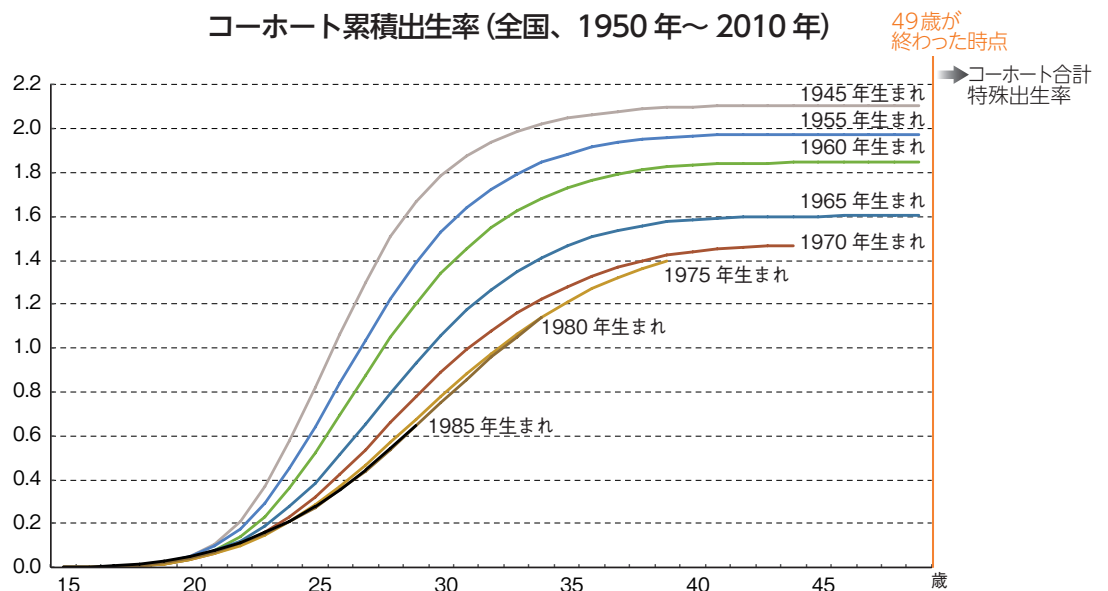


(1) 合計特殊出生率の定義

合計特殊出生率の定義は「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」である。「コホート合計特殊出生率」と「期間合計特殊出生率」の二通りがあり、一般にどちらも「一人の女性が一生の間に生む子供の数」と解釈される。

■コホート合計特殊出生率は、同一世代生まれ(コホート)の女性を対象に各年齢(15歳から49歳)の出生率を過去から積み上げる

コホート合計特殊出生率は世代ごとの出生率であり、一般に世代が違えば合計特殊出生率は異なる。実際の「一人の女性が一生の間に生む子供の数」はコホート合計特殊出生率であるものの、その世代が50歳に到達するまで数値が得られない。



(注) コホート累積出生率は女性の生まれ年別に各年齢までの女性一人当たり出生数を示している
資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」(2016年)

■期間合計特殊出生率は同じ期間の異なる世代の出生率を合計する

期間合計特殊出生率は、ある期間(通常は1年間)の出生状況に着目して、その年における各年齢階層(15-49歳)の女性の出生率を合計したものである。

コホート合計特殊出生率が、同世代女性の異なる期間の出生率を足し合わせたものであるなら、期間合計特殊出生率は、同じ期間の異なる世代の出生率を合計したものである。つまり、ある期間における出生率の世代間での違いに着目した出生率であり、異なる世代の出生率を継ぎ足して、その期間の女性の一生を仮想的に作り出している。

$$\text{期間合計特殊出生率} = \left(\frac{\text{母の年齢 15-19歳出生数}}{\text{15-19歳女性人口}} + \frac{\text{母の年齢 20-24歳出生数}}{\text{20-24歳女性人口}} + \dots + \frac{\text{母の年齢 45-49歳出生数}}{\text{45-49歳女性人口}} \right) \times 5$$

年齢階層別出生率(各世代の出生率)

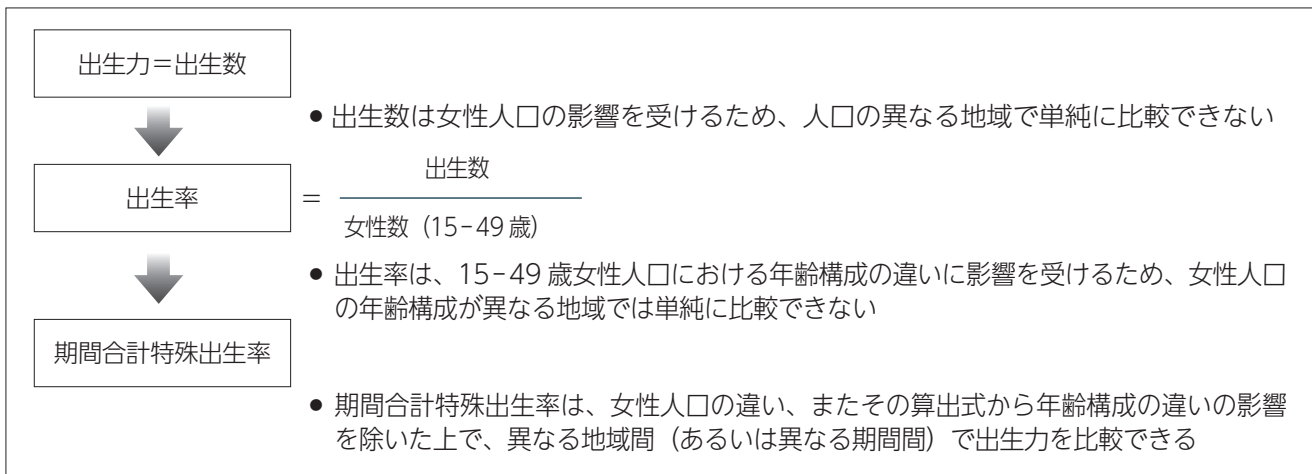
(2) 期間合計特殊出生率の特徴

■ 期間合計特殊出生率は地域の出生力を比較できる

地域の出生力は、その地域における出生数そのものと考えられる。しかし、女性人口や女性の年齢構成の影響を受ける出生数は、地域間で単純に比較できない。合計特殊出生率は出生数との間に次式の関係があり、女性人口や年齢構成の違いを除いて地域間の出生力を比較したいときに用いることができる。

$$\boxed{\text{出生数}} = \text{女性人口 (15-49 歳)} \times \frac{\text{期間合計特殊出生率}}{35} \times \text{15-49 歳の中の年齢構成を示す係数}$$

出生数と期間合計特殊出生率の関係



■ 期間合計特殊出生率は分解して要因分析ができる

コーホート合計特殊出生率にはない期間合計特殊出生率のもう一つの特徴は、出生構造（有配偶率と有配偶出生率、母の年齢階層別、出生順位別等）により分解可能なことであり、施策を打ち出すための原因の分析ができることである。

期間合計特殊出生率の出生構造による分解



1) 有配偶率と有配偶出生率の積の分解：XとYという2要因の積であるZの変化（あるいは全国との差）は、 $\Delta Z = \Delta X \cdot Y + X \cdot \Delta Y + \Delta X \cdot \Delta Y$ という3要因の和により算出することができる。Δは変化量（あるいは全国との差）を表わし、本分析では、 $\Delta X \cdot \Delta Y$ はXとYの変化に2分の1ずつ分配することとした。

(3) 分析の対象とする合計特殊出生率

本分析では、期間合計特殊出生率を分析の対象とする（ここから合計特殊出生率というときは、期間合計特殊出生率を指す）。また、本分析で利用する合計特殊出生率は、分析内容と偶然変動¹⁾の影響を勘案して、次の三つを使い分ける。

①単年の合計特殊出生率

都道府県における2015年合計特殊出生率地域差の分析（出生構造要因および社会経済要因）と、都道府県における2010年から2015年の合計特殊出生率変化量を分析するために利用する。

加えて、市町村における2010年から2015年の合計特殊出生率変化量の分析にも用いる。

②5年間(2011年-2015年)の出生数を集計した合計特殊出生率

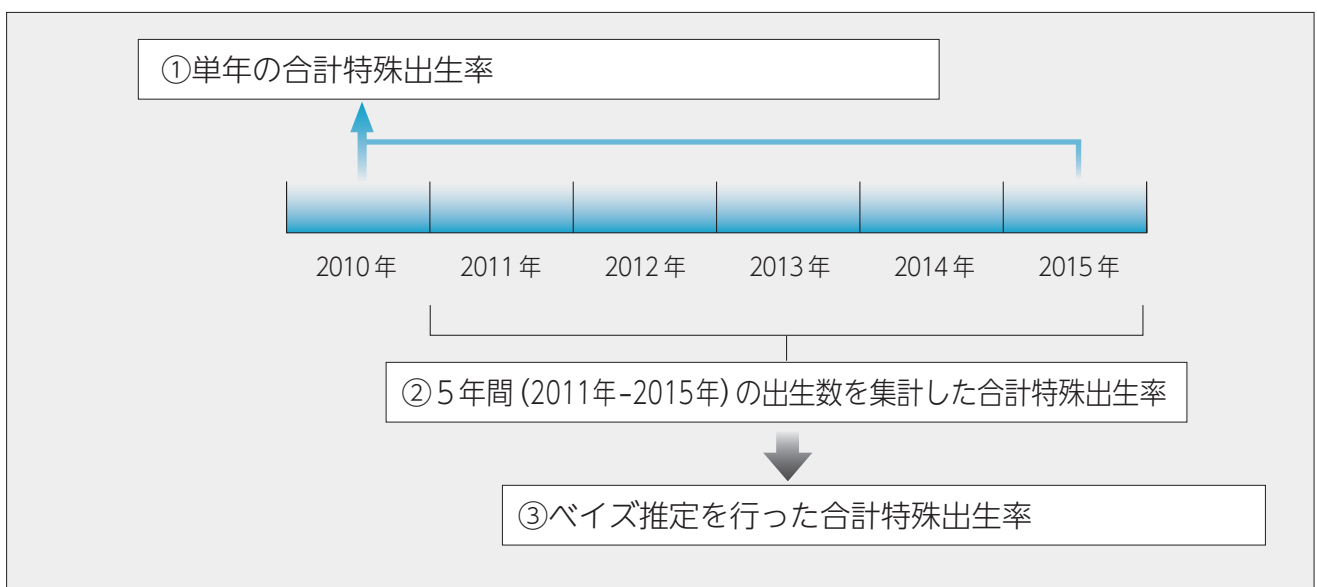
市町村の合計特殊出生率地域差に対する出生構造要因の分析に利用する。これは偶然変動の影響を小さくするためである。女性数は、2010年と2015年の国勢調査基準人口の平均値を用いた。本分析では「2011年-2015年」と表記する。

③ベイズ推定を行った合計特殊出生率

2011年-2015年の合計特殊出生率に対して二次保健医療圏によるベイズ推定²⁾を行う。市町村の合計特殊出生率に対する社会経済要因の分析に利用する。偶然変動の影響をさらに小さくするためである。

なお、本分析では、出生数、女性人口（基準人口）とも日本人を対象とし、全ての合計特殊出生率は厚生労働省から提供を受けた人口動態調査のデータを基に独自に算出したものである。

本分析で用いる三つの合計特殊出生率の関係



1) 偶然変動：ある年だけに偶然的要因によって生じる変化。市町村のような小地域を分析するときに偶然変動の影響が大きくなる。

2) ベイズ推定：偶然変動の影響を小さくするため、ある市町村の出生率算出に当たって周辺市町村（二次保健医療圏等）の出生率という情報を加える推計手法。



第1章

合計特殊出生率の 地域格差要因分析

1

岡山県と中国地方他県を中心とした合計特殊出生率地域格差要因分析

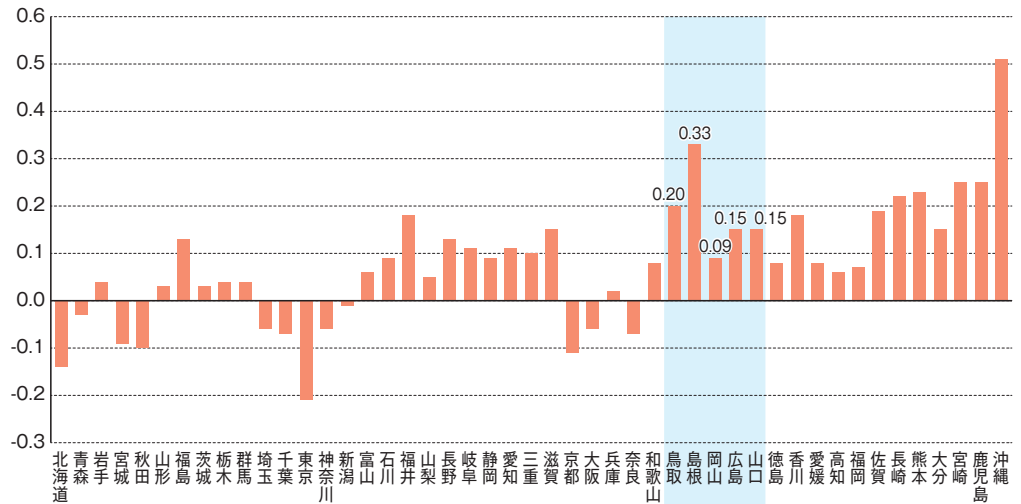
(1) 合計特殊出生率地域差の出生構造要因による分析

岡山県の合計特殊出生率に影響を与えている要因を把握するため、都道府県の合計特殊出生率の地域差を出生構造により分解を行った。

合計特殊出生率の地域差が分析の出発点

本分析の「地域差」とは全国値との差のことであり、下図に、2015年における全国と都道府県の合計特殊出生率の差を示した。

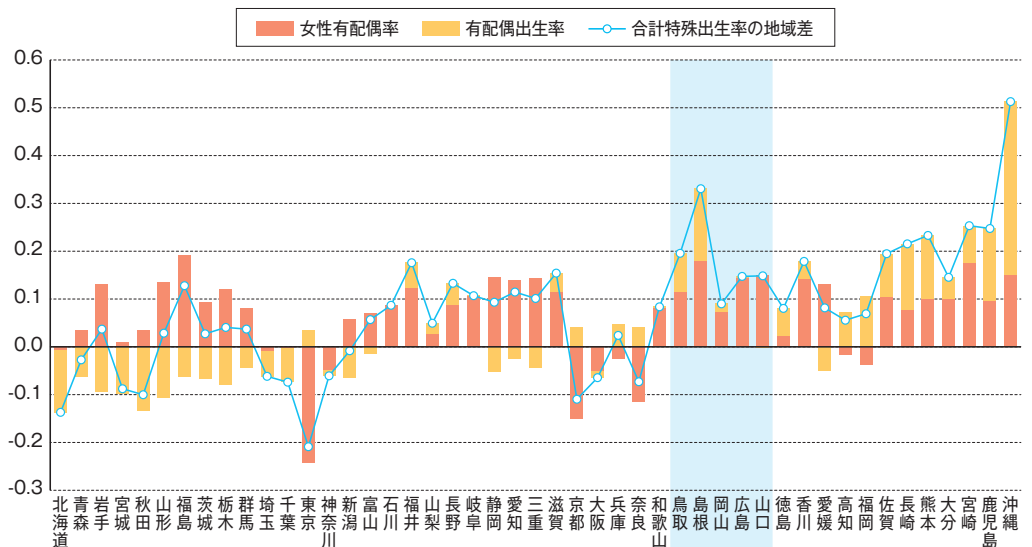
合計特殊出生率の地域差(全国値との差)(2015年)



岡山県は有配偶率の差に比べ有配偶出生率の寄与が小さい

合計特殊出生率の地域差を、女性有配偶率地域差と有配偶出生率地域差に分けると、岡山県は、広島県、山口県と同様、山陰2県に対して有配偶出生率の寄与¹⁾が小さい。有配偶率は山陽2県と比較すると半分程度である。

合計特殊出生率地域差の女性有配偶率地域差と有配偶出生率地域差による分解(2015年)



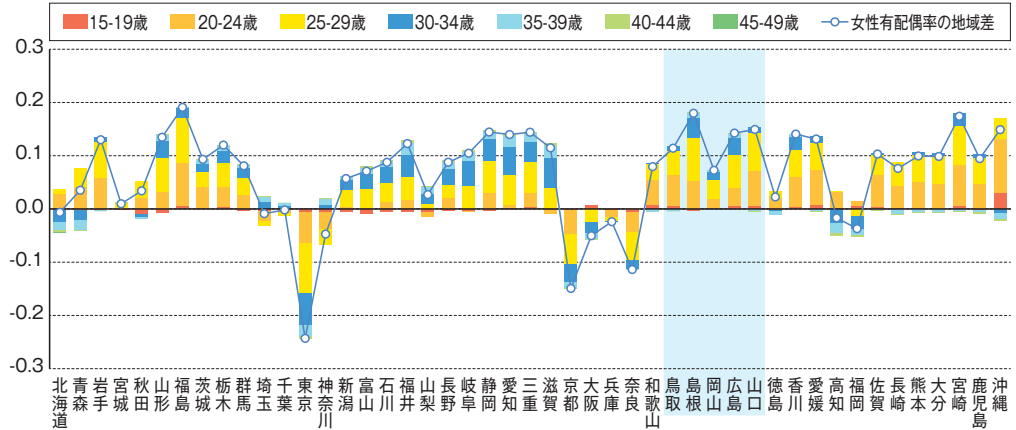
1) 寄与：本分析では、全体の差や変化に占める部分の大きさを、当該部分の全体に対する「寄与」という。

20歳代の有配偶率と30歳代の有配偶出生率が低い

女性有配偶率地域差を年齢階層別にみると、岡山県は20歳代の寄与が小さい。有配偶出生率地域差を年齢階層別に分解すると、岡山県では30歳代がマイナス寄与になっている。

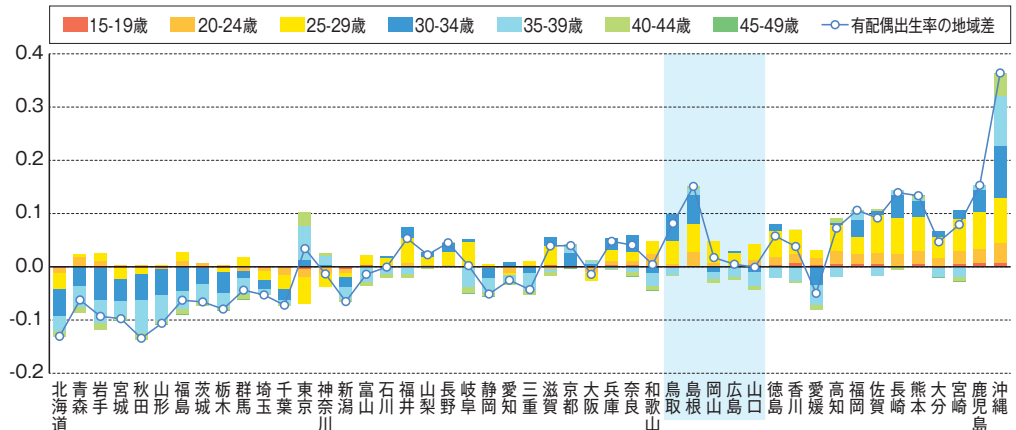
女性有配偶率

女性有配偶率地域差の年齢階層別女性有配偶率地域差による分解（2015年）



有配偶出生率

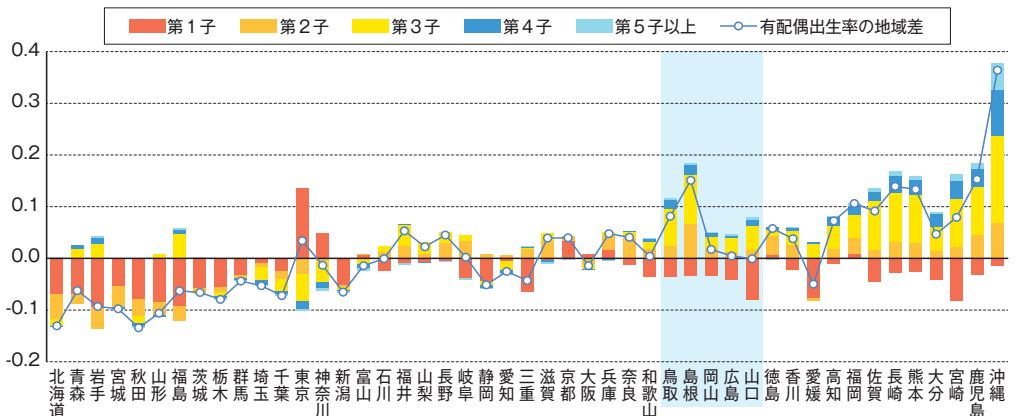
有配偶出生率地域差の年齢階層別有配偶出生率地域差による分解（2015年）



出生順位別では第3子の寄与が小さい

有配偶出生率地域差を出生順位別出生率に分解した。例えば、第1子の出生率がどの地域で高いかが分かる。中国地方の中での岡山県の特徴は、第3子の寄与が小さいことである。20歳代の有配偶率の低さが、第3子の出生に影響していると考えられる。¹⁾ また、第2子の寄与が山陰2県に比べ小さい。

有配偶出生率地域差の出生順位別有配偶出生率地域差による分解（2015年）



1) 資料編 1 を参照

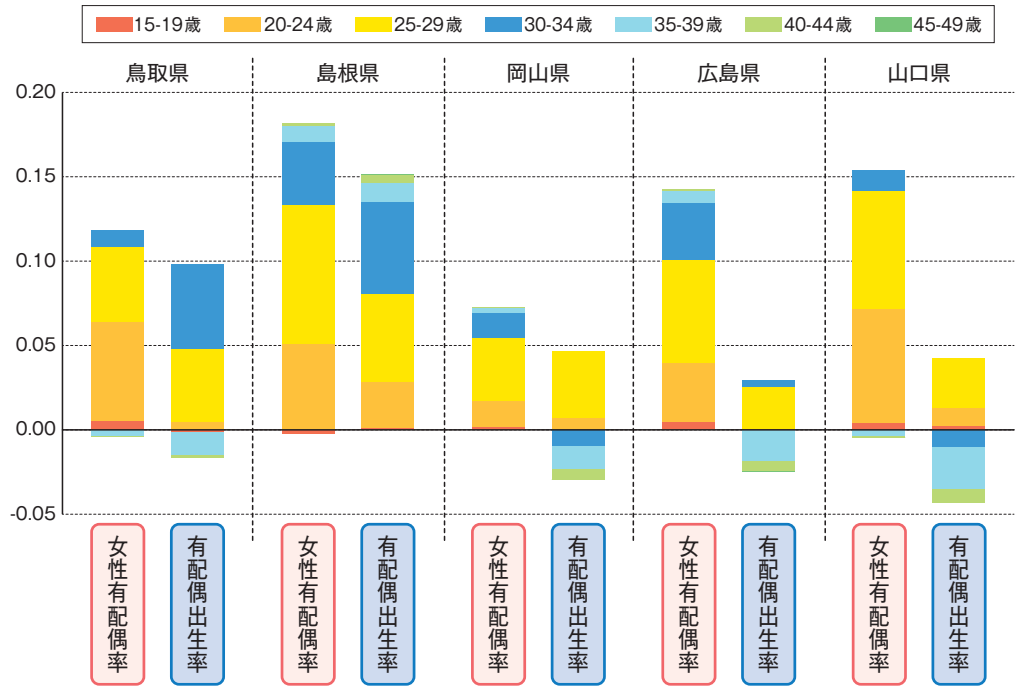
資料：厚生労働省「人口動態調査」、総務省「国勢調査」

■分析のまとめ

中国地方の中で岡山県の合計特殊出生率が低い理由は、まず、どの県と比較しても女性有配偶率が低いことである。これは、20歳代から30歳代前半の若年層全般の有配偶率の低さが大きく影響している。

次に、山陰2県と比較して有配偶出生率の寄与が小さい。特に、30歳代が全国値を下回っていることが影響している。

合計特殊出生率地域差の年齢階層別女性有配偶率地域差と年齢階層別有配偶出生率地域差による分解（2015年）



(注) 県ごとに2本の棒グラフを足し合わせると、合計特殊出生率全体の全国との差になる。

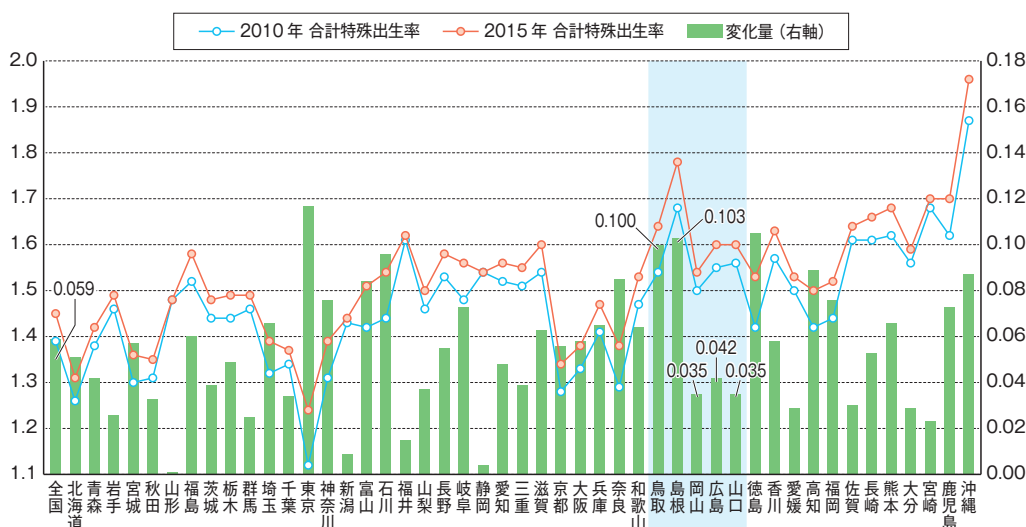
(2) 合計特殊出生率変化の出生構造要因による分析

合計特殊出生率の変化に影響を与えている要因について岡山県の特徴を明らかにするため、都道府県の合計特殊出生率の変化を出生構造により分解した。

2010年～2015年の合計特殊出生率変化量が分析の出発点

2010年と2015年を比較すると、全国の合計特殊出生率の0.059ポイントの上昇に対して、岡山県の上昇は0.035ポイントであった。全国の上昇量より0.024ポイント低い。

都道府県における合計特殊出生率変化量（2010年～2015年）

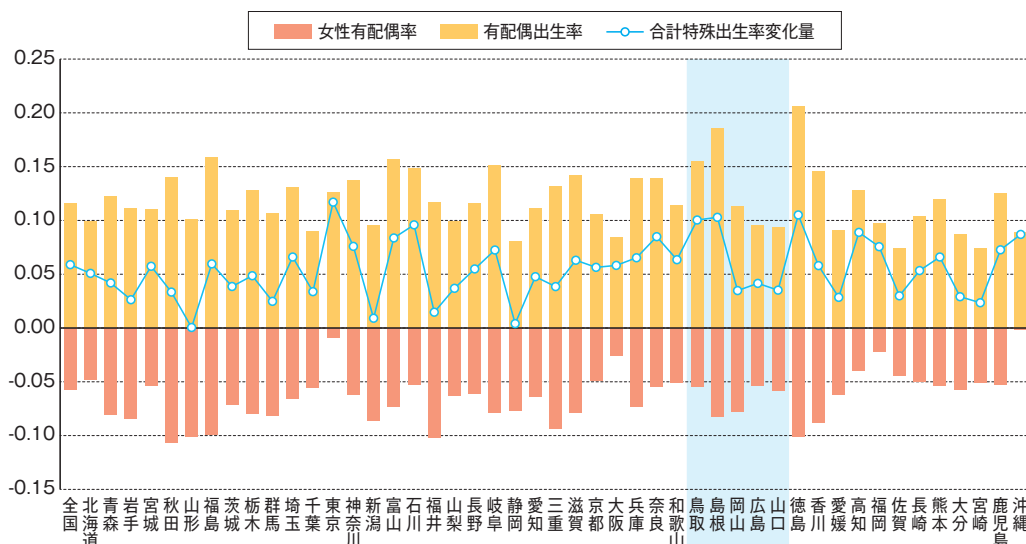


有配偶率の低下が大きく、有配偶出生率の伸びは平均的

合計特殊出生率変化量を、女性有配偶率と有配偶出生率の2要因に分けると、岡山県は有配偶率の低下量が大きく、有配偶出生率の上昇量は山陰2県との差が大きい。

有配偶率が大きな低下であったのに対して、有配偶出生率の上昇が平均的であったことが、合計特殊出生率の上昇が停滞した理由である。

合計特殊出生率変化量の女性有配偶率変化量と有配偶出生率変化量による分解（2010年～2015年）



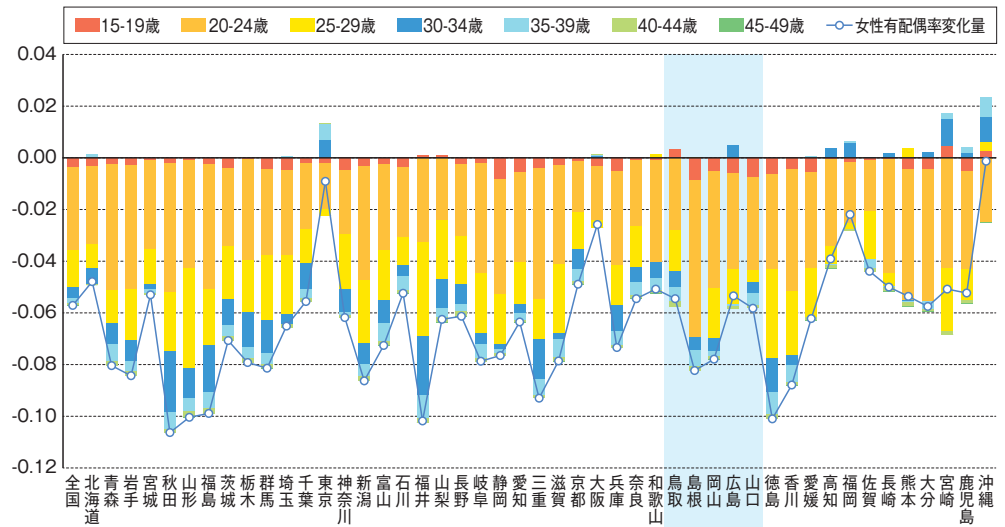
■ 25-29歳の有配偶率の低下が大きく、30-34歳の有配偶出生率上昇が小さい

女性有配偶率変化量を年齢階層別にみると、全国的に20歳代の低下がほとんどを占めている。岡山県は、中国地方の中で25-29歳の低下量が大きいことが特徴になっている。

有配偶出生率変化量は、全国的に30歳代の上昇が大きい。岡山県は30-34歳の上昇量が小さく、中国地方の中だけでなく他の都道府県と比較しても小幅な上昇になっている。

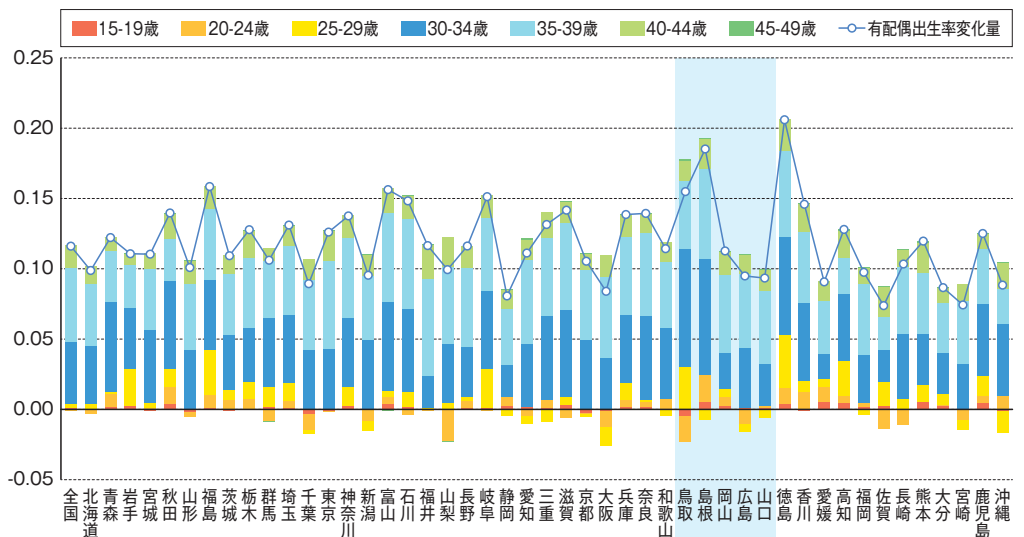
女性有配偶率

女性有配偶率変化量の年齢階層別女性有配偶率変化量による分解 (2010年～2015年)



有配偶出生率

有配偶出生率変化量の年齢階層別有配偶出生率変化量による分解 (2010年～2015年)

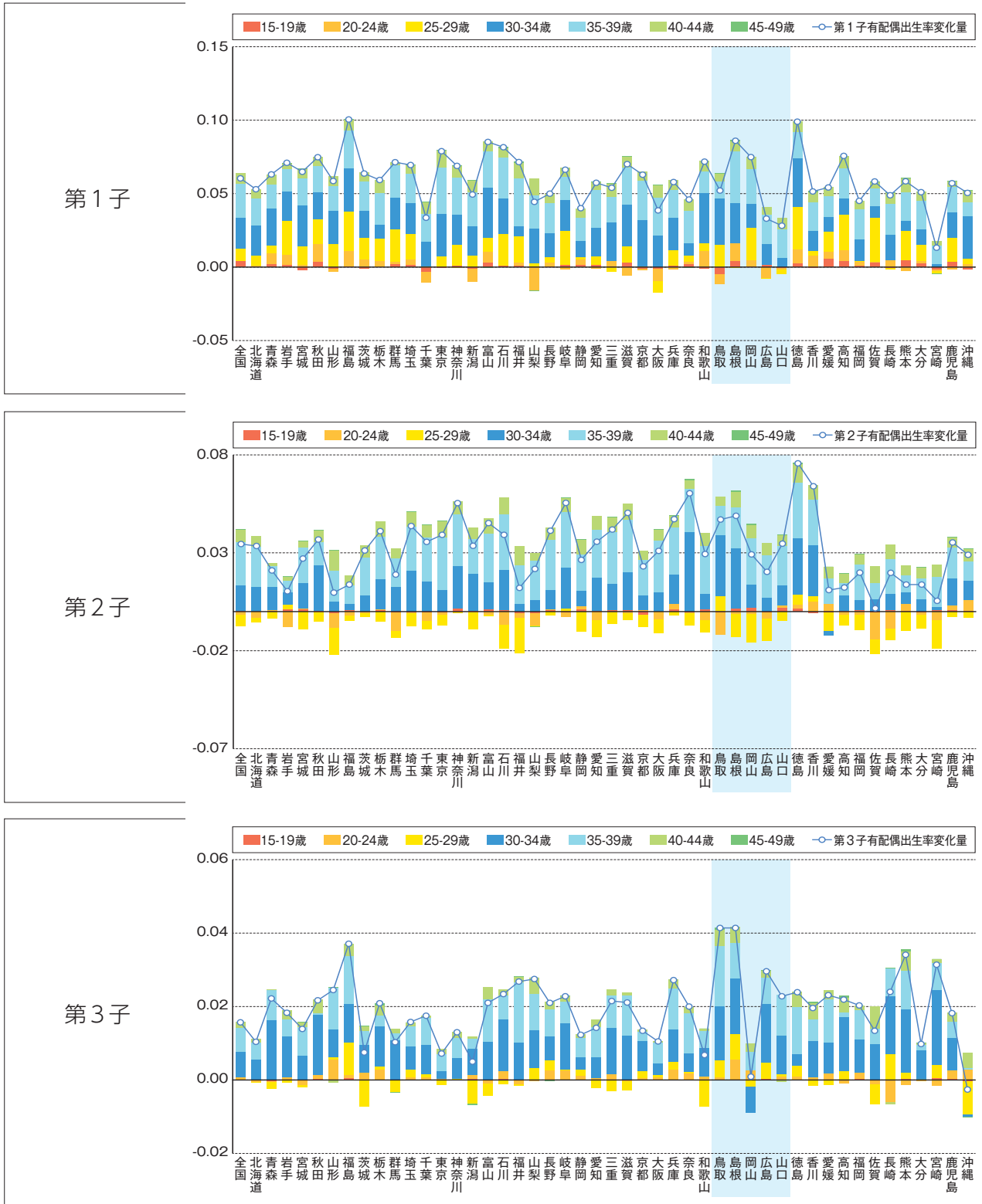


■第3子有配偶出生率の30-34歳に大きな特徴

出生順位別にみると、岡山県の第1子出生率は25-29歳の寄与が大きい。代わりに、第2子出生率の25-29歳の寄与が大きなマイナスであり、岡山県では25-29歳における出生が第2子から第1子へシフトしている。

第3子出生率に対して30-34歳の寄与が大きなマイナスになっている。これほど大きな減少量は、全国的にもみられない。

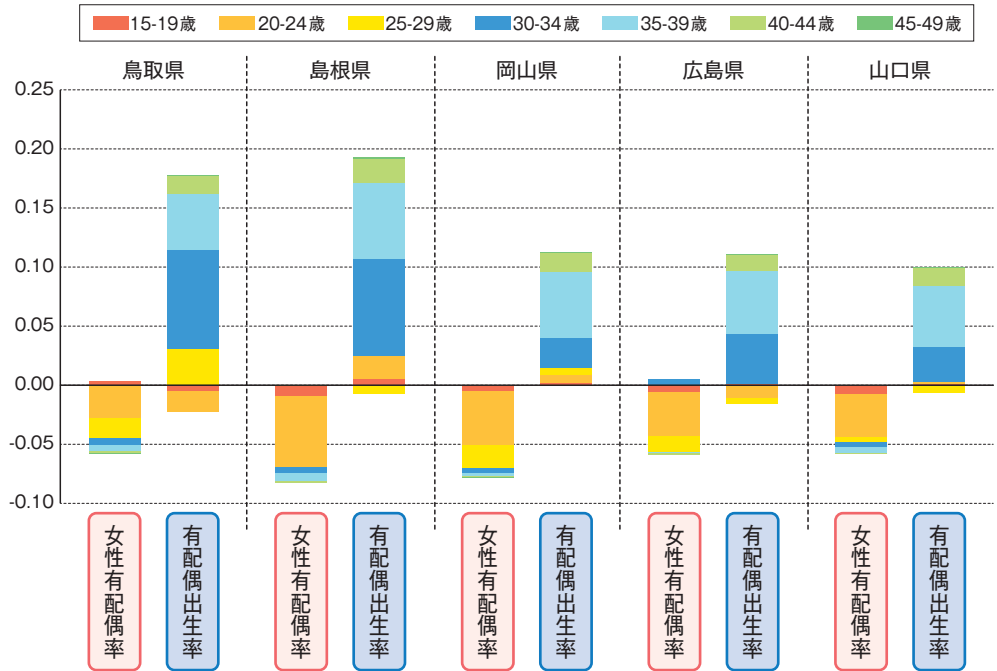
出生順位別有配偶出生率変化量の年齢階層別有配偶出生率変化量による分解
(2010年～2015年)



■分析のまとめ

2010年から2015年に、岡山県の合計特殊出生率の上昇量が中国地方の中で最も小さかった理由は、20歳代の女性有配偶率が低下する中で、他県と比べ、25-29歳の低下量が大きく、これに30-34歳の有配偶出生率の上昇量が小幅であったことが組み合わさったためである。

合計特殊出生率変化量の年齢階層別女性有配偶率変化量と年齢階層別有配偶出生率変化量による分解（2010年～2015年）



(注) 県ごとに2本の棒グラフを足し合わせると、合計特殊出生率全体の変化量になる。

(3) 合計特殊出生率に対する社会経済要因の影響分析

合計特殊出生率を決める出生構造要因の分析結果を踏まえ、ここでは、都道府県の女性有配偶率や有配偶出生率に対して影響を及ぼす社会経済要因を明らかにして、岡山県の特徴を把握した。

■分析の進め方

①社会経済要因に関する理論・仮説の整理

様々な社会経済指標と、女性有配偶率や有配偶出生率との関係を分析するため、まず、先行研究・既存文献を調べ、有配偶率や有配偶出生率を決定する理論・仮説を整理することにより、分析の因果関係を明らかにした。

②指標の収集と単回帰分析の実施

理論・仮説が示す決定要因をよく表すと考えられる社会経済指標をできるだけ多く収集した。分析の再現性や施策評価の容易さを重視して、社会経済指標は官庁統計を中心に収集を行った。収集した社会経済指標により女性有配偶率や有配偶出生率に対して単回帰分析¹⁾を行い、理論・仮説が示す因果関係の可能性について確認した。

③一部の指標の縮約化

単回帰分析の結果を踏まえ、主成分分析²⁾により一部の指標の縮約化を行った。指標の縮約化を行う理由は、いくつかの指標は、一つの概念としてまとめる方が施策の方向を検討する上で有効と考えられるためである。

④独立変数となる代表指標の選択

一部の指標を主成分分析により縮約化する一方で、単回帰分析の結果に基づく指標の説明力や分かりやすさを考慮して、次の重回帰分析³⁾に利用する独立変数となる代表指標を選んだ。政策形成に対する活用のしやすさを重視した本分析の特徴である。

⑤重回帰分析による決定要因の分析

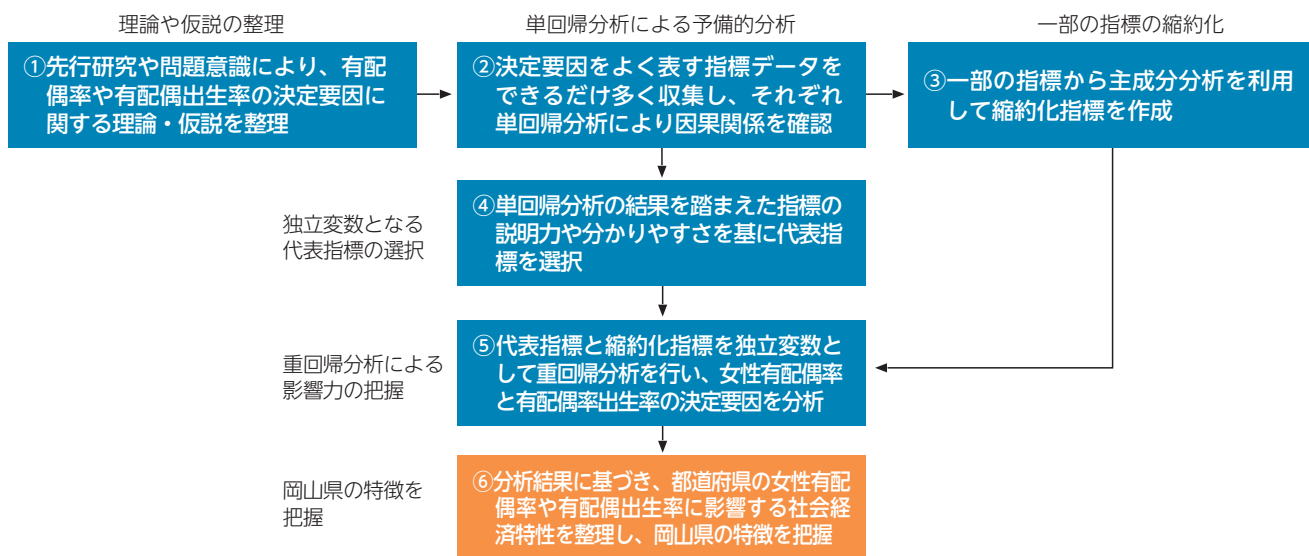
代表指標や主成分分析による縮約化指標を用いて、女性有配偶率および有配偶出生率に対して重回帰分析を実施し、女性有配偶率や有配偶出生率の決定要因を把握した。

⑥岡山県の特徴の把握

重回帰分析の独立変数に用いた指標について岡山県の標準得点を算出し、中国地方の他県と比較を行うことにより、岡山県の特徴を把握した。

なお、回帰分析に当たって検討を行った理論・仮説は、市町村分析の検討と合わせて、資料編にまとめた。

分析の手順



1) 単回帰分析：二つの指標の間に、どちらかが原因（独立変数）、他方が結果（従属変数）という一方的な因果関係を想定し、その関係式を求める統計的手法。

2) 主成分分析：指標間の関係性を利用して元より数の少ない指標を作り出す統計的手法であり、単位やばらつきの異なる指標を縮約化する。

3) 重回帰分析：二つの指標の間に因果関係を想定する単回帰分析に対して、原因となる指標が複数あるときの回帰分析。

重回帰分析の結果

重回帰分析の結果を下表に示した。独立変数のうち、人口性比、学生割合、平均初婚年齢、就業者一人当たり雇用者所得、世帯主35歳未満二人以上世帯年間収入、男性の正規雇用割合、0-5歳児保育所入所率、多子世帯割合がそれぞれの分野からの代表指標であり、男性のゆとりと家事・育児参加、家族・地域のきずな力が主成分分析による縮約化指標である。

下表は、表側が独立変数、表頭が従属変数であり、各従属変数に対する重回帰分析の結果は、表を縦方向にみる。例えば、20-24歳女性有配偶率に対しては、15-24歳人口に占める学生割合、就業者一人当たり雇用者所得、多子世帯割合が独立変数として有意（有意判定）であり、その影響力の大きさが標準偏回帰係数として表されている。

従属変数に同じものが複数ある場合は、同じ従属変数に対して複数の重回帰分析の結果が得られたことを示す。

女性有配偶率および有配偶出生率（2015年）に影響する社会経済指標（重回帰分析の結果）

項目		従属変数												
		女性有配偶率					有配偶出生率							
		20 24 歳	25 29 歳①	25 29 歳②	30 34 歳①	30 34 歳②	35 39 歳	25-29歳		30-34歳				
						第1子	第2子	第3子①	第3子②	第1子	第2子	第3子		
独立 変 数	人口構造	①人口性比（男/女）	**	**	**	**	**							
		②15-24歳人口に占める学生割合	**	**		**								
		③平均初婚年齢						**	**	**	**	**		
	経済	④就業者一人当たり雇用者所得 （世帯主35歳未満二人以上世帯年間収入）	**	**	*			**				*	**	
		⑤男性の正規雇用割合		**		**	**						**	
	共働き支援	⑥0-5歳児保育所入所率						**					**	**
	ゆとりと きずな	⑦男性のゆとりと家事・育児参加							*					
		⑧家族・地域のきずな力			*		*							*
	慣性効果	⑨多子世帯割合	**	**	*	**	*	**	**	**	**	*	**	**

P値¹⁾に基づく
有意判定

** : 1%水準で有意
* : 5%水準で有意

項目		従属変数												
		女性有配偶率					有配偶出生率							
		20 24 歳	25 29 歳①	25 29 歳②	30 34 歳①	30 34 歳②	35 39 歳	25-29歳		30-34歳				
						第1子	第2子	第3子①	第3子②	第1子	第2子	第3子		
独立 変 数	人口構造	①人口性比（男/女）	0.29	0.37	0.46	0.60	0.56							
		②15-24歳人口に占める学生割合	-0.50	-0.36		-0.24								
		③平均初婚年齢						0.58	-0.60	-0.30	-0.28	0.82		
	経済	④就業者一人当たり雇用者所得 （世帯主35歳未満二人以上世帯年間収入）	-0.42	-0.43	-0.30		0.28					0.21	0.64	
		⑤男性の正規雇用割合		0.27		0.60	0.59	0.64					0.49	
	共働き支援	⑥0-5歳児保育所入所率							0.33				0.46	0.26
	ゆとりと きずな	⑦男性のゆとりと家事・育児参加								0.17				
		⑧家族・地域のきずな力			0.36		0.25							0.20
	慣性効果	⑨多子世帯割合	0.24	0.22	0.27	0.50	0.31	0.54	0.18	0.63	0.52	0.22	0.54	0.59
決定係数 ³⁾		0.72	0.82	0.54	0.74	0.39	0.63	0.28	0.88	0.75	0.78	0.75	0.45	0.81

標準偏回帰係数²⁾

- 「平均初婚年齢」は、男性と女性の平均初婚年齢の平均値
- 25-29歳第2子、25-29歳第3子②、30-34歳第3子の有配偶出生率に対しては、就業者一人当たり雇用者所得の代わりに、世帯主35歳未満二人以上世帯年間収入を独立変数に用いた
- 「男性のゆとりと家事・育児参加」は、25-34歳の男性を対象とした通勤時間、就業時間、家事時間、育児時間の縮約化指標
- 「家族・地域のきずな力」は、3世代世帯比率、人口1万人当たり消防団員数、人口1万人当たり窃盗犯認知件数の縮約化指標
- 「多子世帯割合」は、夫婦と子供のいる一般世帯のうち3子以上の子供と同居している世帯の割合
- 独立変数である人口性比と男性の正規雇用割合の年齢階層は従属変数と合致している
- 空欄は独立変数に用いていないことを示す

- 1) P値：二つの変数の間に関係がある言い切ったときの危険度であり、因果関係があることの確かさを表わす。例えば、P値に基づく有意判定が「1%水準で有意」とされると、二つの変数の間に因果関係がない確率は1%未満である。
- 2) 標準偏回帰係数：独立変数の従属変数に対する影響力の強さを比較する係数。独立変数が標準偏差1つ分変化したときに従属変数の標準得点（次ページ参照）がどれくらい変化するかを示す。このため、変数の単位に依存せずに独立変数間の影響の大きさを比較できる。プラスであれば、独立変数が増加すると従属変数は増加し、マイナスであれば独立変数が増加すると従属変数は減少する。
- 3) 決定係数：独立変数全体の従属変数に対する説明力を示す。0から1の間の値をとり、1に近いほど説明力が高い。表中の決定係数は自由度修正済み決定係数。

■岡山県の特徴

重回帰分析に用いた独立変数について、都道府県データによる標準得点を求めた。下表は、算出した標準得点のうち中国地方5県を抜き出したものである。

標準得点はゼロを下回ると都道府県平均を下回ることを意味し、岡山県は人口性比と初婚年齢がマイナスになっている。特に人口性比は、35-39歳を除いて中国地方5県の中で値が最も小さい。また、山陰2県との比較では、学生割合、就業者一人当たり雇用者所得、世帯主35歳未満二人以上世帯年間収入、0-5歳児保育所入所率、家族・地域のきずな力の差が大きい。

中国地方5県の社会経済指標の相対的な大きさ（標準得点）

社会経済指標		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県
①人口性比（男/女）	15-19歳	2.57	2.39	-1.01	0.21	0.57
	20-24歳	0.95	0.70	-1.04	0.16	1.08
	25-29歳	0.08	0.44	-0.58	0.26	0.53
	30-34歳	0.03	0.55	-0.38	0.31	-0.16
	35-39歳	0.18	0.92	-0.16	-0.09	-0.46
	40-44歳	0.00	0.59	-0.09	-0.05	-0.18
	45-49歳	-0.12	0.46	-0.26	0.12	-1.04
②15-24歳人口に占める学生割合	-0.28	-0.51	0.43	0.49	-0.21	
③平均初婚年齢	-0.21	-0.50	-0.67	-0.47	-1.18	
④就業者一人当たり雇用者所得 （世帯主35歳未満二人以上世帯年間収入）	-0.94	-0.93	0.01	0.06	0.19	
⑤男性の正規雇用割合	15-19歳	0.48	0.95	0.35	-0.44	1.37
	20-24歳	-0.07	0.81	0.64	0.10	1.03
	25-29歳	-0.64	0.84	0.83	0.78	1.12
	30-34歳	-0.08	0.82	0.73	0.66	1.06
	35-39歳	0.15	0.42	0.82	0.74	1.24
	40-44歳	-0.45	0.26	0.88	0.84	1.18
	45-49歳	-0.31	0.15	0.89	0.91	1.17
⑥0-5歳児保育所入所率	1.18	2.58	0.12	-0.18	-0.39	
⑦男性のゆとりと家事・育児参加	0.82	1.14	0.88	0.75	0.77	
⑧家族・地域のきずな力	0.45	1.29	0.30	-0.35	0.01	
⑨多子世帯割合	0.60	0.78	0.58	-0.25	-0.07	

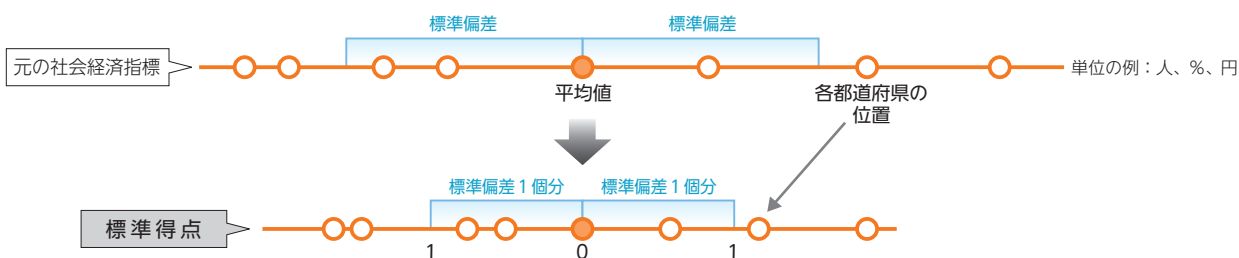
（注）色の岡山県の社会経済指標は、山陰2県の平均と0.5ポイント以上の差がある

標準得点とは

$$\text{標準得点 } Z_i = \frac{x_i - \bar{x}}{s}$$

x_i は個々のデータ、 \bar{x} は平均値、 s は標準偏差

- 標準得点は、都道府県の社会経済指標の分布を、平均が0、標準偏差が1の分布に変換したものである。
- したがって、標準得点がプラスであれば平均を上回り、マイナスであれば平均を下回る。
- 標準得点は各都道府県の社会経済指標の値が平均から標準偏差何個分離れているかを表すため、指標の単位やばらつき方が異なっても、指標間で各都道府県の位置の比較が可能になる。



分析結果のまとめ

社会経済要因	分析結果の解釈
①人口性比 (男/女)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 当該年齢階層の性比であり、男/女で算出される。人口性比は男女の出会いの機会に影響すると考えられる。人口性比と就業者性比は相関が強く、特に職場での出会いの機会に影響していることが考えられる。 ■ 分析では25歳以上の女性有配偶率に強く影響している。 <p>[岡山県の特徴] 岡山県は各年齢階層で全国に比較して男性割合が小さく、女性有配偶率を低める方向に働いている。30歳代前半まで、中国地方の中で男性割合が最も低い。</p>
②15-24歳人口に占める学生割合	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生割合が高いほど有配偶率が低下することは明らかであり、学生割合の影響を除いた上で、他の要因が有配偶率に与える影響を把握するため分析に含めた。 ■ 20歳から30歳代前半まで、女性有配偶率を低める方向に働いている。 <p>[岡山県の特徴] 全国平均以上に学生割合が高いのは中国地方では岡山県と広島県であり、岡山県の女性有配偶率を低める方向に働いている。</p>
③平均初婚年齢	<ul style="list-style-type: none"> ■ 平均初婚年齢が高いほど有配偶出生率が低下することも明らかであり、平均初婚年齢の影響を除いた上で、他の要因が有配偶出生率に与える影響を把握するため分析に含めた。 ■ 25-29歳の第2子と第3子の有配偶出生率を低める方向に働いている。 <p>[岡山県の特徴] 岡山県の平均初婚年齢は都道府県平均より低く、中国地方の中では山口県に次いで低い。</p>
④就業者一人当たり雇 用者所得 (世帯主35歳未 満二人以上世帯 年間収入)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 所得に関しては、結婚や子供を持つことによる機会費用の上昇等を通じて高い所得が有配偶率や有配偶出生率を低下させるという理論・仮説と、結婚や子供を持つこととの条件になるため高い所得は有配偶率や有配偶出生率を上昇させるという理論・仮説の二通りがある。 ■ 所得や収入を用いた都道府県の分析では、女性有配偶率は、20歳代で負、35-39歳で正の因果関係となった。有配偶出生率は、25-29歳の第2子・第3子で負、30-34歳の第1子・第2子で正の因果関係となった。 <p>[岡山県の特徴] 岡山県の就業者一人当たり雇用者所得や世帯主35歳未満二人以上世帯年間収入はほぼ都道府県平均であるものの、山陰2県との比較では所得の高さが20歳代後半の女性有配偶率や有配偶出生率に影響している可能性が考えられる。</p>
⑤男性の正規雇用割合	<ul style="list-style-type: none"> ■ 雇用を通じた経済的安定性の見通しに関わる指標であり、分析では男性の正規雇用割合は女性有配偶率や有配偶出生率を高める方向に働いている。 <p>[岡山県の特徴] 岡山県の男性の正規雇用割合は都道府県平均を上回り、20歳代後半以降は、中国地方では広島県と同程度である。</p>
⑥0-5歳児保育所入所率	<ul style="list-style-type: none"> ■ 0-5歳児保育所入所率は、有配偶女性就業率と強い相関を持つ指標であり、共働き世帯の多さとその支援力を表わしていると考えられる。 ■ 分析では25-29歳の第2子と30-34歳の第2子・第3子有配偶出生率を高める関係が表れた。 <p>[岡山県の特徴] 岡山県の0-5歳児保育所入所率は全国をやや上回るものの、島根県とは大きな差が生じている。</p>
⑦男性のゆとりと家事・育児参加	<ul style="list-style-type: none"> ■ 25-34歳の男性を対象とした通勤時間、就業時間、家事時間、育児時間の縮約化指標であり、有配偶出生率を高める方向に働くことが期待される。「岡山県子育て家庭環境調査」(2015年)でも、夫の家事・育児の役割分担意識がある人は、多くの子供を理想とする傾向が明らかになっている。 ■ 都道府県を対象とした分析では、25-29歳の第3子有配偶出生率を高める関係が表れた。 <p>[岡山県の特徴] 岡山県は、都道府県平均を上回るものの、中国地方の中では島根県を下回っている。</p>
⑧家族・地域のさ ずな力	<ul style="list-style-type: none"> ■ 3世代世帯比率、人口1万人当たり消防団員数、人口1万人当たり窃盗犯認知件数の縮約化指標であり、社会関係性に関連した指標が含まれている。女性有配偶率や有配偶出生率を高める効果が考えられる。 ■ 都道府県を対象とした分析では、25-29歳と30-34歳の女性有配偶率と30-34歳の第3子有配偶出生率を高める関係が表れた。 <p>[岡山県の特徴] 岡山県は、都道府県平均を上回るものの、中国地方の中では島根県を大きく下回っている。</p>
⑨多子世帯割合	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多子世帯割合は、「周囲に3人以上子供を持つ家族が多いと、3人以上子供を持ちたいと思える」といった住民ヒアリング等に基づき、地域の出生率は過去や周囲の出生率に影響を受ける慣性効果が働くという仮説を設定したものである。因果関係を明確にするため、多子世帯割合は従属変数よりも過去(2010年)のデータを用いている。 ■ 分析では、女性有配偶率や有配偶出生率の両方に強く働くことが分かった。慣性効果の存在は、出生率の低い地域では過去や周囲の出生率が適止めになっていると考えられ、出生率の高さが周囲に好影響を及ぼすような出生率になるまで、施策による働き掛けが必要なことを示している。 <p>[岡山県の特徴] 岡山県が多子世帯割合は、都道府県平均を上回るものの、山陰2県を下回っている。</p>

2

市町村を対象とした
合計特殊出生率地域格差要因分析

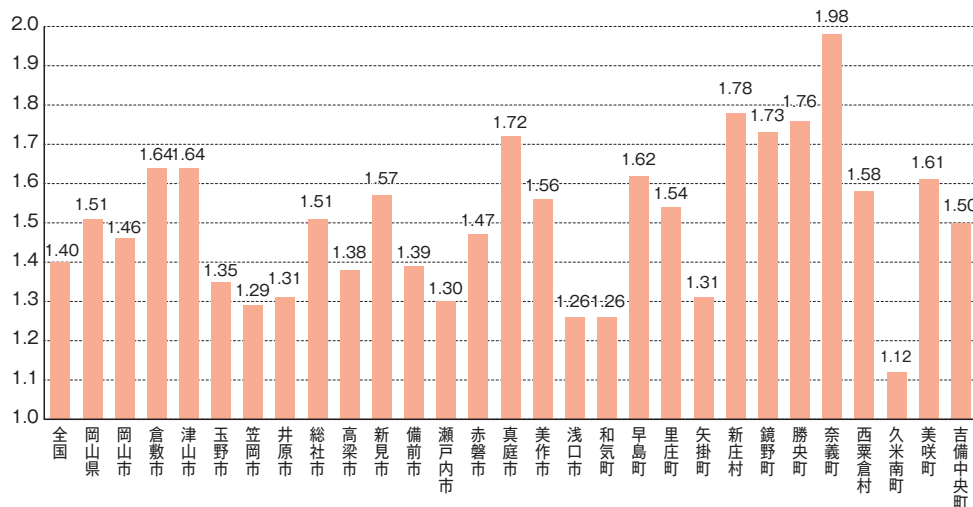
(1) 合計特殊出生率地域差の出生構造要因による分析

合計特殊出生率の地域差に影響を与えている出生構造上の要因について、県内市町村の特徴を明らかにするとともに、岡山県の分析結果との結び付きを把握した。

■合計特殊出生率の地域差が分析の出発点

2011年から2015年の出生数を集計して県内市町村の合計特殊出生率を算出した。久米南町の1.12から奈義町の1.98の間で分布しており、全国の1.40との差が分析の出発点になる。5年間の出生数を集計して合計特殊出生率を算出しても、偶然変動の影響を完全には取り除けないことに注意が必要である。

市町村の合計特殊出生率 (2011年-2015年)

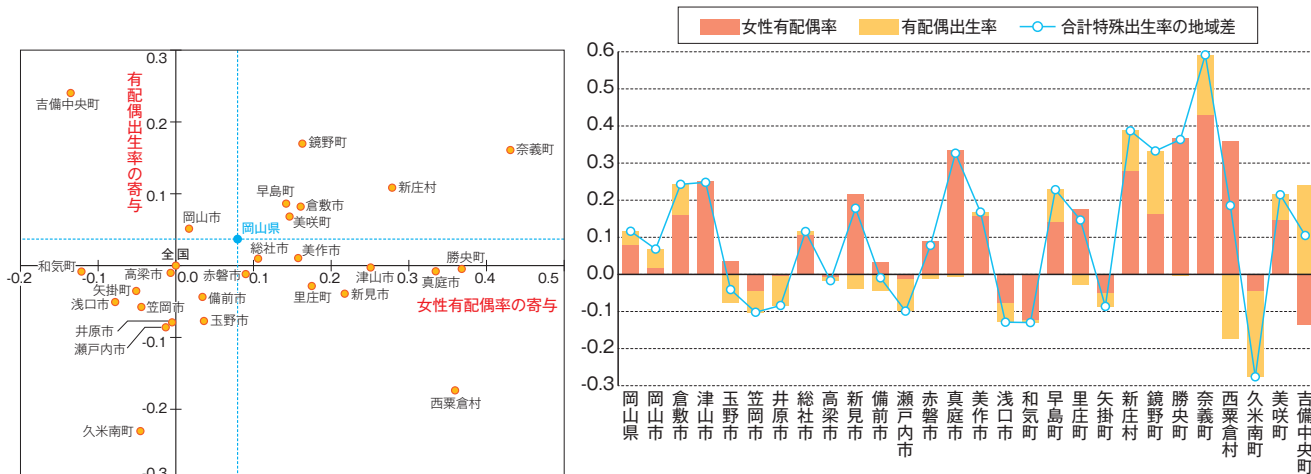


■市町村の有配偶率と有配偶出生率の分布は広い

岡山県は、山陰2県と比較して合計特殊出生率地域差の有配偶出生率の寄与が低く、女性有配偶率の寄与は山陽2県と比較しても半分程度であった。

市町村では、人口の多い岡山市の女性有配偶率が低い。加えて、全国値を下回る市町もみられる。有配偶出生率の寄与は、岡山市と倉敷市は岡山県を上回るものの、全国値を下回る市町村が15に達する。

合計特殊出生率地域差の女性有配偶率地域差と有配偶出生率地域差による分解 (2011-2015年)



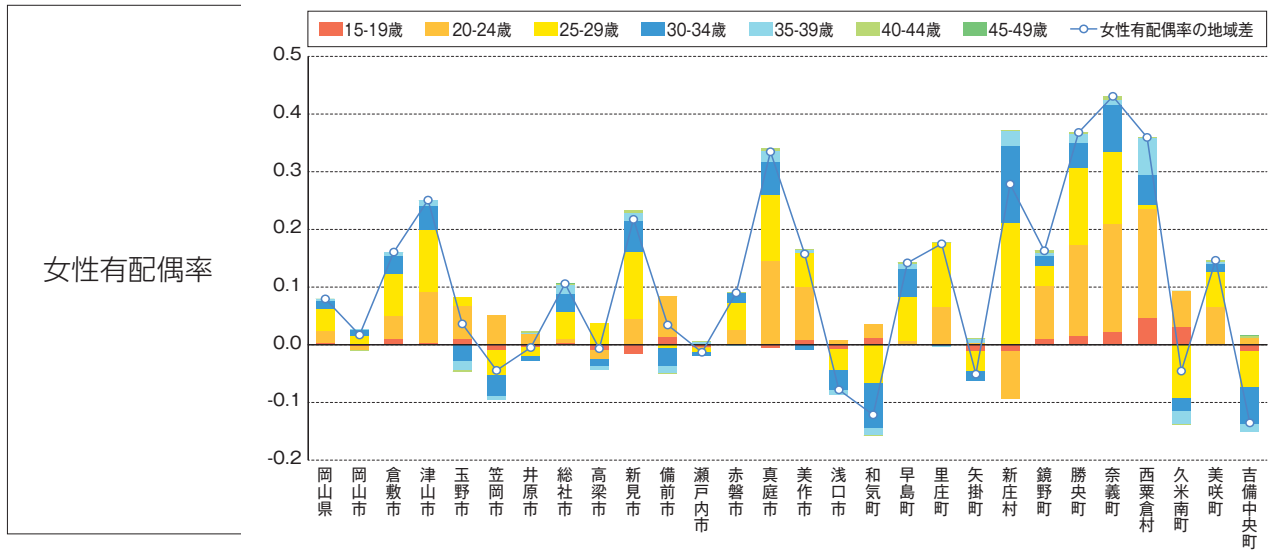
上の散布図が示すように、岡山県の合計特殊出生率は、県内市町村の女性有配偶率と有配偶出生率が集約された結果とみなすこともできる

■有配偶率は人口が多い岡山市等の影響が大きく、有配偶出生率は多くの市町村が影響

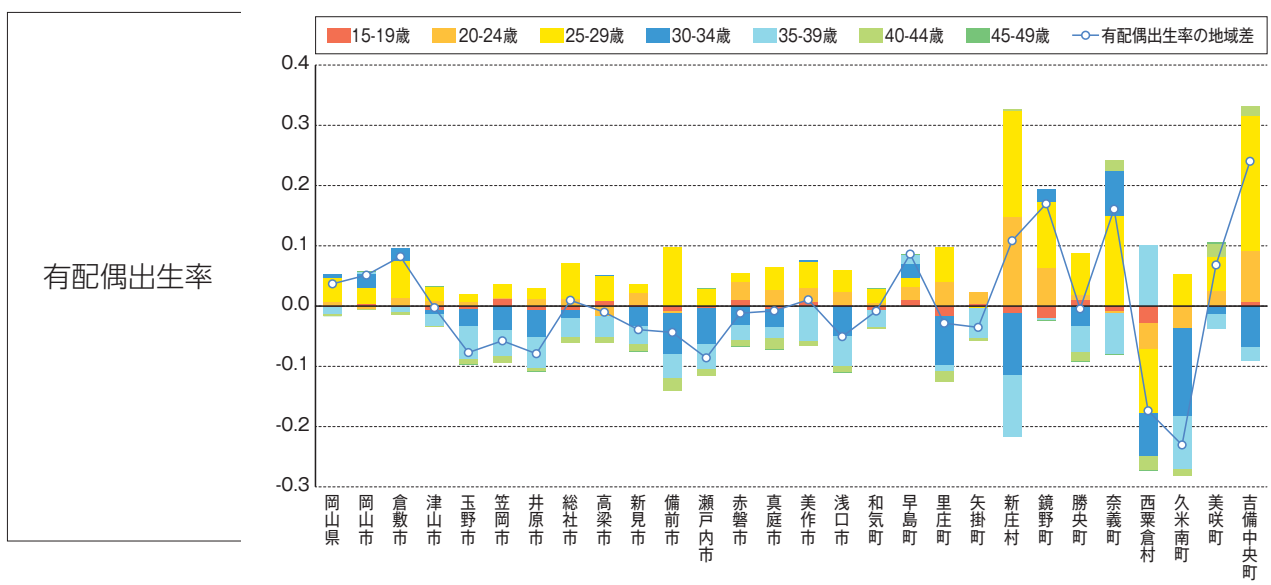
2015年の女性有配偶率は、岡山県では中国地方の中で20歳代から30歳代前半までの寄与が小さかった。2011年-2015年の市町村をみると、岡山市の25-29歳の寄与が小さい。30-34歳は、玉野市、笠岡市等、12市町が全国値を下回る。

2015年の有配偶出生率の都道府県比較では、岡山県は30歳代が全国値を下回っていた。2011年-2015年の市町村別では、岡山市と倉敷市の30-34歳の寄与は県を上回る。しかし、その他の市町村で全国値を下回るところが多い。

女性有配偶率地域差の年齢階層別女性有配偶率地域差による分解 (2011年-2015年)



有配偶出生率地域差の年齢階層別有配偶出生率地域差による分解 (2011年-2015年)



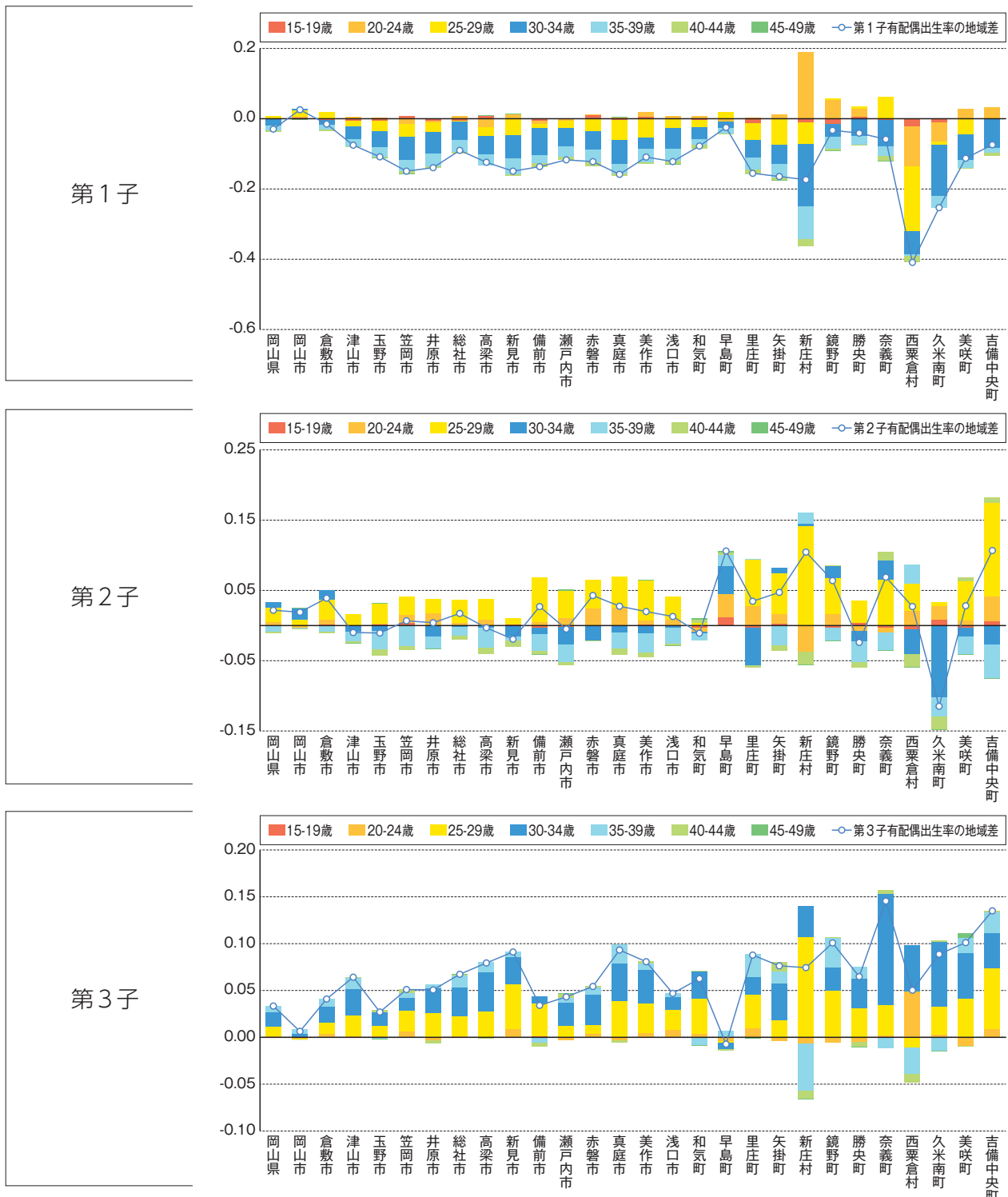
■第3子有配偶出生率への30-34歳の寄与がポイント

2015年の出生順位別有配偶出生率地域差の都道府県比較では、岡山県は山陰2県に比べ第2子の寄与が小さく、第3子の寄与は中国地方の中で最も小さいという特徴があった。

2011年-2015年の市町村別では、倉敷市、備前市、赤磐市、真庭市を除き、各市の第2子有配偶出生率の地域差が県を下回っている。年齢階層別に詳しくみると、岡山市、津山市、新見市等で第2子への25-29歳の寄与が小さくなっている。

第3子有配偶出生率は、岡山市、玉野市等の地域差が県よりも小さい。年齢階層別では、岡山市、備前市等で第3子に対する30-34歳の寄与が県よりも小さくなっている。また、倉敷市、玉野市、笠岡市、浅口市等、第3子への30-34歳の寄与が県と同程度のところも多い。

出生順位別有配偶出生率地域差の年齢階層別有配偶出生率地域差による分解
(2011年-2015年)



(2) 合計特殊出生率変化の出生構造要因による分析

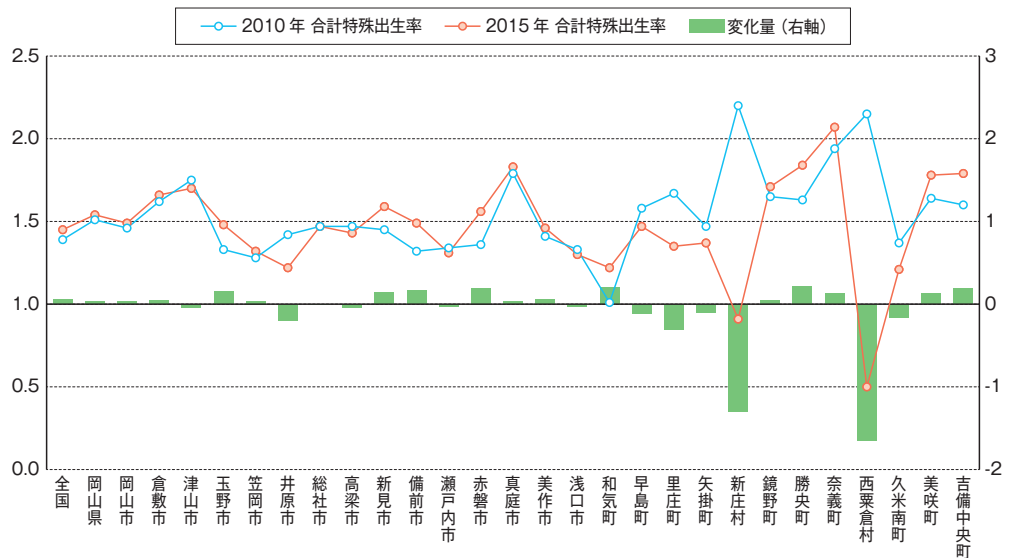
合計特殊出生率の変化に影響を与えている出生構造上の要因について、県内市町村の特徴を明らかにするとともに、岡山県の分析結果との結び付きを把握した。

■ 2010年～2015年の合計特殊出生率変化量が分析の出発点

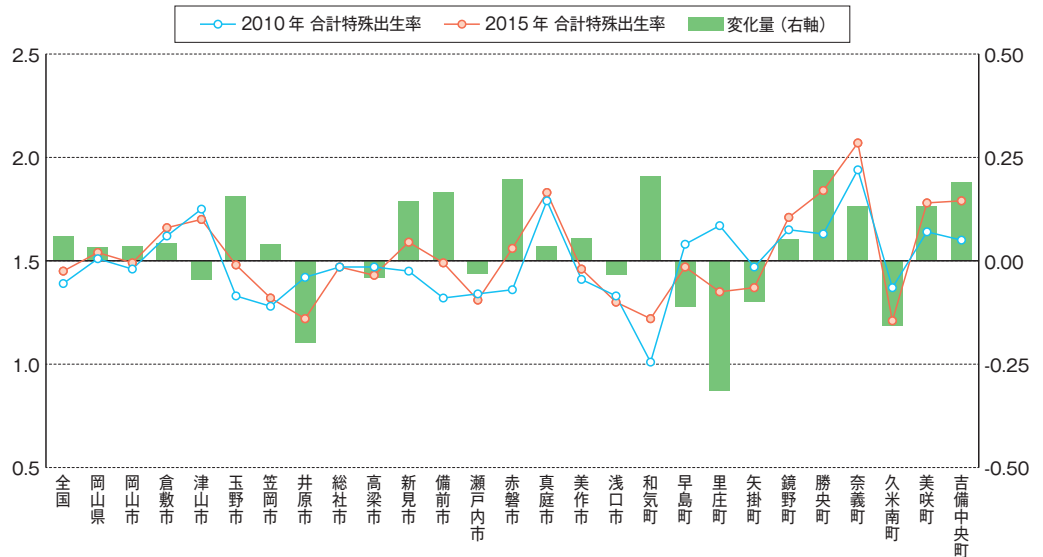
2010年と2015年を比較して、市町村の合計特殊出生率変化量を出生構造要因により分解した。岡山県の合計特殊出生率変化に対する市町村の変化の影響を把握するため、都道府県と同様、単年間の比較を行う。ただし、単年比較は偶然変動の影響が大きく、注意が必要である。

県内市町村の合計特殊出生率をみると、岡山県が増加しているのに対して、低下している市町村も多い(11市町村)。この2010年～2015年の変化量が分析の出発点である。

市町村における合計特殊出生率変化量 (2010年～2015年)



新庄村、西粟倉村を除く



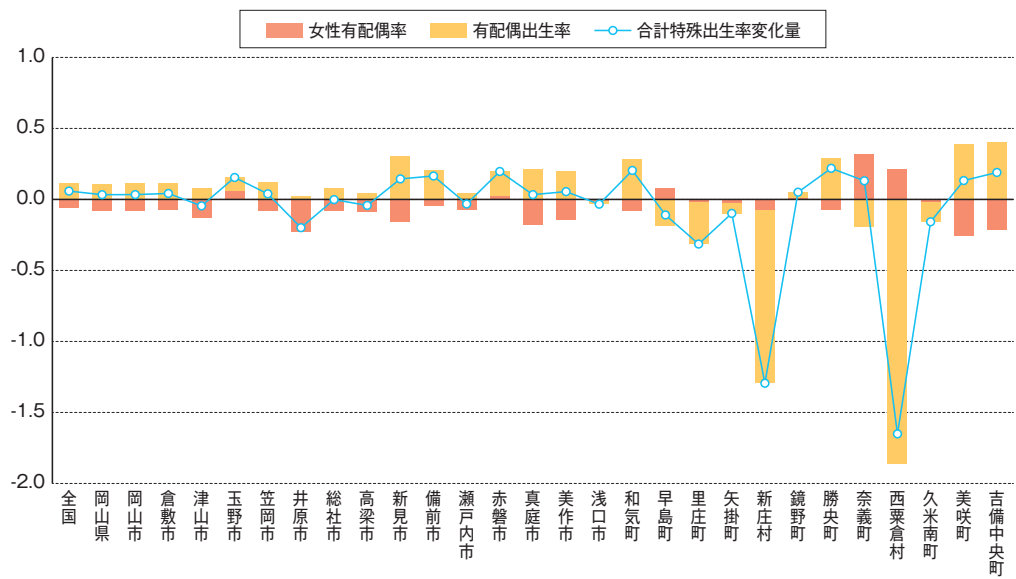
有配偶率と有配偶出生率の分解では人口の多い市が県と同じ傾向

都道府県で比較すると、岡山県は女性有配偶率の低下量が大きく、有配偶出生率の上昇量は平均的であった。

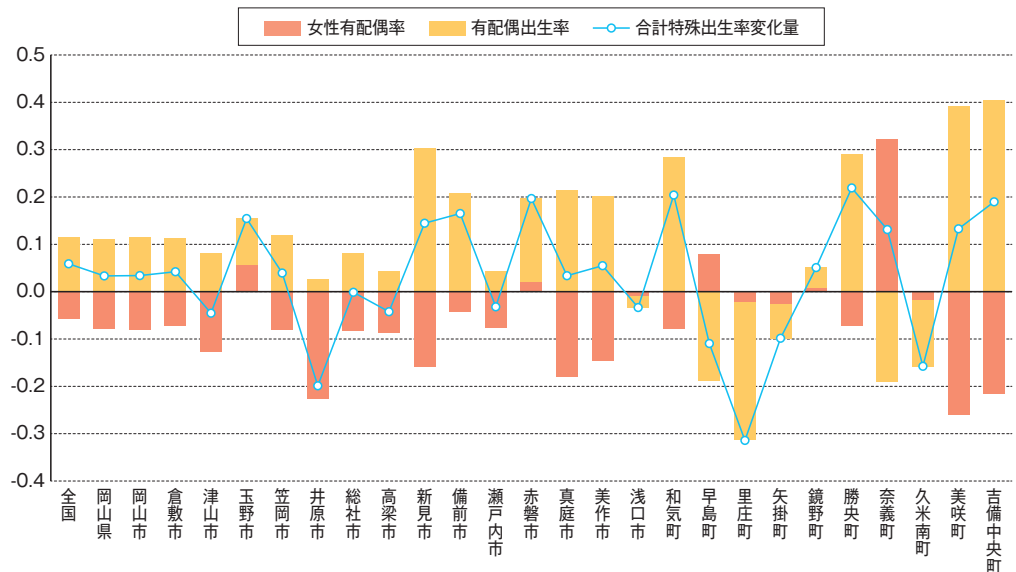
市町村別では、岡山市の有配偶率低下量が県をやや上回る。井原市、新見市、真庭市、美作市等では、有配偶率が大きく低下している。

有配偶出生率は、市部ではほとんど上昇となっている。人口の多い岡山市と倉敷市の変化量は県と同程度である。早島町、里庄町、新庄村、西栗倉村等、主に小規模の町村で有配偶出生率が低下しているものの、偶然変動の可能性も考えられる。

合計特殊出生率変化量の女性有配偶率変化量と有配偶出生率変化量による分解
(2010年～2015年)



新庄村、西栗倉村を除く



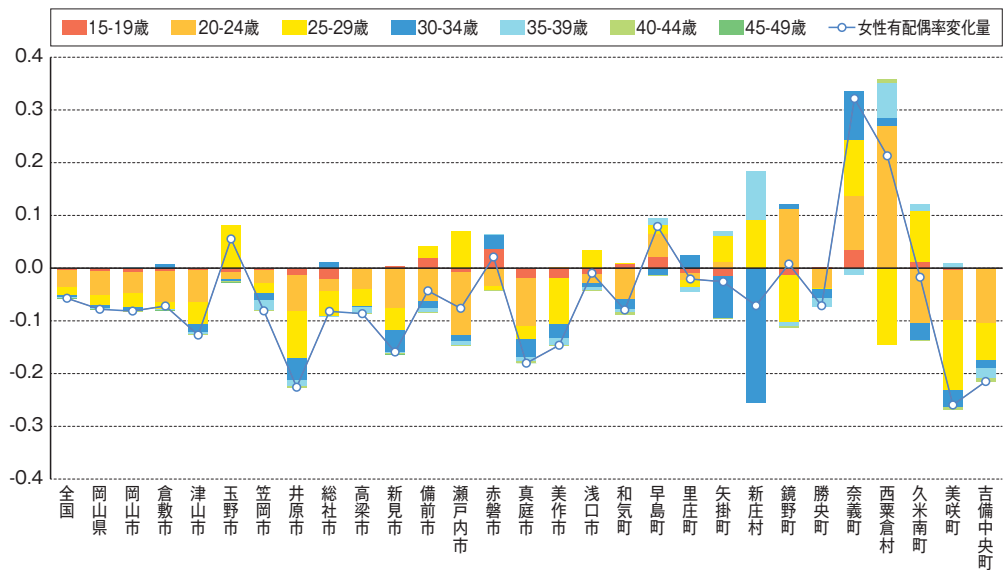
20歳代を通じて有配偶率の低下が大きい

岡山県は中国地方の中で25-29歳女性有配偶率の低下量が大きいことが特徴であった。

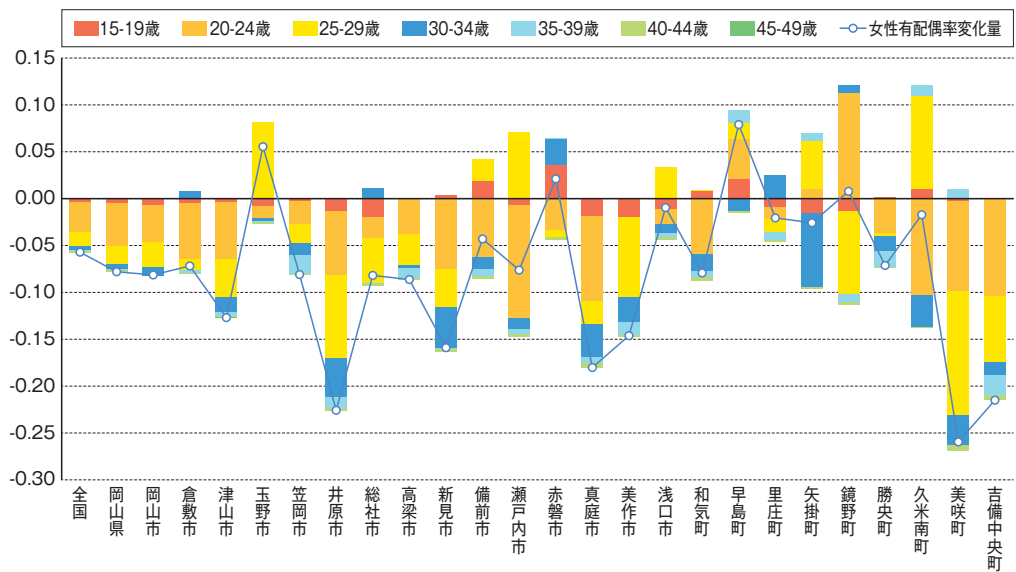
市町村をみると、人口の多い岡山市で25-29歳有配偶率の低下量が県より大きい。20-24歳は倉敷市の低下量が全体に影響しているとみられる。津山市、井原市、真庭市等、20歳代を通じて低下量が大きな市もある。

一方で、早島町、奈義町等では20歳代の有配偶率が上昇している。

女性有配偶率変化量の年齢階層別女性有配偶率変化量による分解
(2010年～2015年)



新庄村、奈義町、西栗倉村を除く

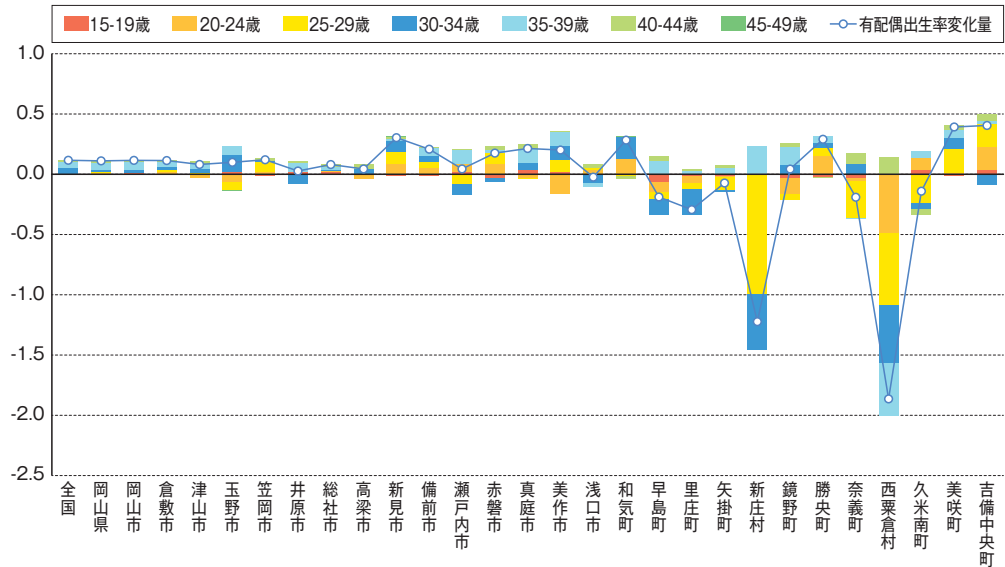


■人口の多い市で30-34歳の有配偶出生率が伸びていない

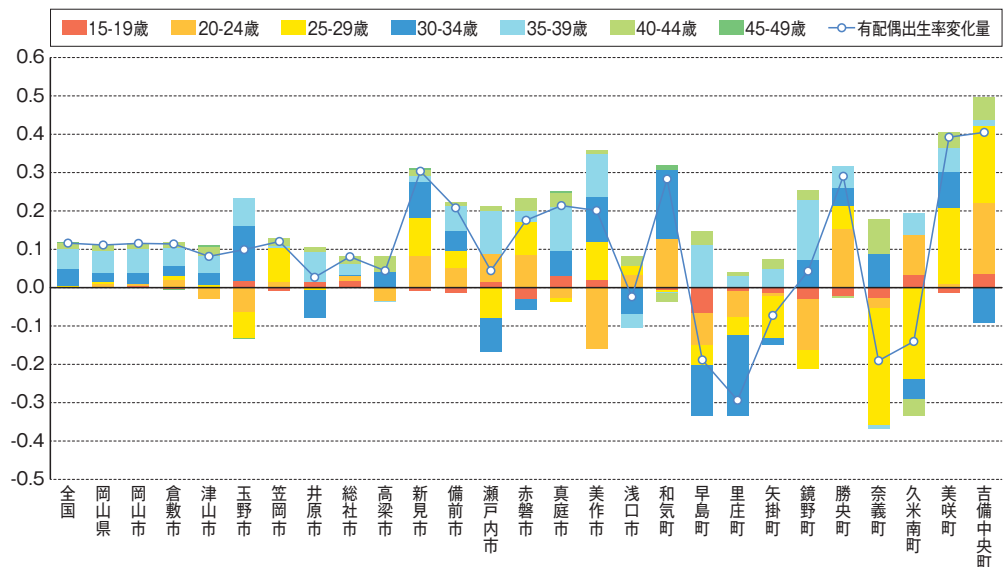
都道府県の有配偶出生率は全国的に30歳代の上昇量が大きく、その中で岡山県は30-34歳の上昇量が小さかった。

市町村では、井原市、瀬戸内市等で30-34歳の有配偶出生率が低下している。岡山市は県全体をいくらか上回るものの、人口の多い市では、倉敷市、笠岡市、総社市等の30-34歳有配偶出生率の上昇量が小さい。

有配偶出生率変化量の年齢階層別有配偶出生率変化量による分解
(2010年～2015年)



新庄村、西粟倉村を除く

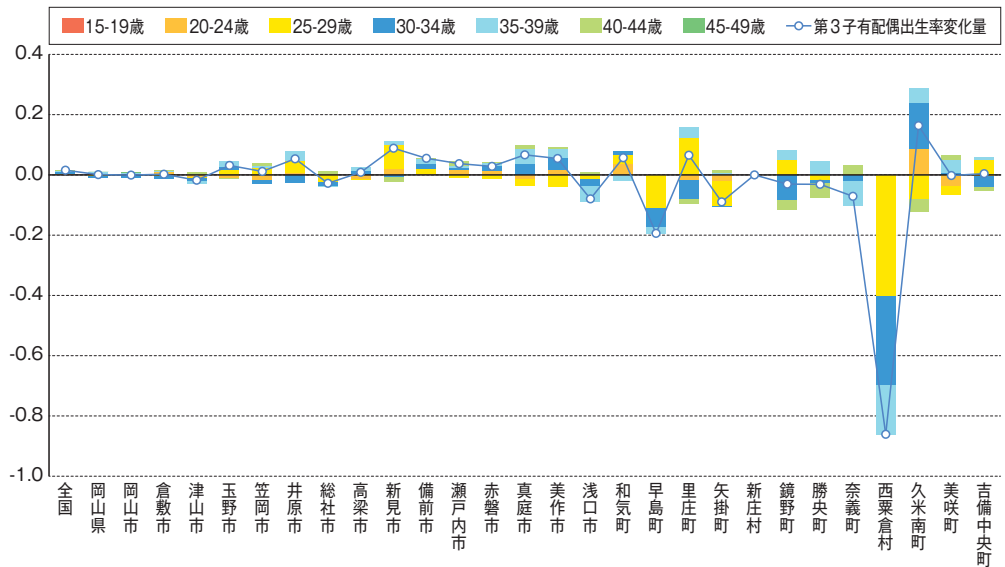


■第3子30-34歳有配偶出生率は人口の多い市で県と同程度の低下

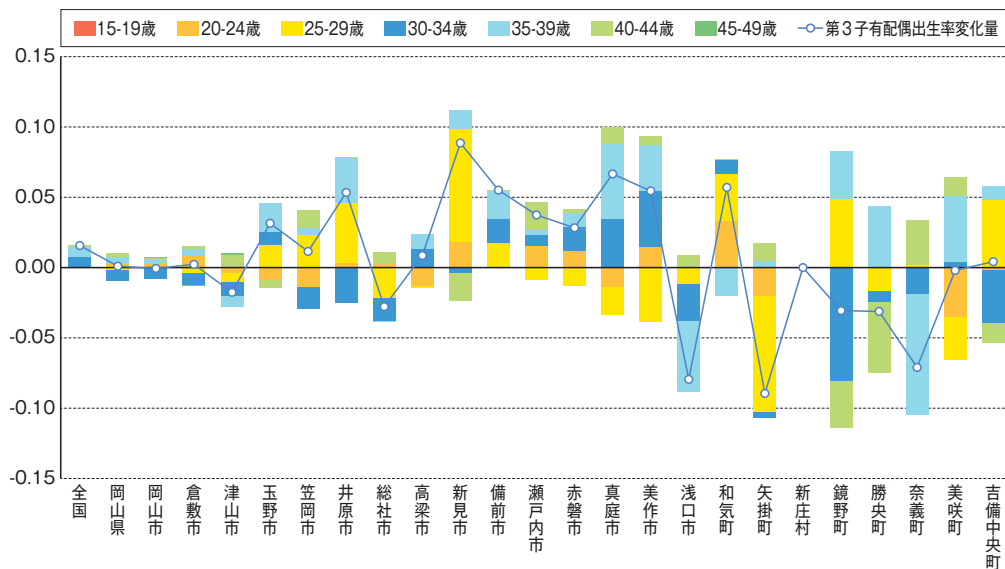
岡山県の出生率変化の最も大きな特徴は、第3子30-34歳有配偶出生率が低下していることであった。県内市町村では、岡山市、倉敷市、津山市といった人口の多い市で県と同程度の低下が発生している。

また、笠岡市、井原市、総社市、浅口市、早島町等では、第3子30-34歳有配偶出生率が県よりも大きく低下している。

第3子有配偶出生率変化量の年齢階層別有配偶出生率変化量による分解



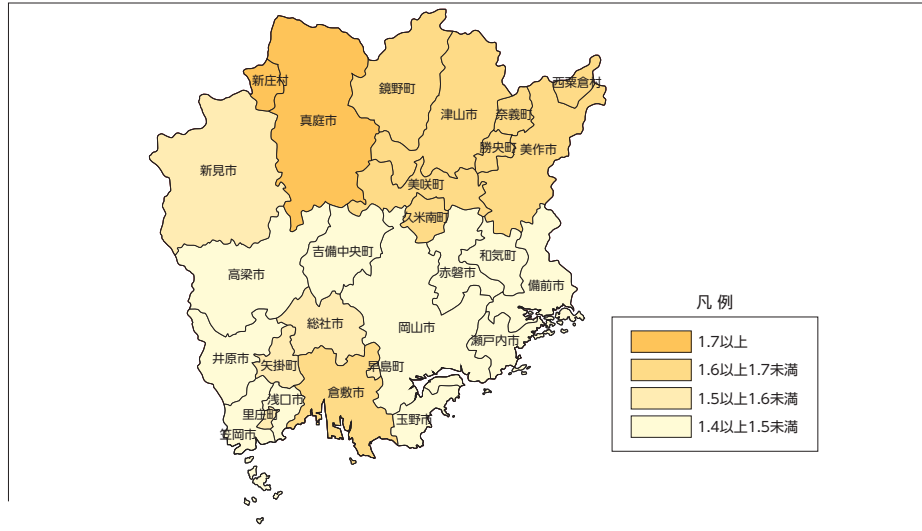
早島町、里庄町、西栗倉村、
久米南町を除く



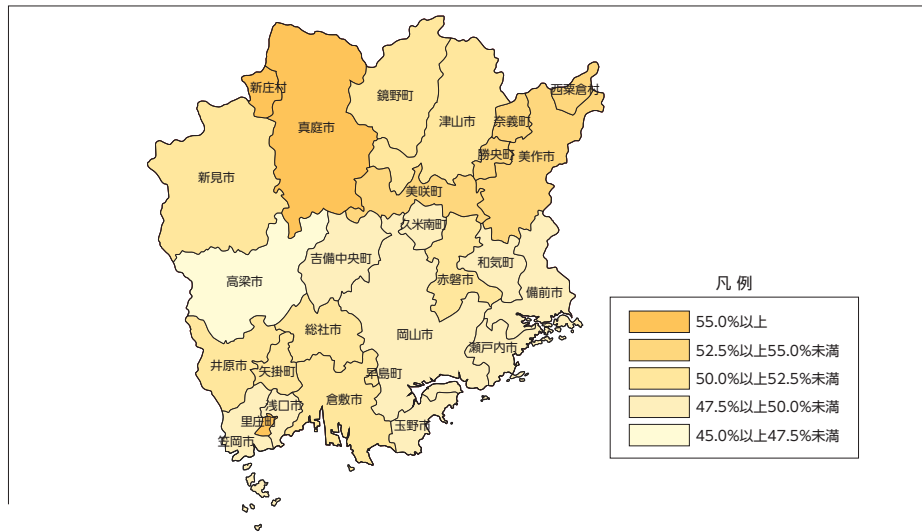
(3) 合計特殊出生率に対する社会経済要因の影響分析

合計特殊出生率を分解した出生構造要因の分析結果を踏まえ、ここでは、ベイズ推定を行った県内市町村の女性有配偶率や有配偶出生率に対し影響を及ぼしている社会経済特性を定量的に把握し、要因の「見える化」を行った。

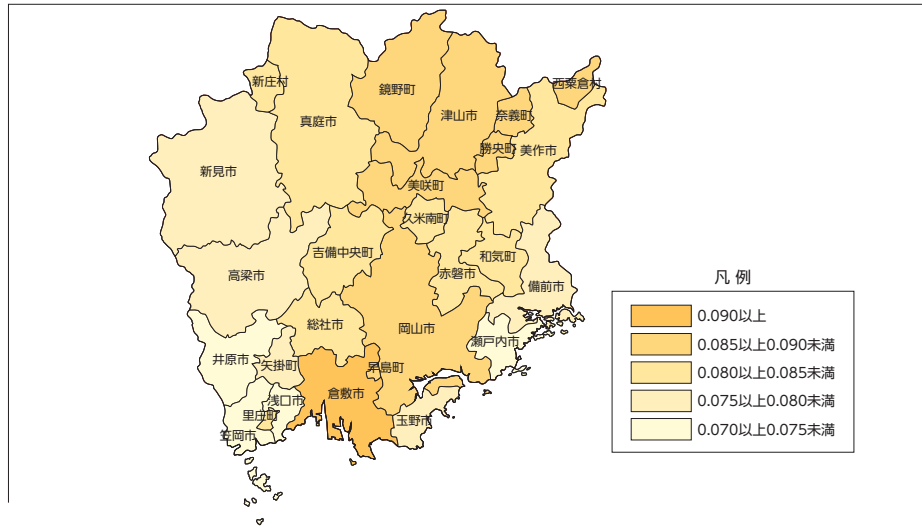
合計特殊出生率（2011-2015年、二次保健医療圏によるベイズ推定値）



15-49歳女性有配偶率（2011-2015年、通勤圏によるベイズ推定値）



15-49歳有配偶出生率（2011-2015年、二次保健医療圏によるベイズ推定値）



【二次保健医療圏】

- 県南東部 岡山市、玉野市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気町、吉備中央町
- 県南西部 倉敷市、笠岡市、井原市、総社市、浅口市、早島町、里庄町、矢掛町
- 高梁・新見 高梁市、新見市
- 真庭 真庭市、新庄村
- 津山・英田 津山市、美作市、鏡野町、勝央町、奈義町、西栗倉村、久米南町、美咲町

【通勤圏】

(2010年国勢調査の通勤状況を基に作成)

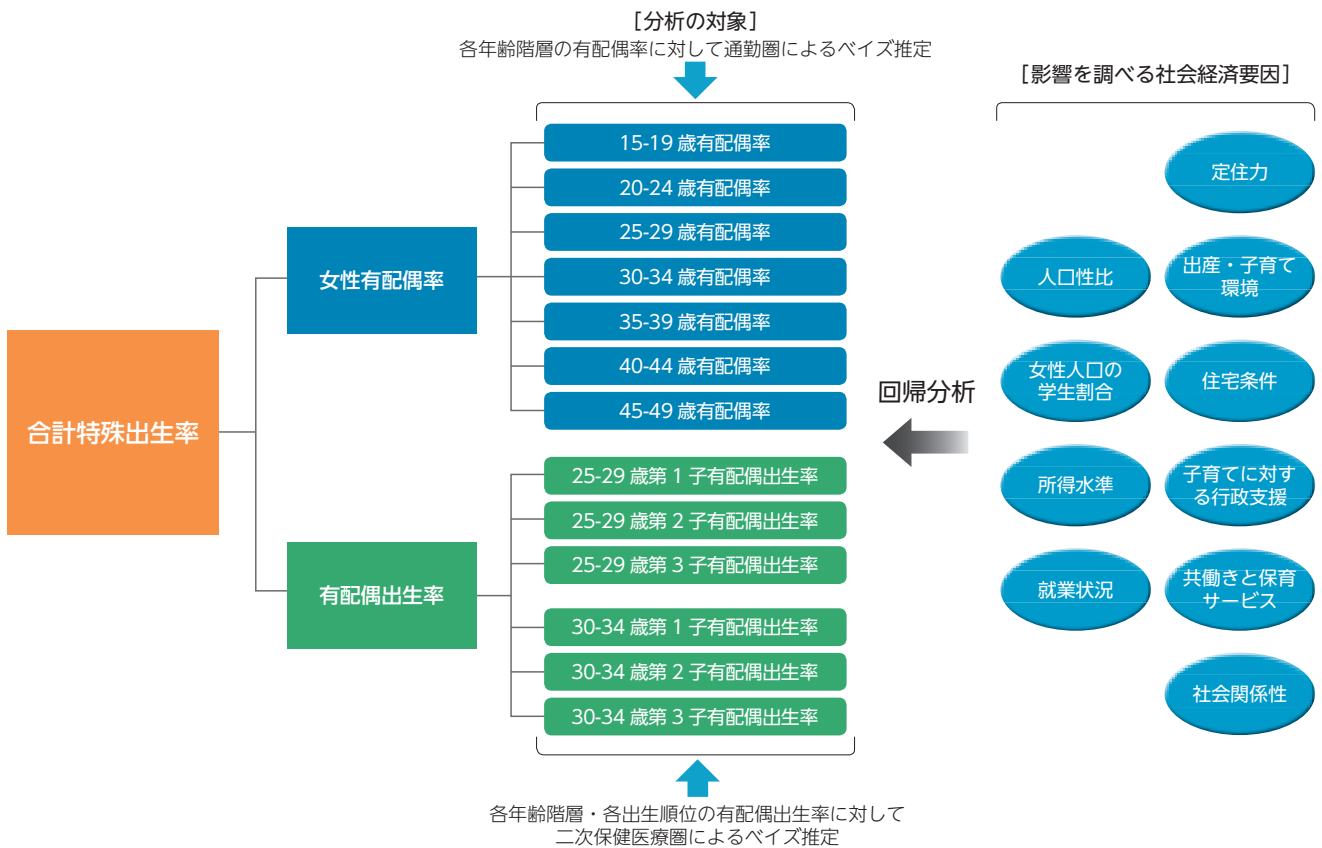
- 岡山 岡山市、玉野市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気町、吉備中央町
- 倉敷 倉敷市、総社市、浅口市、早島町、里庄町、矢掛町
- 笠岡 笠岡市、井原市
- 高梁 高梁市、新見市
- 真庭 真庭市、新庄村
- 津山 津山市、鏡野町、勝央町、奈義町、久米南町、美咲町
- 美作 美作市、西栗倉村

■分析の進め方

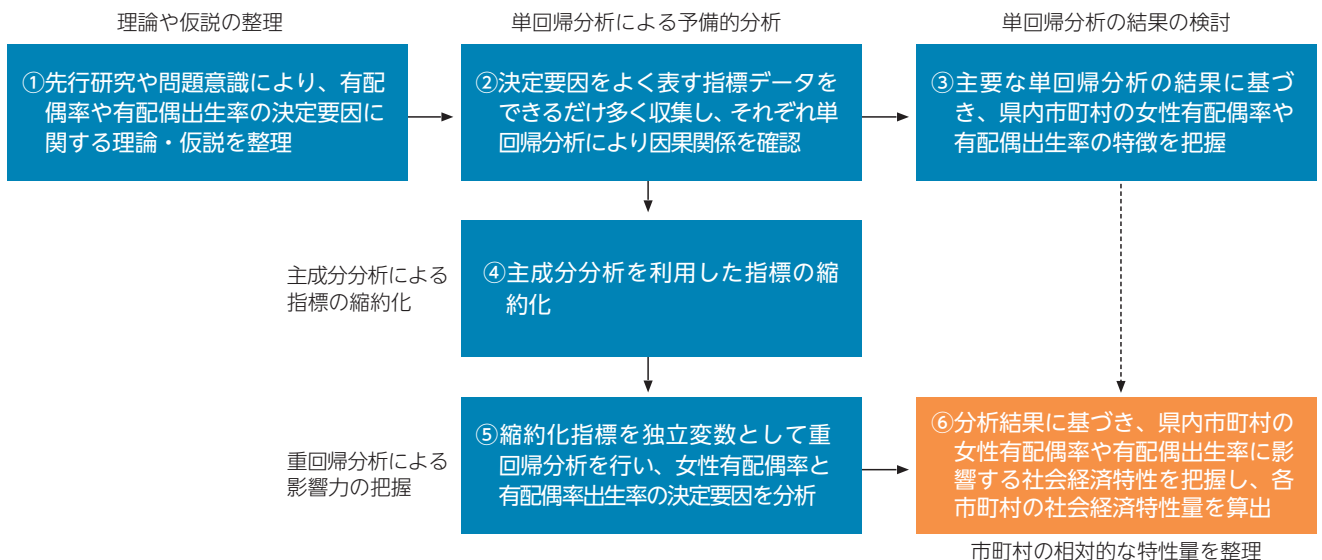
分析は、市町村を対象に、合計特殊出生率の出生構造要因である年齢階層別女性有配偶率と母の年齢階層別・出生順位別有配偶出生率に対して、影響を与えていると考えられる社会経済要因を検討し、重回帰分析により影響の有無や大きさを把握するものである。有配偶出生率の母の年齢階層は、出生数の多い25-29歳と30-34歳を対象とした。

分析の進め方は、都道府県を対象とした社会経済要因分析と基本は同じである。ただし、市町村の分析では、市町村の潜在的な地域力を施策に生かすことができるよう、独立変数には、市町村の社会経済要因に関する指標を主成分分析により縮約化したものを中心に用いた。

分析のアウトライン



分析の手順



指標の縮約化

単回帰分析で良好な結果が得られた社会経済指標の中から、理論・仮説に照らし合わせ組み合わせることが可能な指標を選択し、主成分分析により指標の縮約化を行った。

市町村の社会経済特性を表す縮約化後の指標は下表の8指標である。これに、「女性人口の非学生割合」と「通勤圏人口性比（男／女）」を加え、女性有配偶率と有配偶出生率に対する重回帰分析を行った。

社会経済指標の縮約化

社会経済指標	縮約化指標 (社会経済特性)
■ 1世帯当たり課税対象所得	地域の稼ぐ力
■ 人口一人当たり雇用者所得	
■ 人口一人当たり課税対象所得	
■ 完全失業率（30-34歳）（逆相関）	暮らしの安定性
■ 正規雇用割合	
■ 転入超過率（生産年齢人口）	地域の定住力
■ 1万世帯当たり住宅着工戸数	
■ 3世代世帯比率	
■ 人口1万人当たり消防団員数	家族・地域のきずな力
■ 人口1万人当たり刑法犯認知件数（逆相関）	
■ 持ち家比率（世帯主15-64歳）	住宅環境
■ 一戸建て比率（全世帯）	
■ 住宅面積100㎡以上割合（世帯主15-64歳）	
■ 有配偶女性就業率（30-34歳）	共働き支援力
■ 0-5歳児一人当たり保育所定員数	
■ 0-5歳児一人当たり保育所数	
■ 人口1万人当たり子育て支援拠点数	子育て支援力
■ 0-17歳人口当たり児童福祉費	
■ 20-44歳女性人口1万人当たり産婦人科医師数（二次保健医療圏）	出産・子育て環境
■ 0-9歳児1万人当たり小児科医師数（二次保健医療圏）	
■ 小学校1校当たり児童数	

重回帰分析の結果

重回帰分析の結果を下表に示した。都道府県の分析と同様、表側が独立変数、表頭が従属変数であり、各従属変数に対する重回帰分析の結果は、表を縦方向にみる。例えば、25-29歳女性有配偶率に対しては、地域の定住力、女性人口の非学生割合、通勤圏人口性比（男／女）が独立変数として有意（有意判定）であり、その影響力の大きさが標準偏回帰係数として表されている。

従属変数に同じものが複数ある場合は、同じ従属変数に対して複数の重回帰分析の結果が得られたことを示す。

女性有配偶率および有配偶出生率に影響する社会経済特性（重回帰分析の結果）

項目	従属変数													
	女性有配偶率							有配偶出生率						
	25-29歳①	25-29歳②	30-34歳①	30-34歳②	35-39歳①	35-39歳②	40-44歳	25-29歳			30-34歳			
							第1子	第2子	第3子	第1子①	第1子②	第2子	第3子	
独立変数	地域の稼ぐ力		*	**		**		*			*		**	
	暮らしの安定性				*				*	**				**
	地域の定住力	**			**	**	**	**			*			
	家族・地域のきずな力					*	*	**		**				**
	住宅環境				**				**					
	共働き支援力			**						**				**
	子育て支援力								*					**
	出産・子育て環境							**			**	**	**	**
	女性人口の非学生割合	**	**	**										
	通勤圏人口性比（男／女）	**	**	**	**	**	**							

項目	従属変数													
	女性有配偶率							有配偶出生率						
	25-29歳①	25-29歳②	30-34歳①	30-34歳②	35-39歳①	35-39歳②	40-44歳	25-29歳			30-34歳			
							第1子	第2子	第3子	第1子①	第1子②	第2子	第3子	
独立変数	地域の稼ぐ力		0.23	0.56		0.68		0.42				0.18	0.39	
	暮らしの安定性				0.28				0.31	0.42				0.47
	地域の定住力	0.31			0.69		0.72	0.32				0.22		
	家族・地域のきずな力					0.59	0.37	1.05		0.45				0.41
	住宅環境				0.33				0.59					
	共働き支援力			0.43						0.42				0.38
	子育て支援力								0.30					0.34
	出産・子育て環境							0.73			0.84	0.80	0.62	
	女性人口の非学生割合	0.47	0.50	0.41										
	通勤圏人口性比（男／女）	0.96	0.94	0.80	0.58	0.56	0.66							
決定係数	0.87	0.83	0.71	0.87	0.47	0.53	0.61	0.77	0.52	0.72	0.85	0.87	0.72	0.79

- 一部に、特定の市町村を表わすダミー変数¹⁾を設定した
- 独立変数である通勤圏人口性比の年齢階層は従属変数と合致している
- 空欄は独立変数に用いていないことを示す
- 都道府県分析で独立変数の一つとした多子世帯割合は、市町村分析での説明力が極めて強く、他の独立変数の従属変数に対する影響が失われてしまうため、独立変数に用いていない

1) ダミー変数：特定の市町村のような質的情報を表し、0もしくは1の二値をとる変数。

分析結果のまとめ

社会経済特性	分析結果の解釈
地域の稼ぐ力	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「地域の稼ぐ力」は、人口や世帯当たりでみた働く者の所得の受取額を、地域で総合してみたものである。 ■ 「地域の稼ぐ力」は、20歳代後半以降の結婚を後押しし、30-34歳の第1子・第2子の出生を高める効果があると考えられる。結婚や出生に対する希望を実現するための地域の基礎的特性といえる。就業率を上昇させ、生産性を高める施策の効果が期待される。
暮らしの安定性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「暮らしの安定性」は、完全失業率（逆相関）と正規雇用割合を組み合わせた指標であり、雇用を通じた将来的な経済的安定性を示すと考えられる。 ■ 特に、第3子出生率に対して影響しており、雇用を通じた経済的安定性は希望出生率を上昇させる効果があると考えられる。
地域の定住力	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「地域の定住力」は、人口の転入超過率と1万世帯当たり住宅着工戸数を組み合わせた指標であり、二つの指標の背後に住む所として選ばれる地域の総合力が働いていると考えられる。 ■ 「地域の定住力」は、女性有配偶率と第1子出生率に影響している。結婚して住む地域は、ほぼ第1子を生育する所になると考えられ、結婚時に住民が市町村間を移動していることが分析結果に表れていると考えられる。
家族・地域のきずな力	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「家族・地域のきずな力」は、「社会関係性（地域社会のつながりの程度・人的ネットワーク等）」を検討する際に利用される指標を組み合わせた。 ■ 35歳以降の結婚に影響しており、非婚率を低下させる効果が認められる。また、第3子の出生にも影響しており、コミュニティー活動等の活発化は希望出生率の上昇に効果があると考えられる。
住宅環境	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「住宅環境」は、持ち家、一戸建て、住宅の広さといった住宅の条件を示す指標を組み合わせた。 ■ 有配偶出生率に対しては、25-29歳の第2子にだけ影響が表れる指標である。第2子の誕生と住宅の諸条件が何らかの関係を持っていると考えられる。
共働き支援力	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「共働き支援力」は、有配偶女性就業率と地域の保育サービスの供給水準を組み合わせた指標であり、共働きによる保育サービスのニーズとその供給力の両方を示している。 ■ 30-34歳の結婚と第3子の出生に影響している。ニーズに応じた保育サービスの供給は、子供を生育する世帯の支援というだけでなく、希望出生率そのものを上昇させる効果を持つことが考えられる。
子育て支援力	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「子育て支援力」は、人口1万人当たり子育て支援拠点数と0-17歳人口当たり児童福祉費を組み合わせた指標である。 ■ 25-29歳の第2子と30-34歳の第3子の出生に影響しており、これら施策との結び付きが表れている。
出産・子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「出産・子育て環境」は、産婦人科医師数、小児科医師数、小学校児童数といった子供を生育する上での地域環境を示す指標を組み合わせている。子供の多い所でこれらの指標が高くなり、因果が逆であることも考えられるものの、これらの指標が出産・子育てにプラスに働くとも考えることもできることから、双方向の関係があると想定した。 ■ 第1子と第2子の出生に影響している。第1子と第2子が出生数の大半を占めるため、医療サービス等が需要量の多いところに立地し、出産・子育てを支援する環境が形成されている状況を示すと考えられる。一方で、第3子の出生への影響が表れなかったことは、第3子の出生率が高い地域で必ずしも出産・子育て環境が高いわけではないことを示している。
女性人口の非学生割合	<ul style="list-style-type: none"> ■ 15-49歳女性人口に占める高校・大学・大学院の在学者数を学生割合として算出し、1から差し引いたものである。 ■ 学生割合が高いほど女性有配偶率が低下することは明らかであり、学生割合の有配偶率への影響をみることを目的に採用した指標ではない。学生割合の影響を除いた上で、学生割合以外の要因が有配偶率に対してどのような影響を持つかを把握するために分析に含めた。 ■ 20歳代と30-34歳の結婚に影響している。
通勤圏人口性比(男/女)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 当該年齢階層の性比であり、男/女で算出されている。 ■ 通勤圏でみた人口性比が強く女性有配偶率に影響しており、男女の出会いの機会等に関係していると考えられる。市町村単位では人口性比と女性有配偶率に関係はなかったことから、通勤圏を越えた対策が有効であると考えられる。また、人口性比は、就業者性比との相関が強く、職場の男女のバランスや産業構造等の問題についても検討が必要であると考えられる。

合計特殊出生率「見える化」分析

《岡山県出生率地域格差要因分析》

2

第 章

市町村分析シート

市町村分析シートの見方

県内市町村を対象とした合計特殊出生率地域差の要因分析結果等を利用して、市町村別に合計特殊出生率に影響する出生構造や社会経済特性について「分析シート」を作成した。

2011-2015年の合計特殊出生率

人口動態調査と国勢調査を基に、2011年から2015年の出生数を集計した合計特殊出生率を独自に算出したもの。
全国との比較や出生構造要因の分析に用いた。

ベイズ推定値

2011-2015年合計特殊出生率の二次保健医療圏によるベイズ推定値である。
偶然変動の影響をできるだけ小さくしたものであり、社会経済特性の分析を行う上で基礎となる出生率である。

合計特殊出生率の全国との差

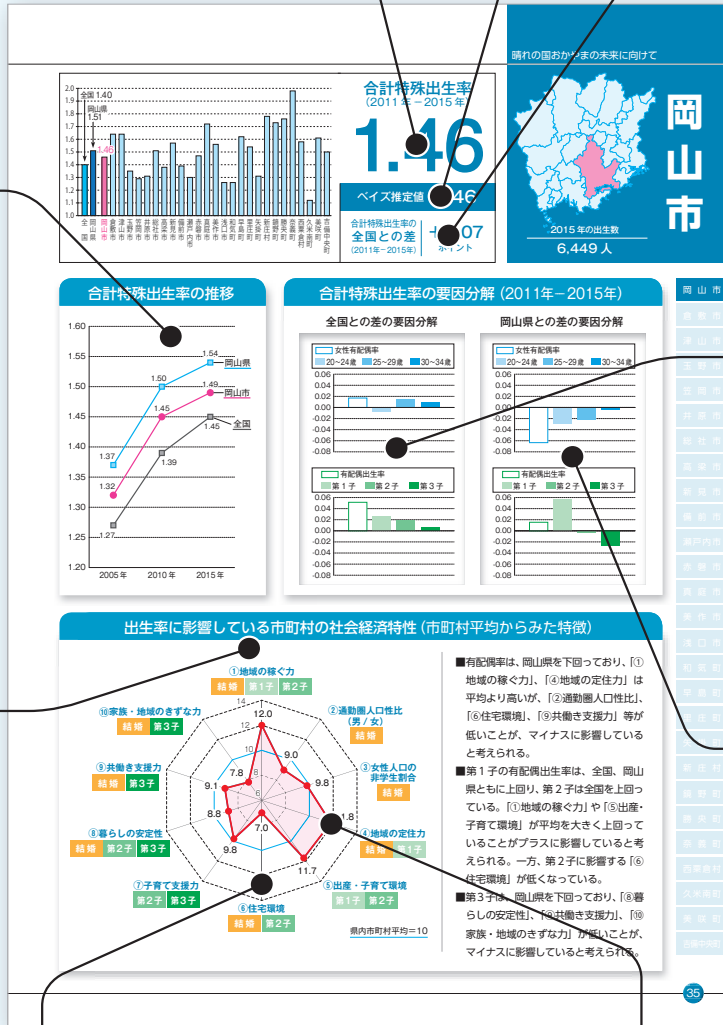
各市町村の2011-2015年合計特殊出生率と同じ方法で算出した全国の合計特殊出生率1.40との差である。
左の岡山市の例では、四捨五入より0.01ポイントの差が生じている。

単年の合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率の推移をみるために、2005年、2010年、2015年の合計特殊出生率を算出したもの。女性人口は国勢調査による基準人口の日本人に統一してある。
単年の出生率であり、ベイズ推定も行っていないため、偶然変動の影響に注意が必要である。

出生率に影響している社会経済特性が分かる

合計特殊出生率に対する影響をみた社会経済特性の「各市町村の得点」を県内市町村の中で相対化（平均10、標準偏差1）して算出したもの。
市町村平均を10点として表しており、10点を上回れば、当該市町村ではその特性の得点が市町村平均よりも高いことを示す。



合計特殊出生率の全国との差が生じている要因が分かる

上記の「合計特殊出生率の全国との差」を出生構造要因により分解したものの棒グラフが上に伸びている場合は、市町村の合計特殊出生率をその数値分だけ押し上げている（下に伸びている場合は押し下げている）要因であることが分かる。
上下の図の「女性有配偶率」の差と「有配偶出生率」の差を足すと、全国との差に一致する。
※女性有配偶率の年齢階層の一部と、有配偶出生率の第4子以上の掲載は省略

合計特殊出生率の岡山県との差が生じている要因が分かる

「合計特殊出生率の全国との差の要因分解」の「岡山県との差」バージョンである。
本分析での「地域差」は全国との差であるものの、この図により、岡山県の合計特殊出生率の特性に対して、各市町村がどのように影響しているかが分かる。

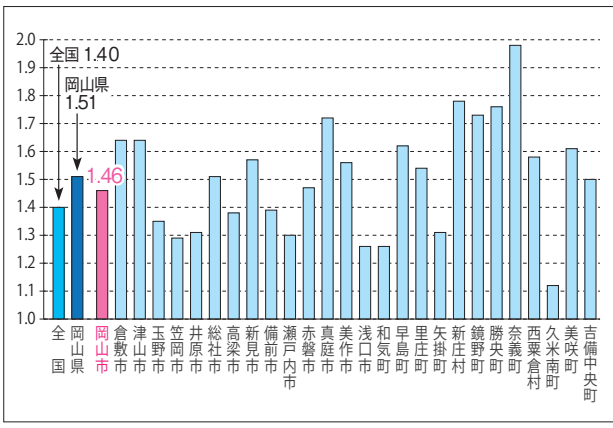
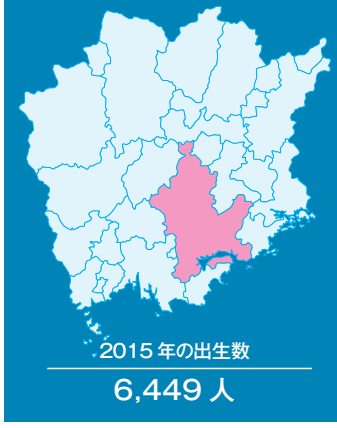
軸は社会経済特性

各特性が、合計特殊出生率を構成する女性有配偶率（結婚）や、どの出生順位の有配偶出生率に影響するかを示した。
各社会経済特性が市町村平均の10点よりも高いか低いだけでなく、合計特殊出生率の「全国との差の要因分解」や「岡山県との差の要因分解」の結果と見比べながら、課題を検討する必要がある。

得点は当該市町村の特性の大きさ

合計特殊出生率の高低に結び付けて、社会経済特性間で得点の大きさを比較するときは注意が必要である。
得点は、当該市町村の特性の大きさを示しているものだが、各特性の変化により有配偶率や有配偶出生率がどのくらい変動するかは、標準偏回帰係数をみる必要がある。
※通勤圏人口性比（男/女）は、代表指標として25-29歳を得点化した

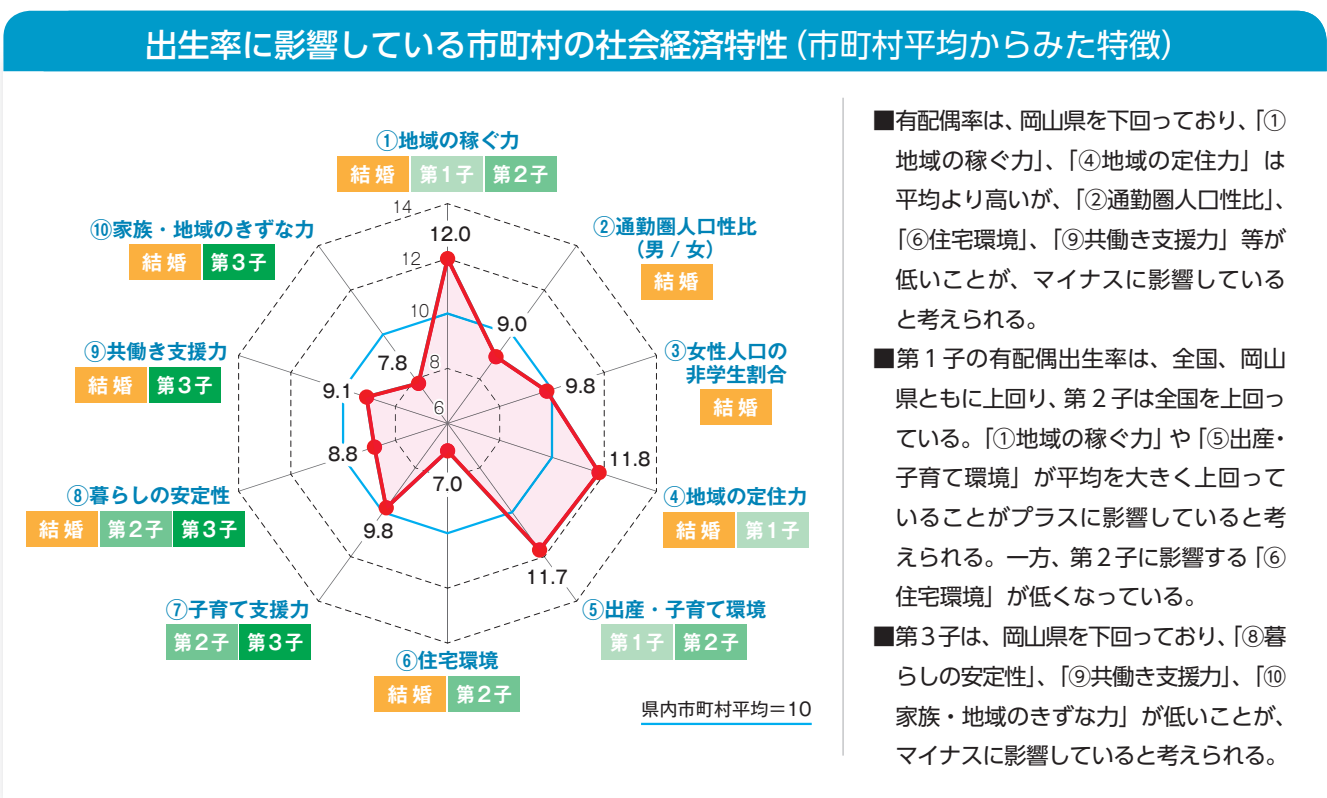
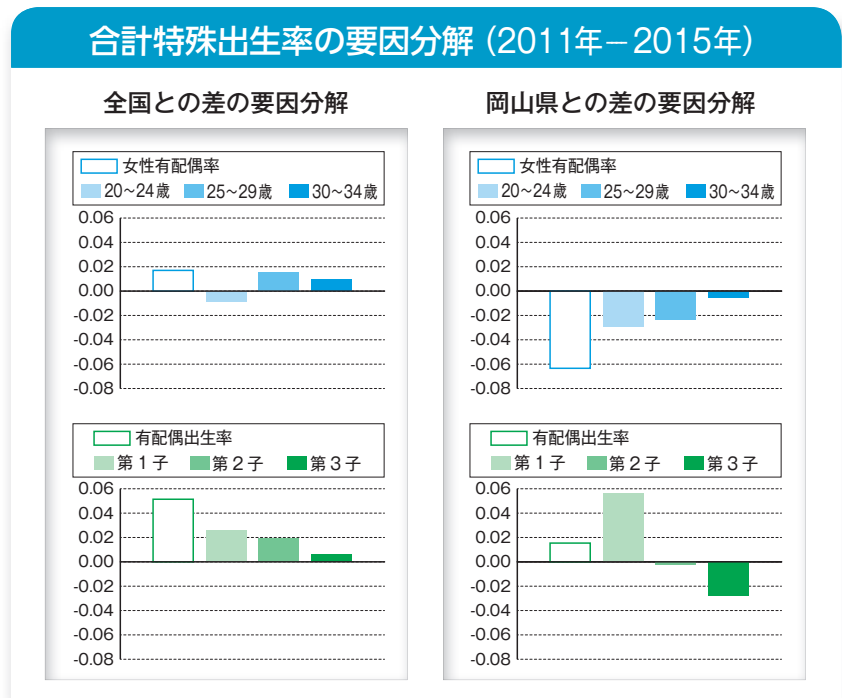
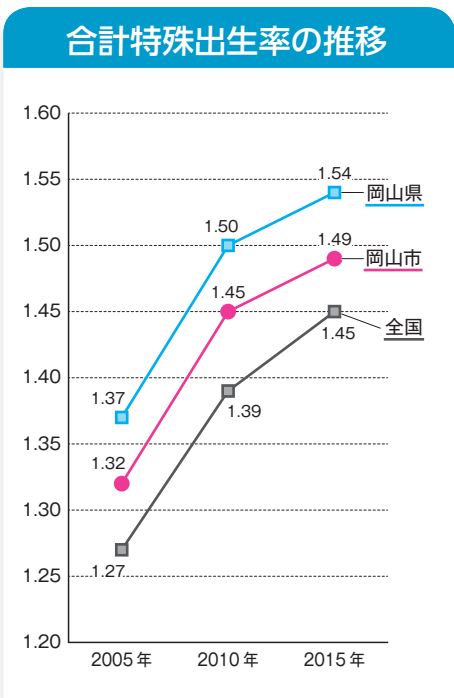
岡山市



合計特殊出生率
(2011年-2015年)
1.46

ベイズ推定値 **1.46**

合計特殊出生率の
全国との差 **+0.07**
(2011年-2015年) ポイント



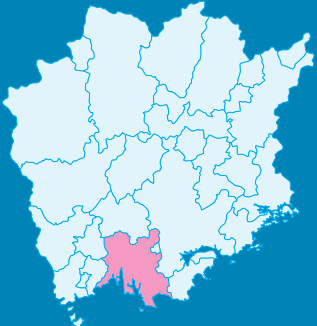
■有配偶率は、岡山県を下回っており、「①地域の稼ぐ力」、「④地域の定住力」は平均より高いが、「②通勤圏人口性比」、「⑥住宅環境」、「⑨共働き支援力」等が低いことが、マイナスに影響していると考えられる。

■第1子の有配偶出生率は、全国、岡山県ともに上回り、第2子は全国を上回っている。「①地域の稼ぐ力」や「⑤出産・子育て環境」が平均を大きく上回っていることがプラスに影響していると考えられる。一方、第2子に影響する「⑥住宅環境」が低くなっている。

■第3子は、岡山県を下回っており、「⑧暮らしの安定性」、「⑨共働き支援力」、「⑩家族・地域のきずな力」が低いことが、マイナスに影響していると考えられる。

- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西粟倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

倉敷市



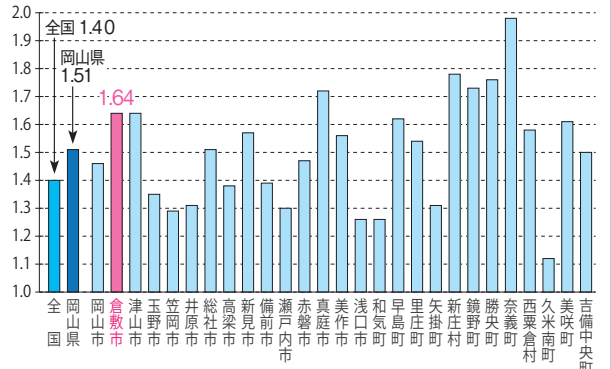
2015年の出生数
4,363人

合計特殊出生率 (2011年-2015年)

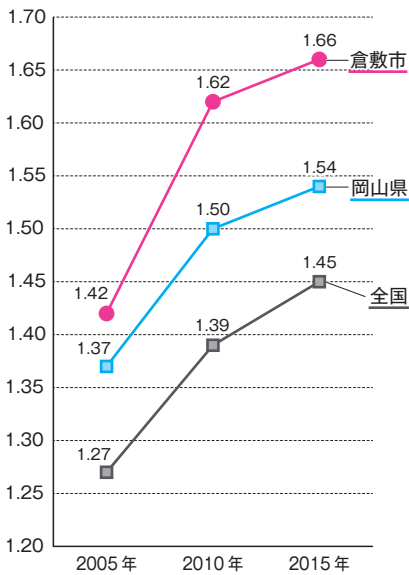
1.64

ベース推定値 1.63

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **+0.24**
ポイント

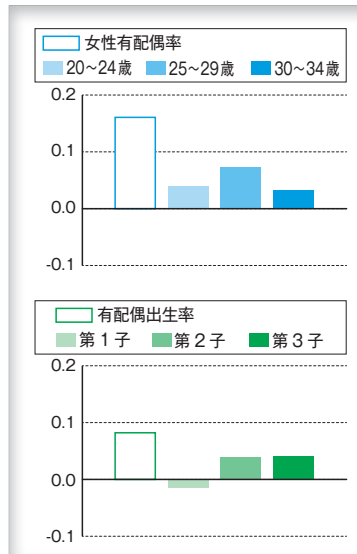


合計特殊出生率の推移

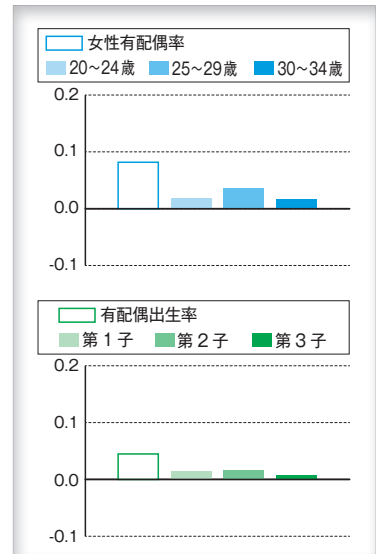


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

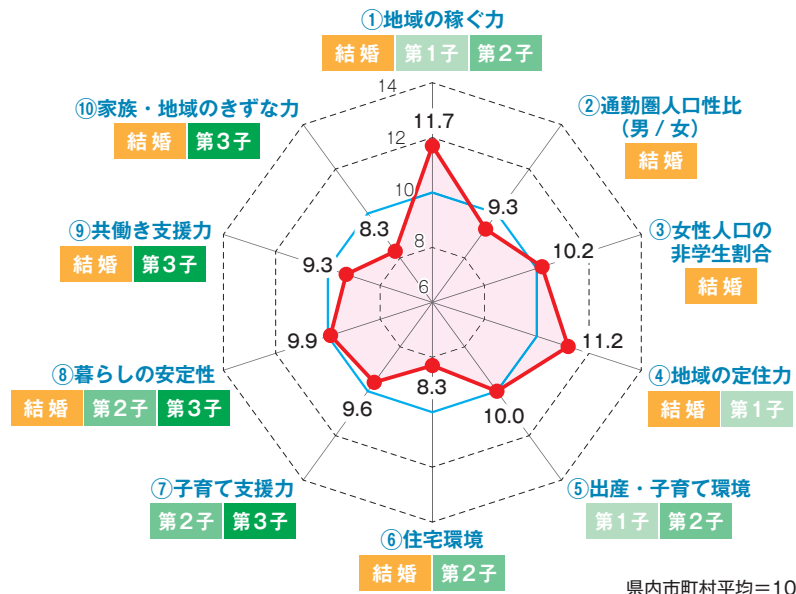
全国との差の要因分解



岡山県との差の要因分解

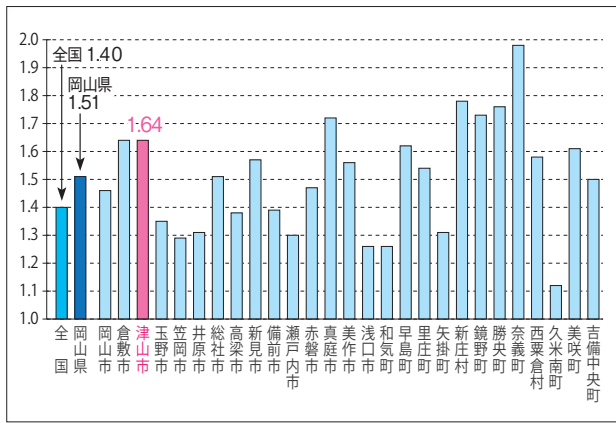


出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)



■有配偶率は、全国、岡山県ともに上回っており、「①地域の稼ぐ力」と「④地域の定住力」が高いことがプラスに影響していると考えられる。一方で、「②通勤圏人口性比」、「⑥住宅環境」、「⑩家族・地域のきずな力」が低いことはマイナスに影響していると考えられる。

■有配偶出生率は、岡山県とほぼ同じ傾向である。「⑨共働き支援力」と「⑩家族・地域のきずな力」が低いことが、第3子に対してマイナスに影響していると考えられる。

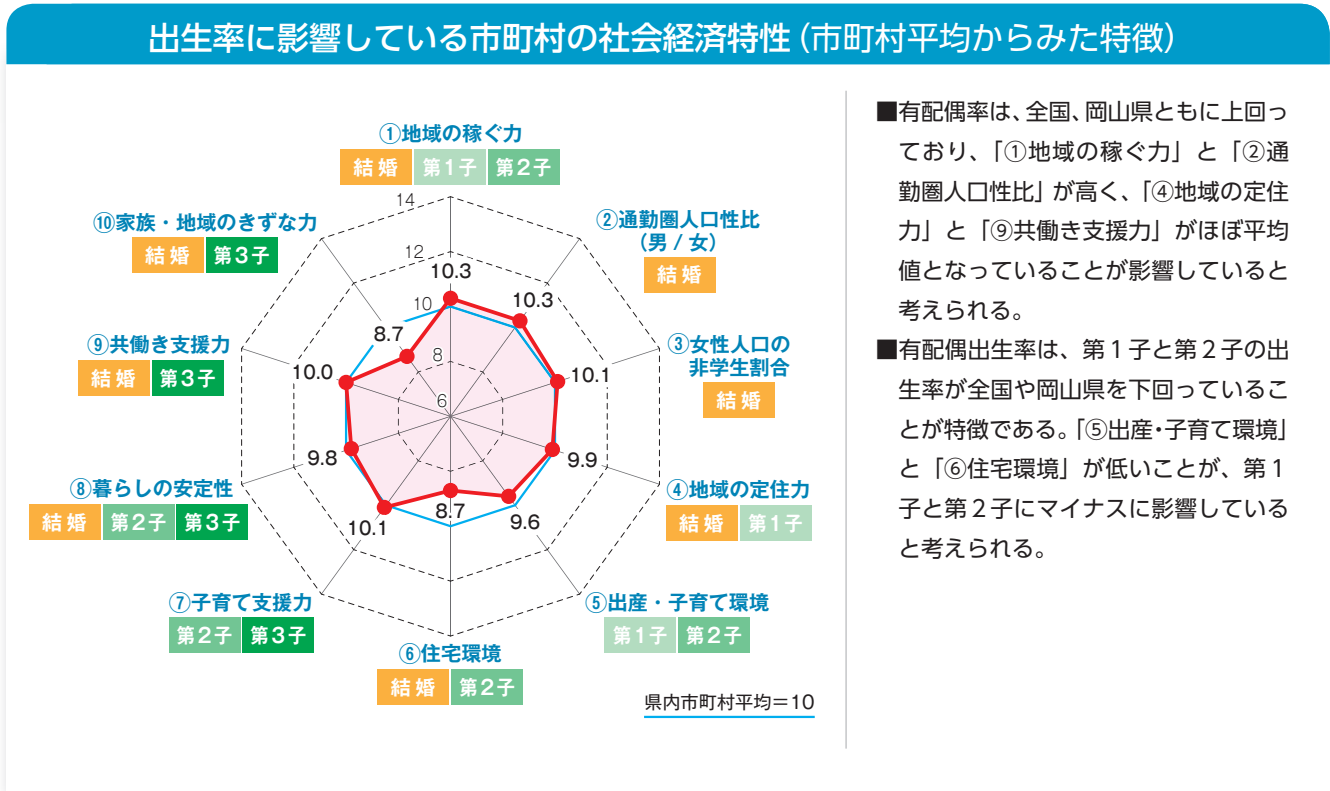
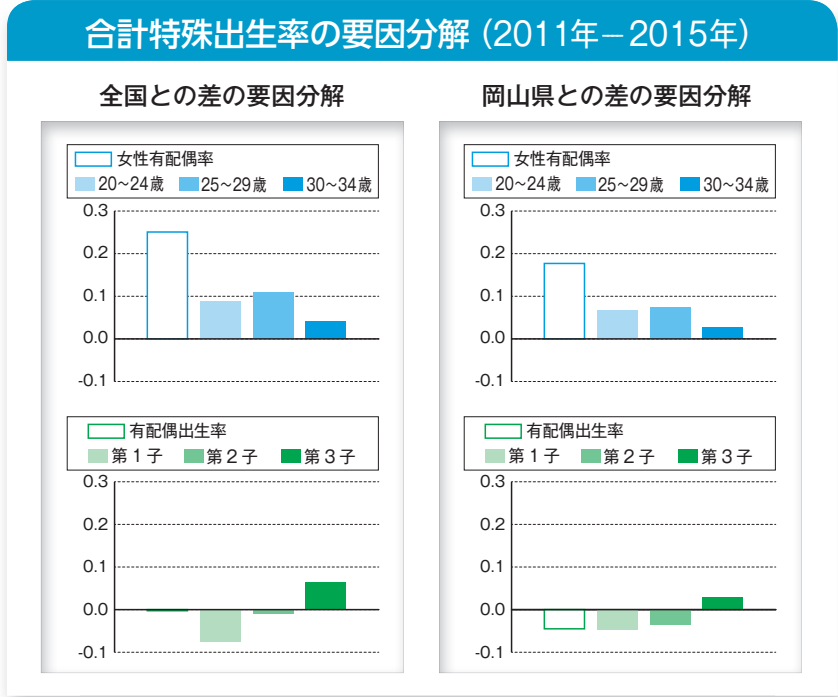
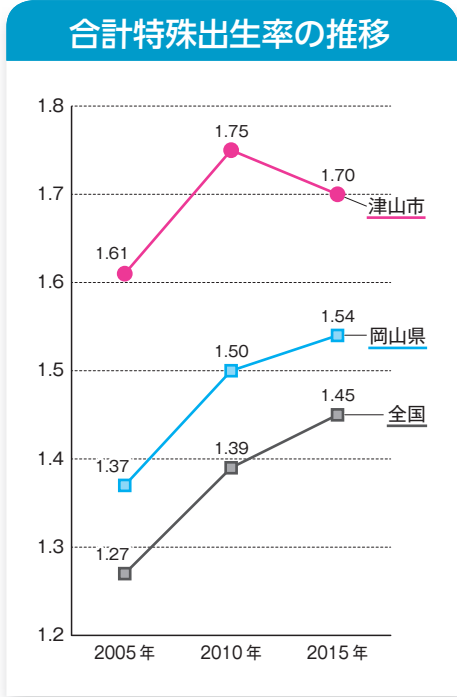
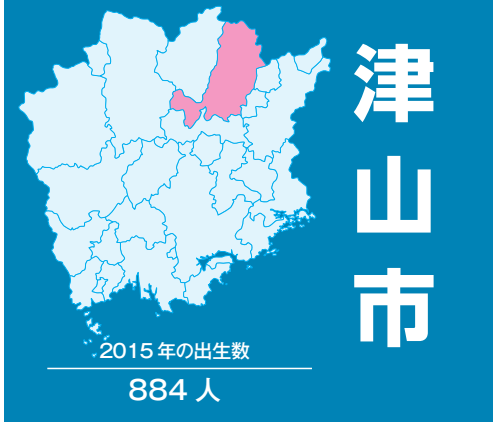


合計特殊出生率
(2011年-2015年)

1.64

ベイズ推定値 1.64

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) + 0.25
ポイント

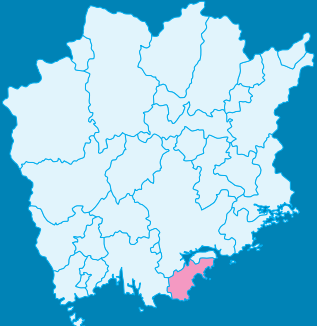


■有配偶率は、全国、岡山県ともに上回っており、「①地域の稼ぐ力」と「②通勤圏人口性比」が高く、「④地域の定住力」と「⑨共働き支援力」がほぼ平均値となっていることが影響していると考えられる。

■有配偶出生率は、第1子と第2子の出生率が全国や岡山県を下回っていることが特徴である。「⑤出産・子育て環境」と「⑥住宅環境」が低いことが、第1子と第2子にマイナスに影響していると考えられる。

- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西粟倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

玉野市



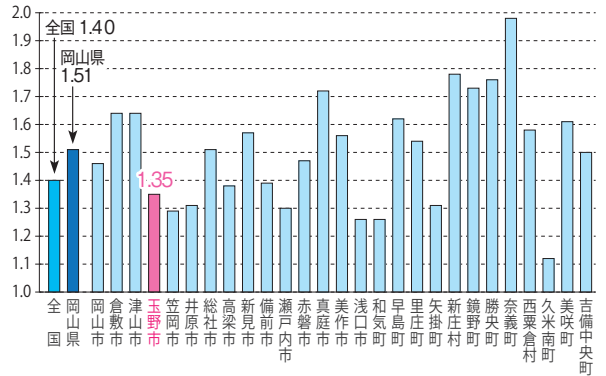
2015年の出生数
389人

合計特殊出生率 (2011年-2015年)

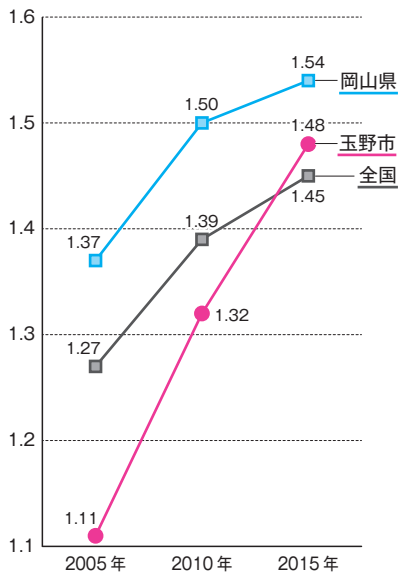
1.35

ベース推定値 1.42

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **-0.04**
ポイント

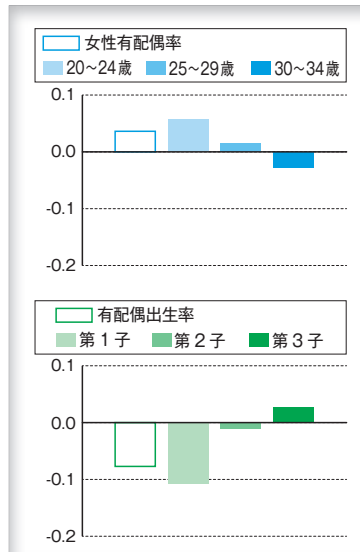


合計特殊出生率の推移

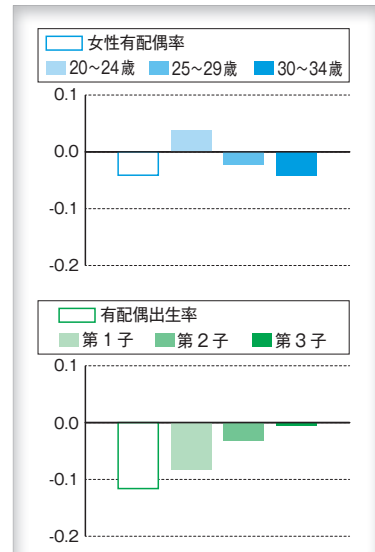


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

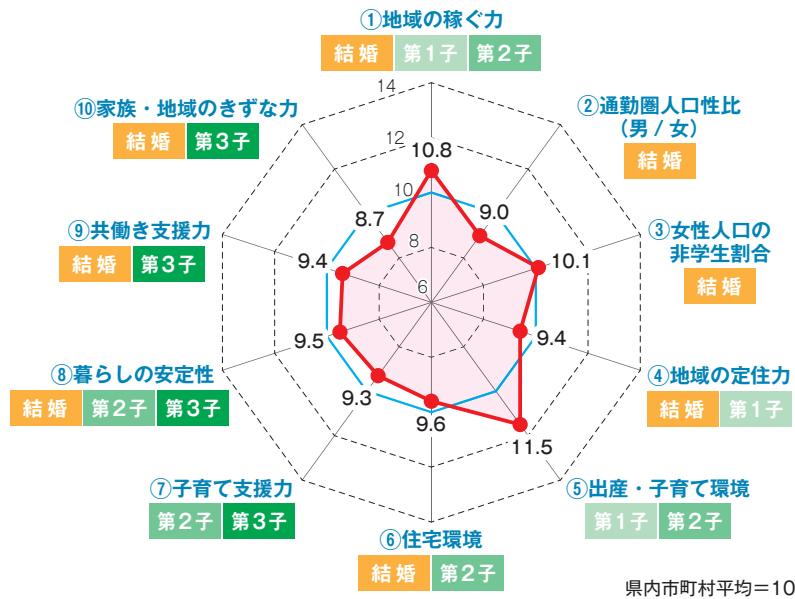
全国との差の要因分解



岡山県との差の要因分解

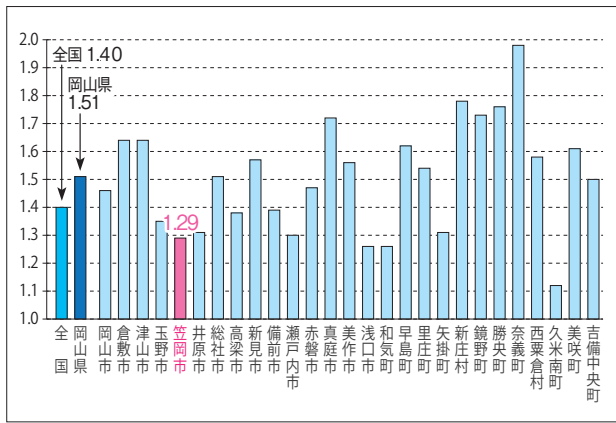


出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)



■ 25-29歳の有配偶率が岡山県を下回り、30-34歳の有配偶率が全国より低いことが特徴である。「①地域の稼ぐ力」は高いものの、「②通勤圏人口性比」、「④地域の定住力」、「⑨共働き支援力」、「⑩家族・地域のきずな力」が低いことがマイナスに影響していると考えられる。

■ 第1子と第2子の有配偶出生率は、全国、岡山県ともに下回っており、「④地域の定住力」、「⑥住宅環境」、「⑦子育て支援力」、「⑧暮らしの安定性」が低いことがマイナスに影響していると考えられる。

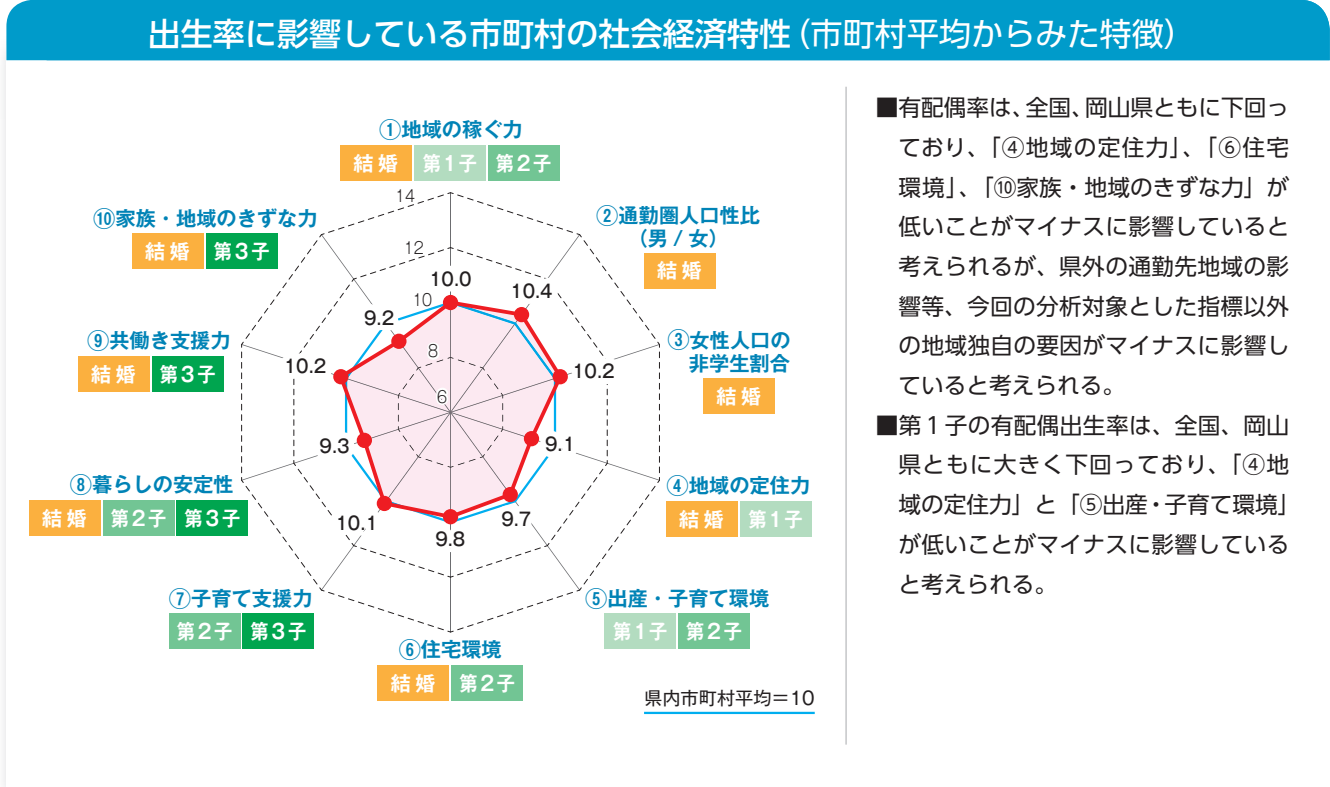
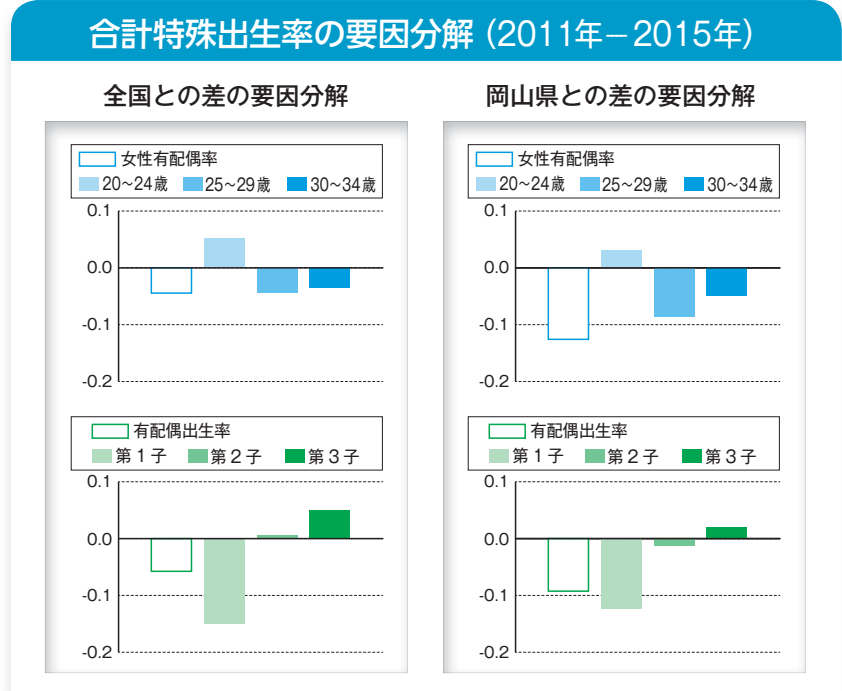
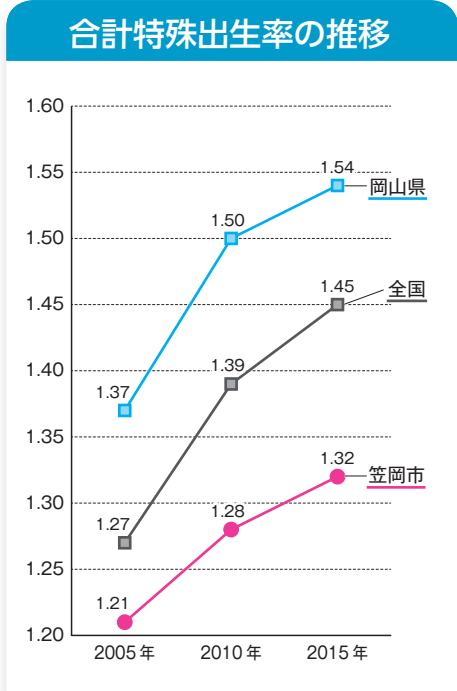
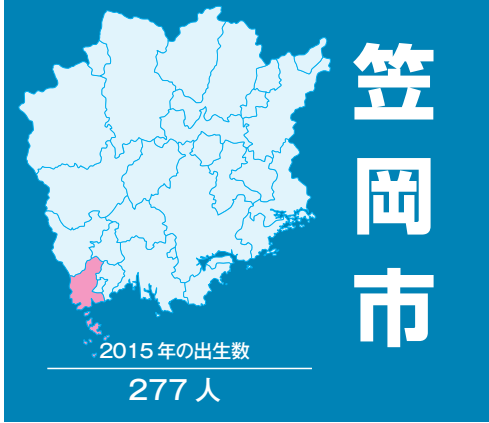


合計特殊出生率
(2011年-2015年)

1.29

ベイズ推定値 1.43

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) -0.10
ポイント

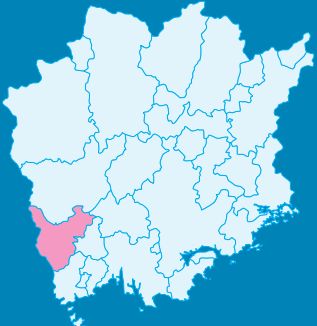


■有配偶率は、全国、岡山県ともに下回っており、「④地域の定住力」、「⑥住宅環境」、「⑩家族・地域のきずな力」が低いことがマイナスに影響していると考えられるが、県外の通勤先地域の影響等、今回の分析対象とした指標以外の地域独自の要因がマイナスに影響していると考えられる。

■第1子の有配偶出生率は、全国、岡山県ともに大きく下回っており、「④地域の定住力」と「⑤出産・子育て環境」が低いことがマイナスに影響していると考えられる。

- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西粟倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

井原市



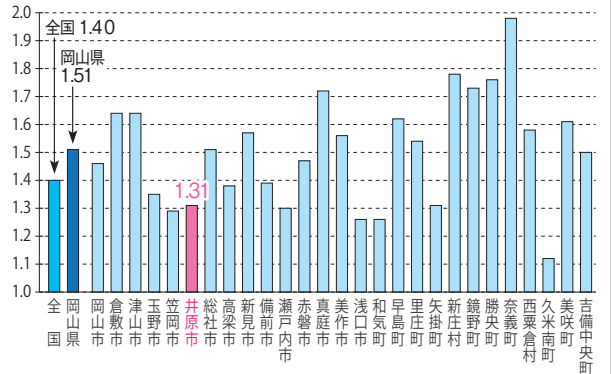
2015年の出生数
209人

合計特殊出生率 (2011年-2015年)

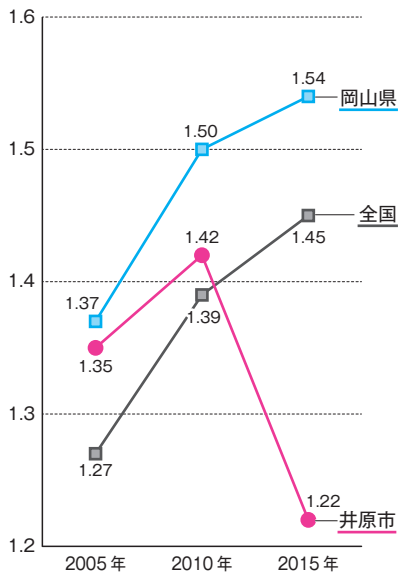
1.31

ベース推定値 1.46

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **-0.08**
ポイント

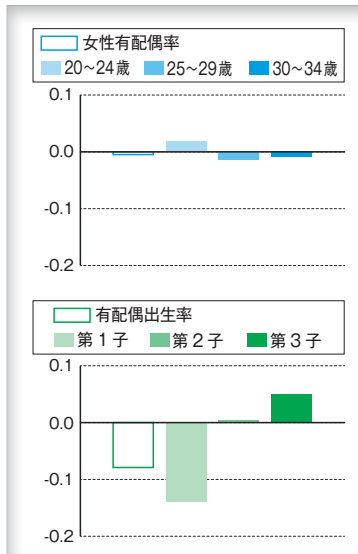


合計特殊出生率の推移

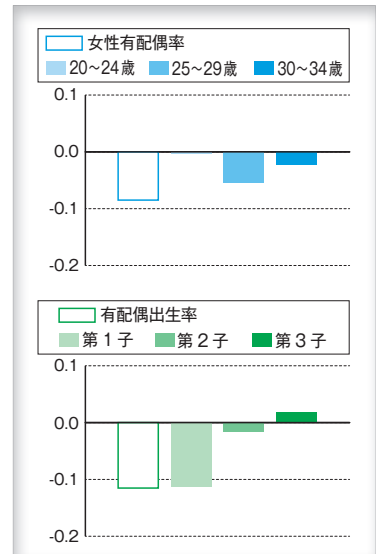


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

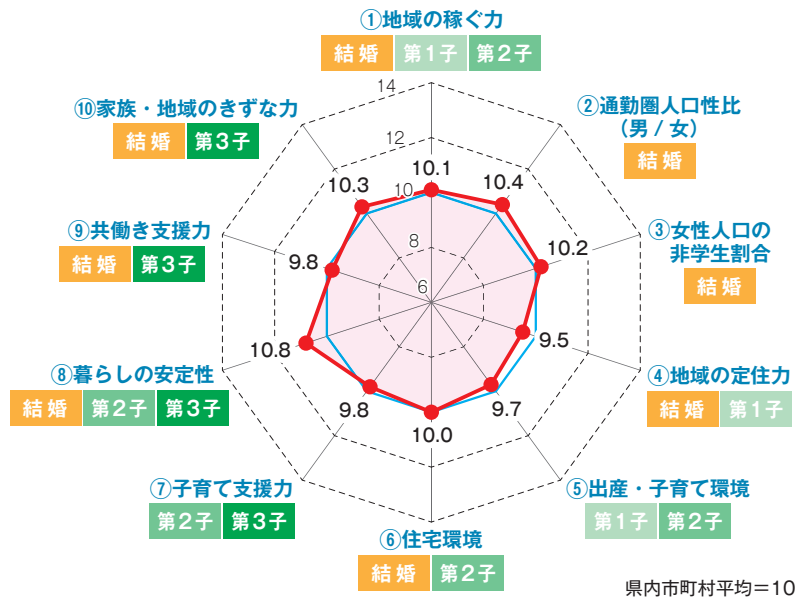
全国との差の要因分解



岡山県との差の要因分解



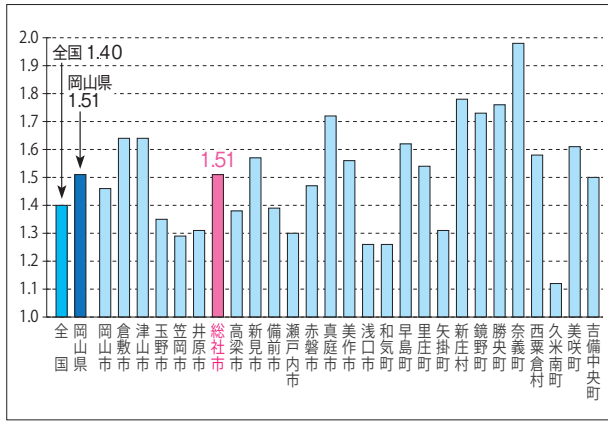
出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)



■有配偶率は、ほぼ全国平均並みであるものの、岡山県を下回っている。「④地域の定住力」と「⑨共働き支援力」が低いことがマイナスに影響していると考えられるが、県外の通勤先地域の影響等、今回の分析対象とした指標以外の地域独自の要因がマイナスに影響していると考えられる。

■有配偶出生率は、第1子が低く、第3子が高いという特徴がある。「④地域の定住力」と「⑤出産・子育て環境」が低いことが、第1子に対しマイナスに影響し、「⑧暮らしの安定性」等が平均を上回っていることが、第3子にプラスに影響していると考えられる。

県内市町村平均=10

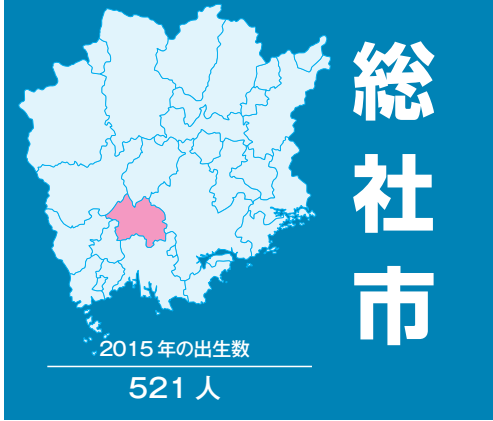


合計特殊出生率
(2011年-2015年)

1.51

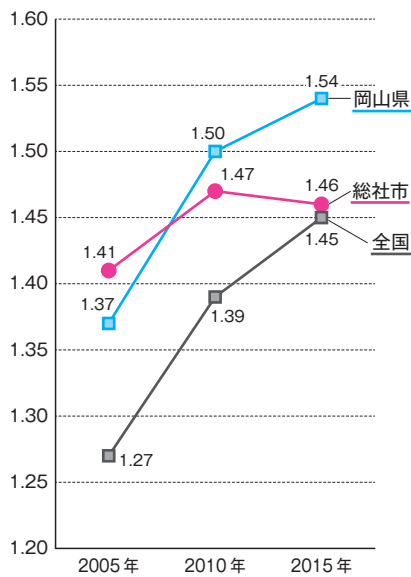
ベイズ推定値 1.55

合計特殊出生率の
全国との差 +0.11
(2011年-2015年) ポイント



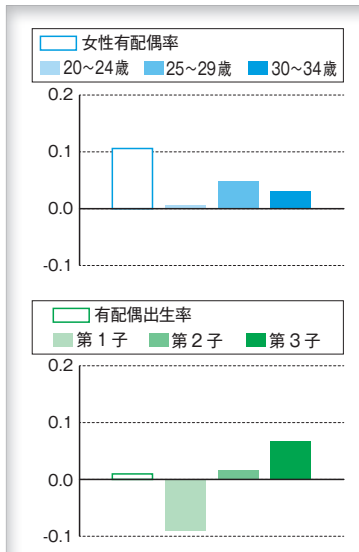
総社市

合計特殊出生率の推移

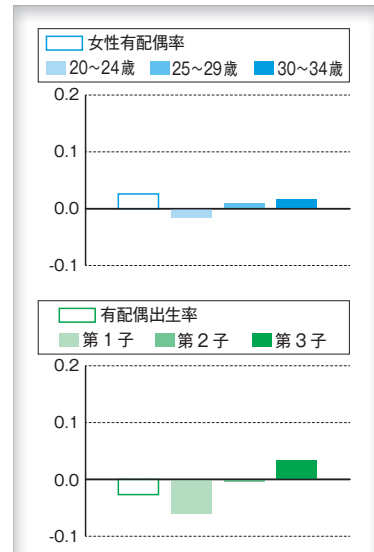


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

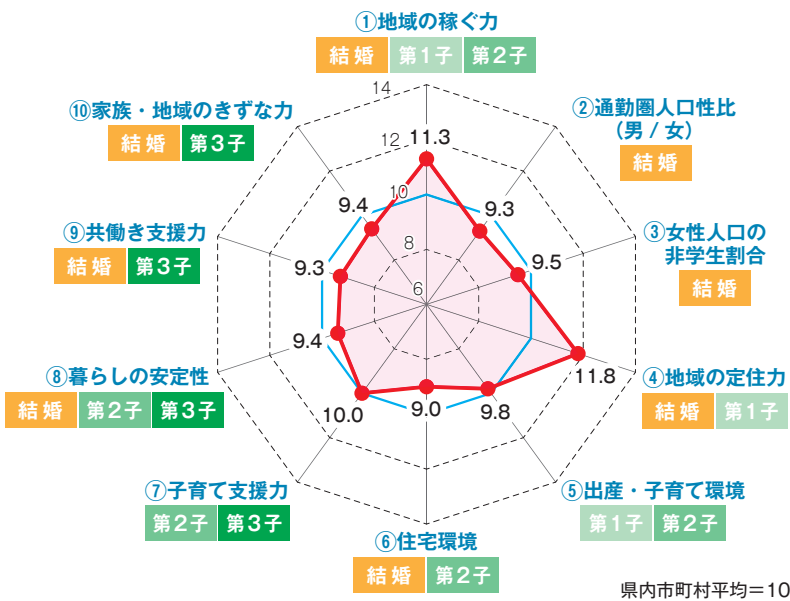
全国との差の要因分解



岡山県との差の要因分解



出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)

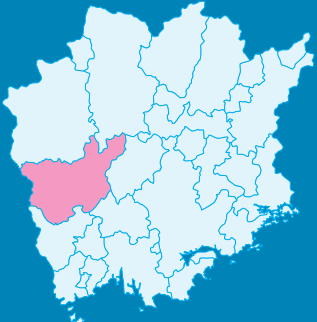


■有配偶率は、県の値に近く、「①地域の稼ぐ力」と「④地域の定住力」が高い一方で、「②通勤圏人口性比」と「⑨共働き支援力」が低く、①、④の効果を打ち消していると考えられる。

■有配偶出生率は、第1子が低く、第3子が高くなっており、県内市町村の傾向として、第1子の有配偶出生率にプラスの効果が見られる「①地域の稼ぐ力」と「④地域の定住力」が高いことや、第3子の有配偶出生率にプラスの効果が見られる「⑨共働き支援力」等が低くなっていることと食い違いが生じている。総社市の出生率には、多子世帯割合が市町村平均を上回っていること (2010年の市町村平均 14.9%、総社市 15.4%) など、今回の分析対象とした指標以外の地域独自の要因が影響していると考えられる。

- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西粟倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

高梁市



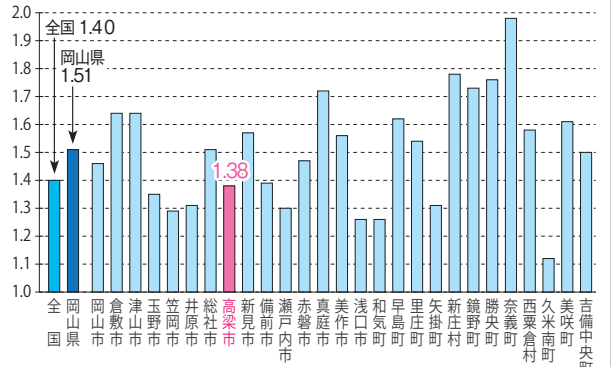
2015年の出生数
160人

合計特殊出生率 (2011年-2015年)

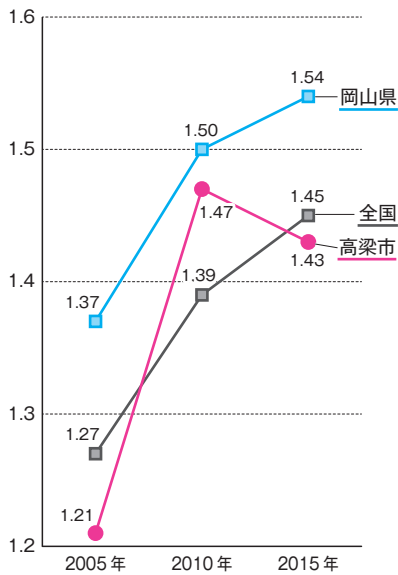
1.38

ベース推定値 1.44

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **-0.02**
ポイント

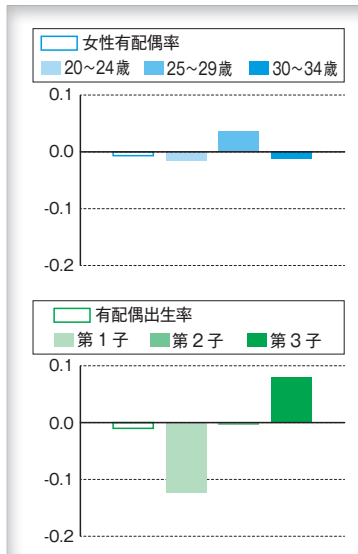


合計特殊出生率の推移

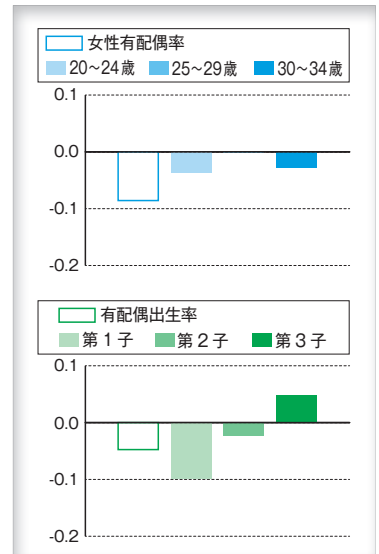


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

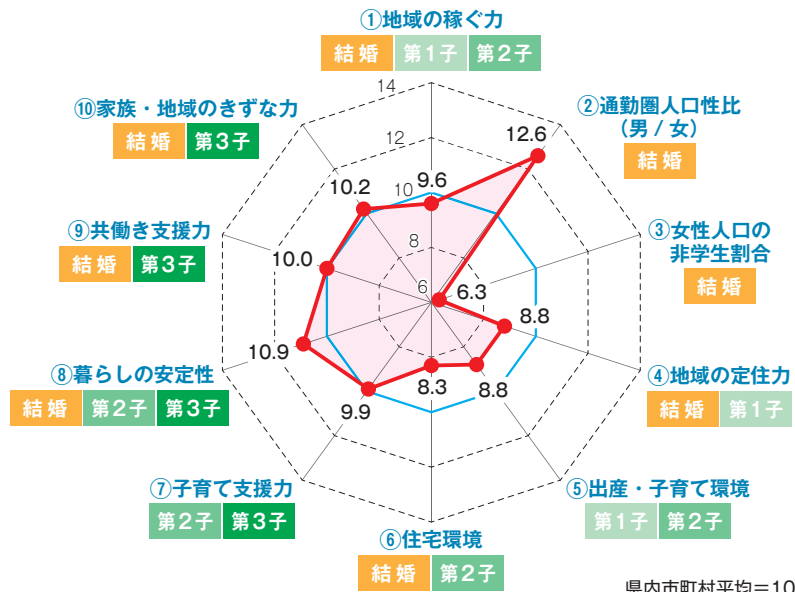
全国との差の要因分解



岡山県との差の要因分解



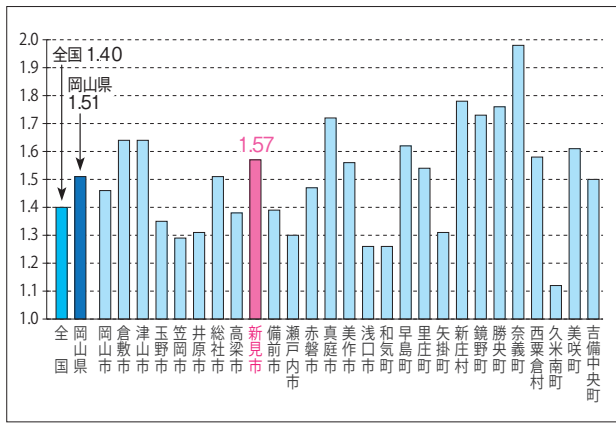
出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)



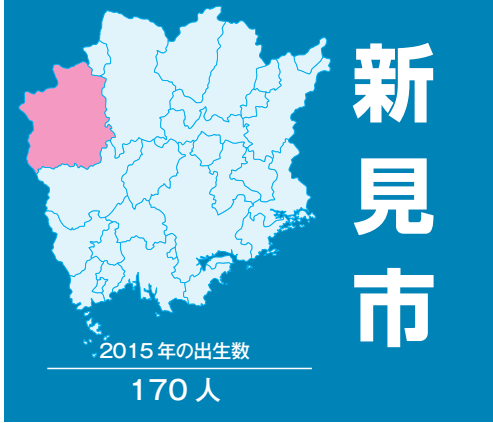
■有配偶率は、全国、岡山県ともに下回っており、「③女性人口の非学生割合」が平均を大きく下回っていることがマイナスに影響していると考えられる。加えて、「①地域の稼ぐ力」、「④地域の定住力」等も低いことが、マイナスに影響していると考えられる。

■第1子の有配偶出生率についても、全国、岡山県ともに下回っており、「①地域の稼ぐ力」と「④地域の定住力」が低いことが、第1子にマイナスに影響していると考えられる。一方、「⑧暮らしの安定性」と「⑩家族・地域のきずな力」が高いことが、第3子にプラスに影響していると考えられる。

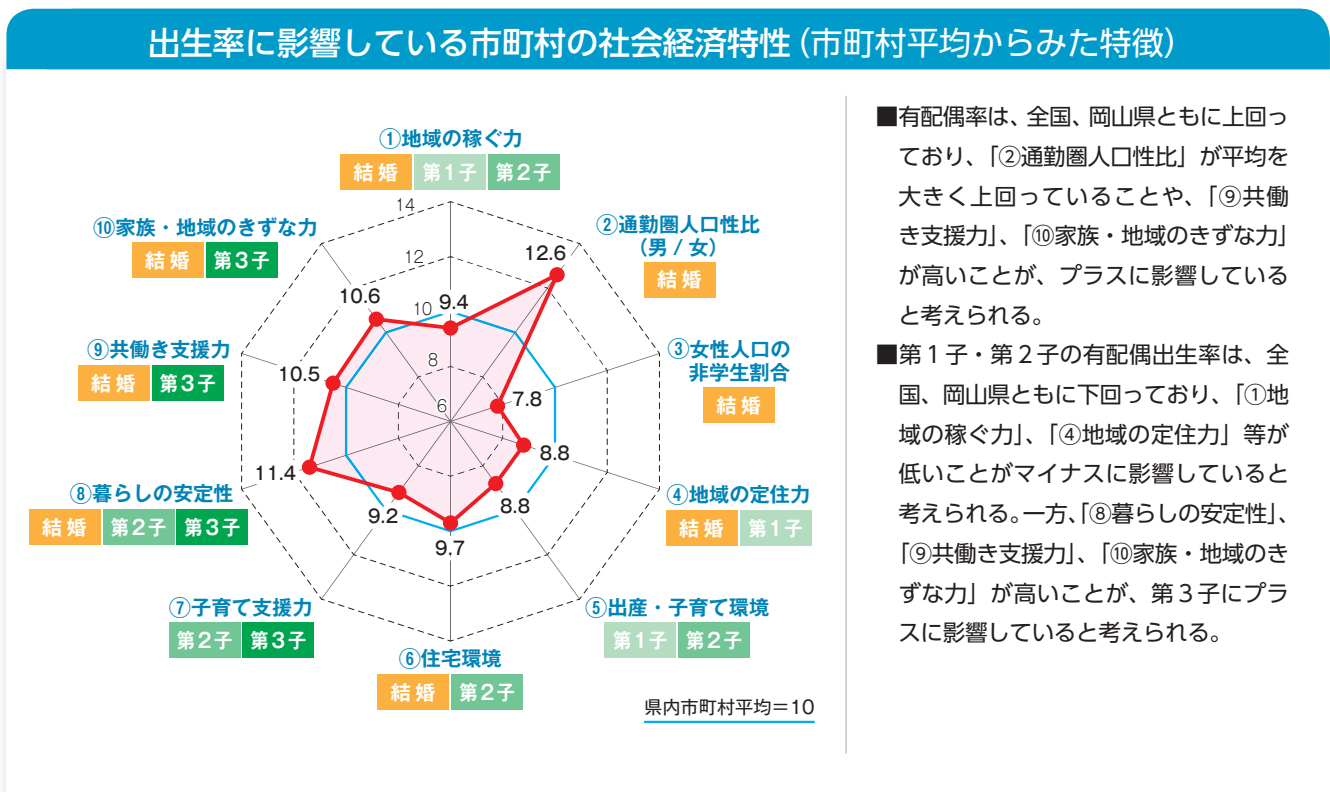
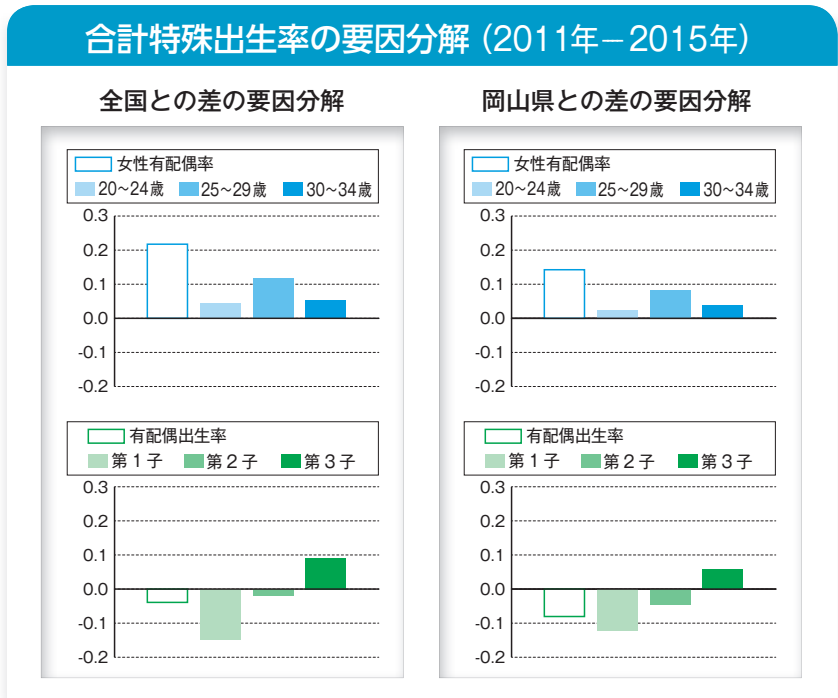
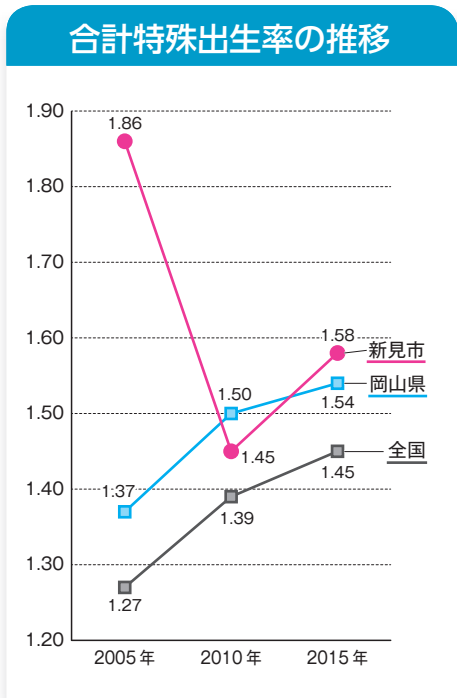
県内市町村平均=10



合計特殊出生率
(2011年-2015年)
1.57
ベイズ推定値 1.51
合計特殊出生率の
全国との差 +0.18
(2011年-2015年) ポイント



新見市

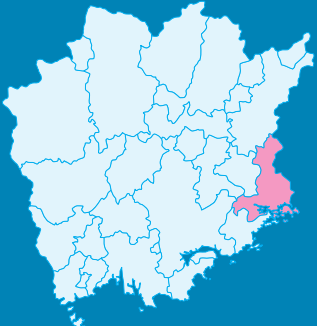


■有配偶率は、全国、岡山県ともに上回っており、「②通勤圏人口性比」が平均を大きく上回っていることや、「⑨共働き支援力」、「⑩家族・地域のきずな力」が高いことが、プラスに影響していると考えられる。

■第1子・第2子の有配偶出生率は、全国、岡山県ともに下回っており、「①地域の稼ぐ力」、「④地域の定住力」等が低いことがマイナスに影響していると考えられる。一方、「⑧暮らしの安定性」、「⑨共働き支援力」、「⑩家族・地域のきずな力」が高いことが、第3子にプラスに影響していると考えられる。

- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市**
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西粟倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

備前市



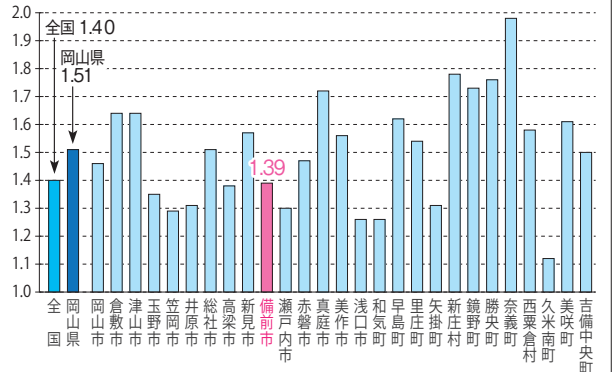
2015年の出生数
206人

合計特殊出生率 (2011年-2015年)

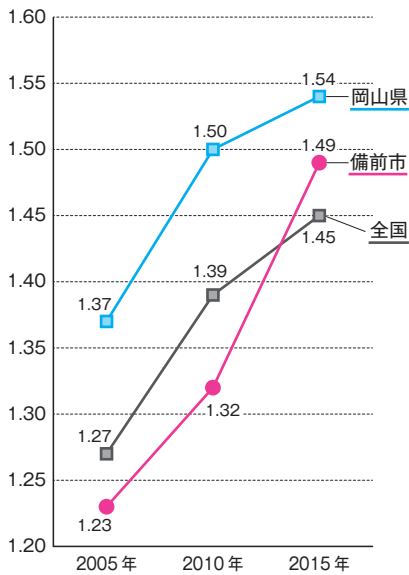
1.39

ベース推定値 1.43

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **-0.01**
ポイント

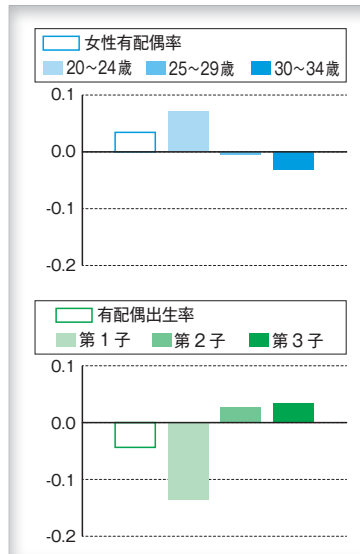


合計特殊出生率の推移

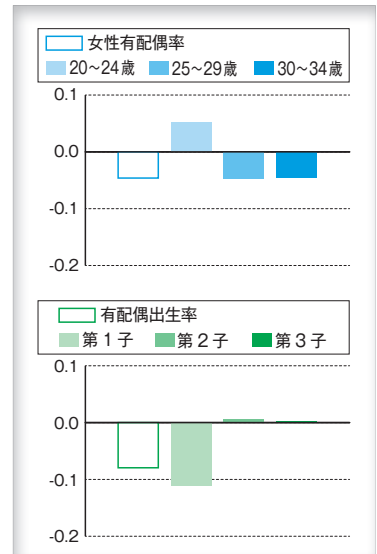


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

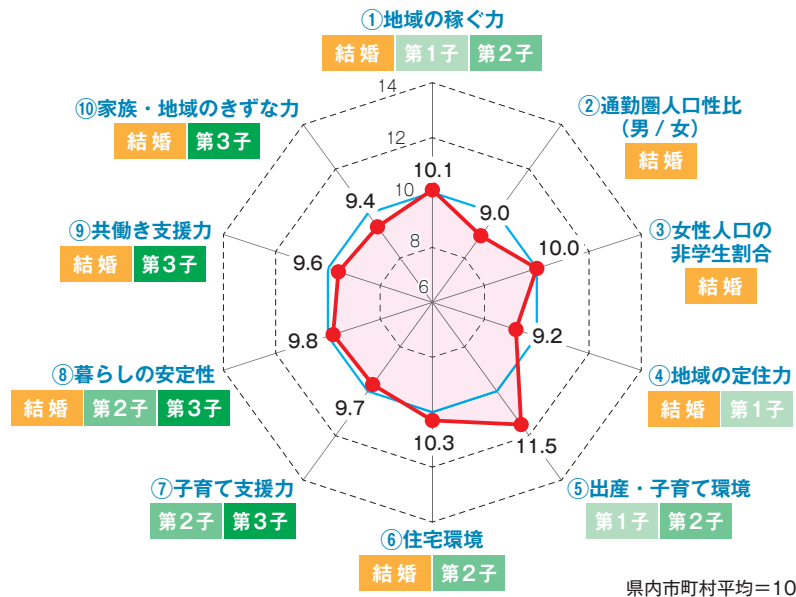
全国との差の要因分解



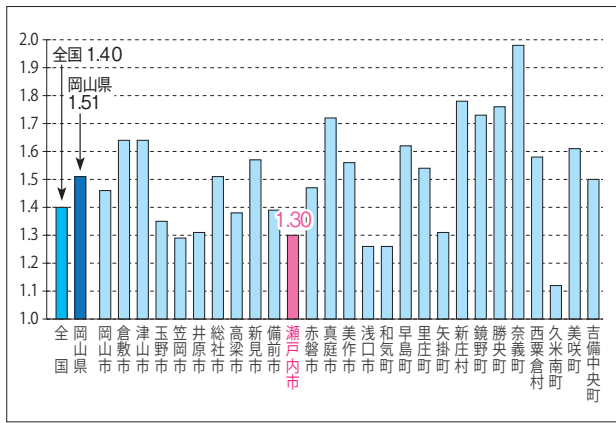
岡山県との差の要因分解



出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)



- 有配偶率は、全国を上回るものの、岡山県より低い。「②通勤圏人口性比」のほか、「④地域の定住力」、「⑨共働き支援力」等が低いことがマイナスに影響していると考えられる。
- 有配偶出生率は、第1子が低いことが特徴で、「④地域の定住力」が低いことが強くマイナスに影響していると考えられる。
- 第2子、第3子は、岡山県と同程度となっているが、「⑦子育て支援力」、「⑧暮らしの安定性」、「⑨共働き支援力」、「⑩家族・地域のきずな力」が低いことがマイナスに影響していると考えられる。

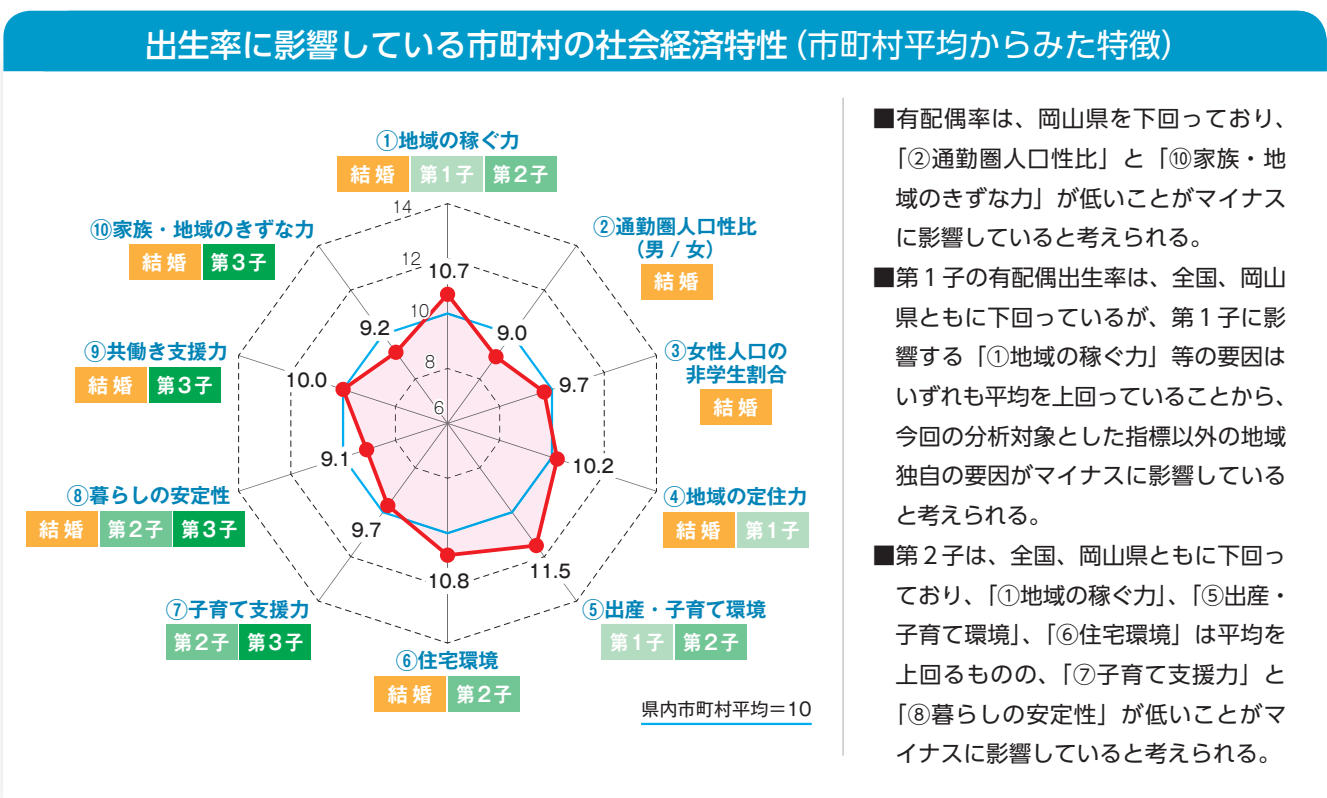
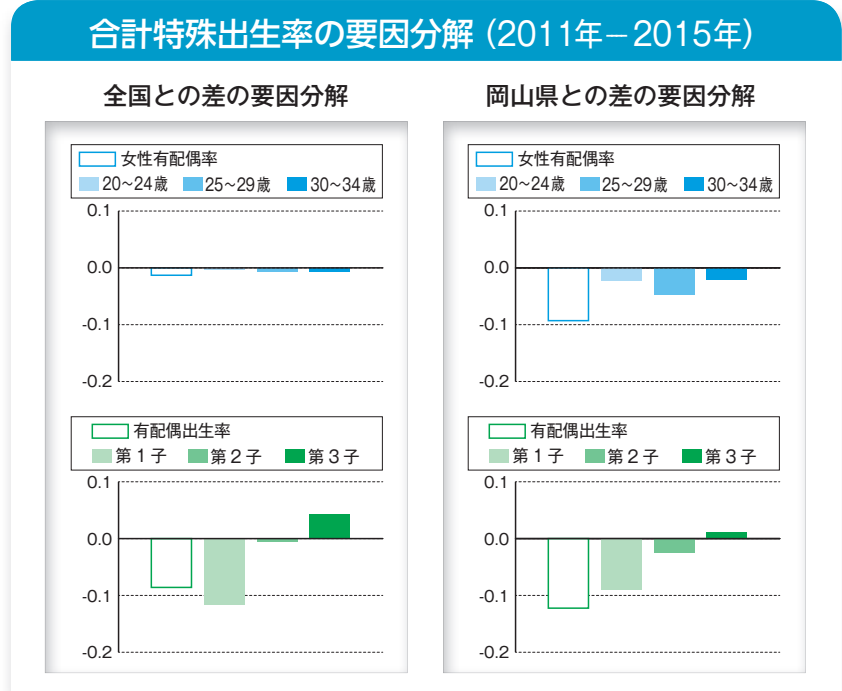
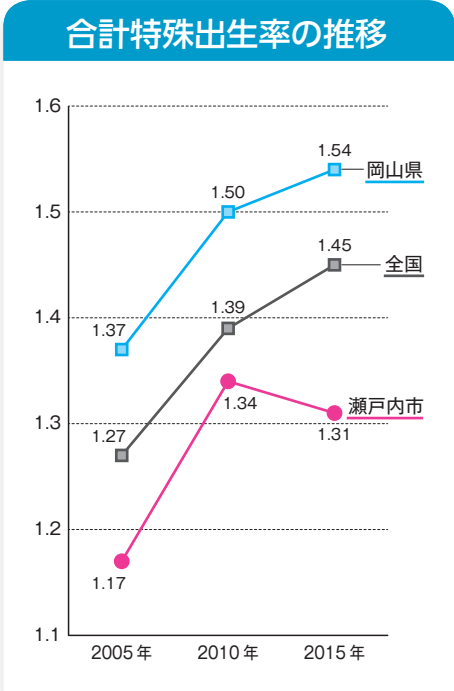


合計特殊出生率
(2011年-2015年)

1.30

ベイズ推定値 1.40

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **-0.10**
ポイント



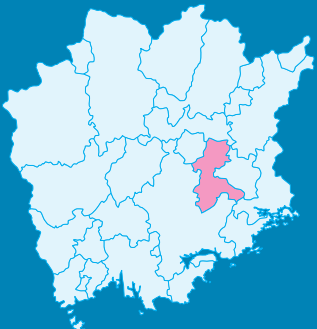
■有配偶率は、岡山県を下回っており、「②通勤圏人口性比」と「⑩家族・地域のきずな力」が低いことがマイナスに影響していると考えられる。

■第1子の有配偶出生率は、全国、岡山県ともに下回っているが、第1子に影響する「①地域の稼ぐ力」等の要因は、いずれも平均を上回っていることから、今回の分析対象とした指標以外の地域独自の要因がマイナスに影響していると考えられる。

■第2子は、全国、岡山県ともに下回っており、「①地域の稼ぐ力」、「⑤出産・子育て環境」、「⑥住宅環境」は平均を上回るものの、「⑦子育て支援力」と「⑧暮らしの安定性」が低いことがマイナスに影響していると考えられる。

- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西粟倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

赤磐市



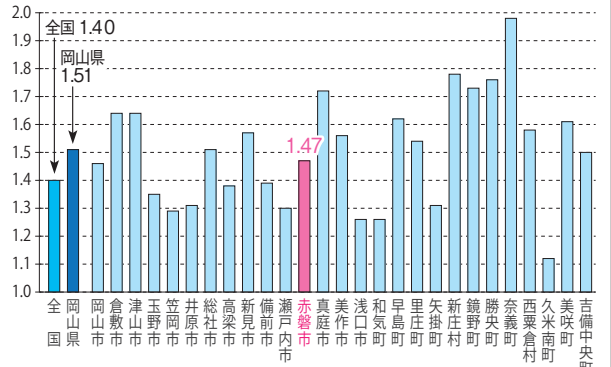
2015年の出生数
314人

合計特殊出生率 (2011年-2015年)

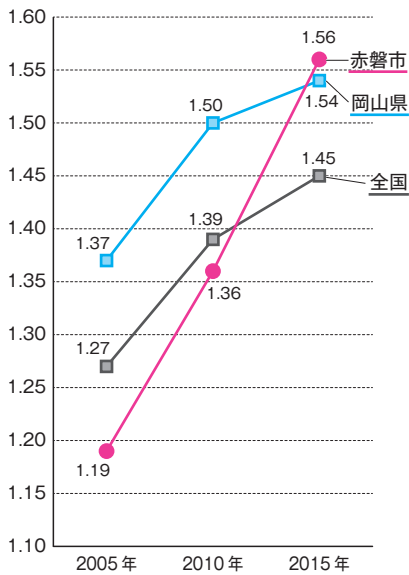
1.47

ベース推定値 1.45

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **+0.08**
ポイント

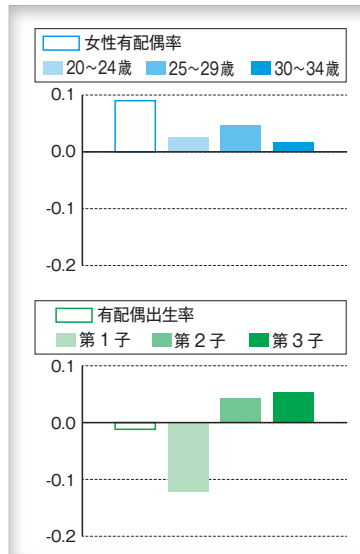


合計特殊出生率の推移

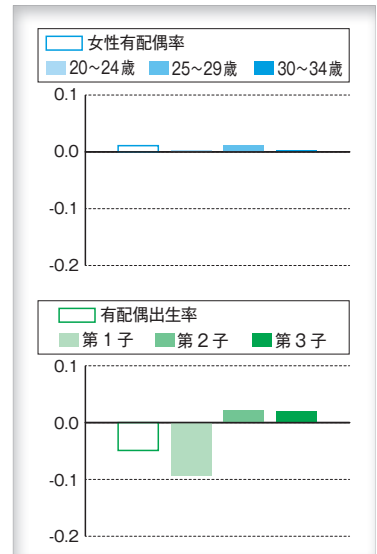


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

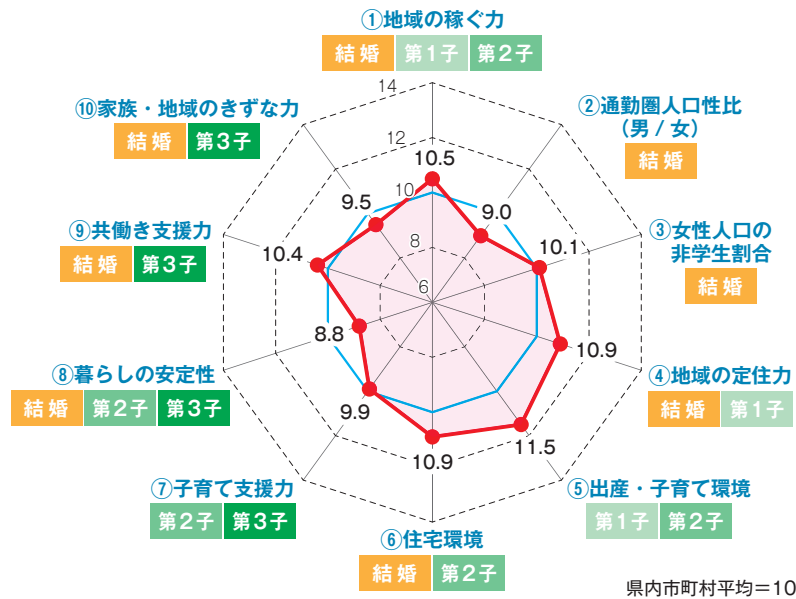
全国との差の要因分解



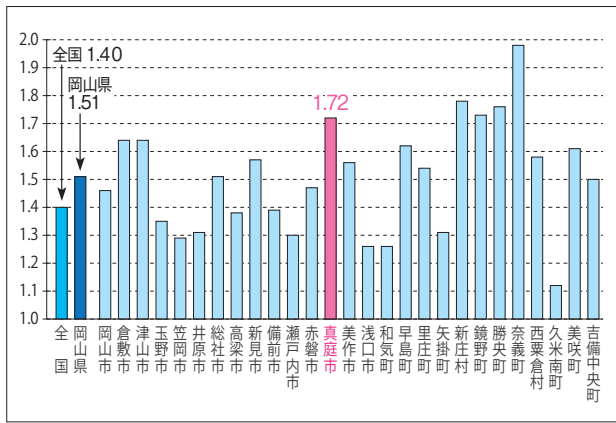
岡山県との差の要因分解



出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)



- 有配偶率は、全国を上回るものの、どの年齢でみても岡山県と同程度である。結婚に関わる要因は平均を上回るものが多いが、平均より低い「②通勤圏人口性比」がマイナスに影響していると考えられる。
- 第1子の有配偶出生率は、全国、岡山県ともに下回っているが、第1子に関わる要因は平均を上回っており、今回の分析対象とした指標以外の地域独自の要因がマイナスに影響していると考えられる。
- 第2子、第3子は、全国、岡山県ともに上回っており、「⑤出産・子育て環境」、「⑥住宅環境」、「⑨共働き支援力」が高いことがプラスに影響していると考えられる。

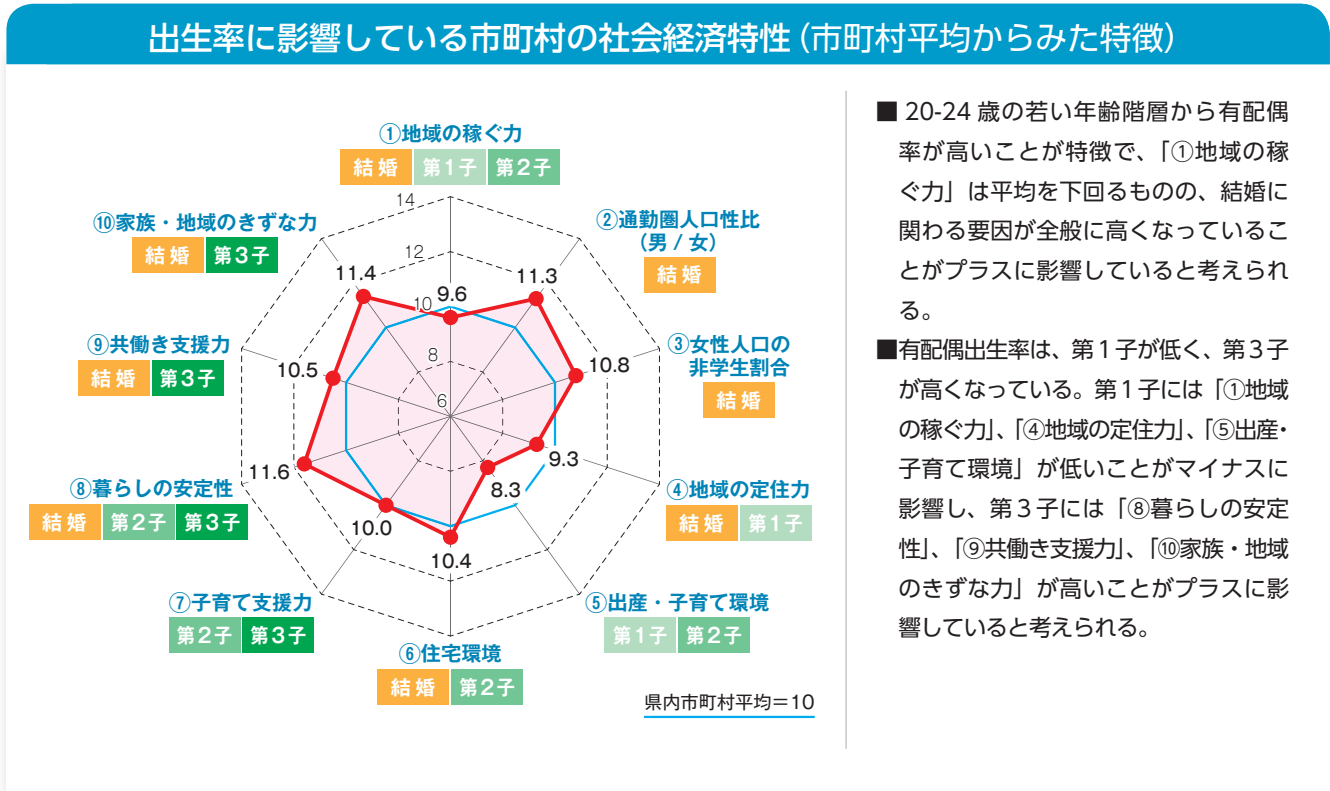
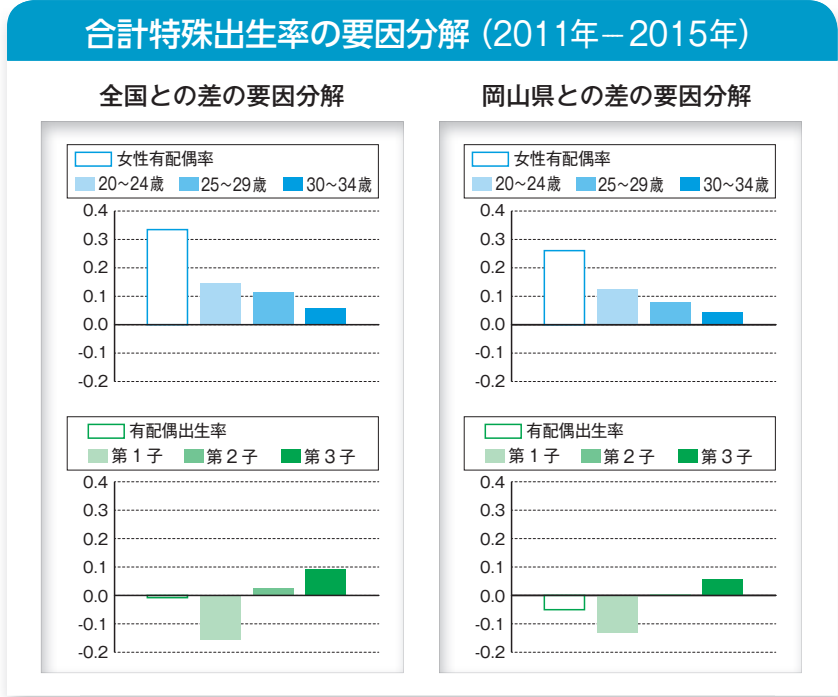
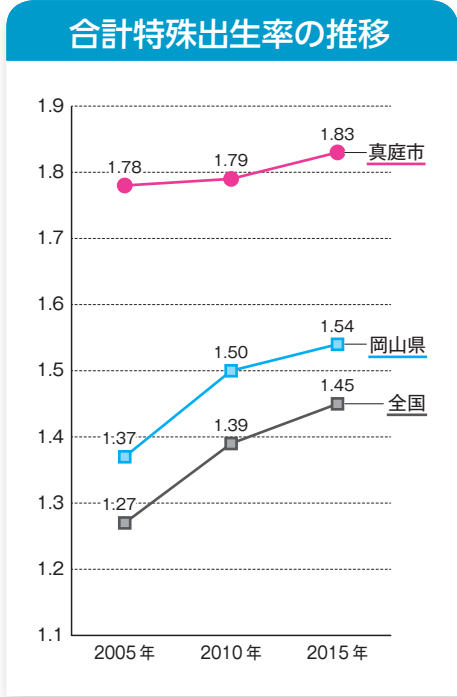
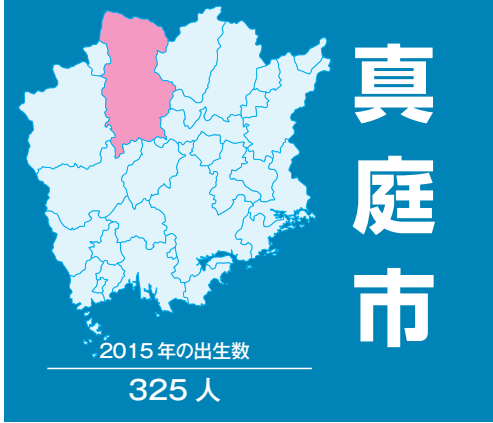


合計特殊出生率
(2011年-2015年)

1.72

ベイズ推定値 1.72

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) + 0.33
ポイント

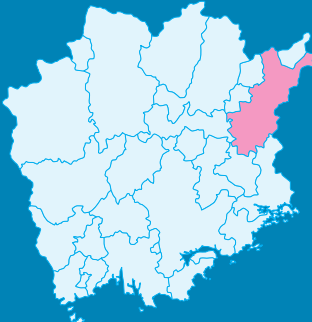


■ 20-24歳の若い年齢階層から有配偶率が高いことが特徴で、「①地域の稼ぐ力」は平均を下回るものの、「結婚に関わる要因が全般に高くなっていることがプラスに影響していると考えられる。

■ 有配偶出生率は、第1子が低く、第3子が高くなっている。第1子には「①地域の稼ぐ力」、「④地域の定住力」、「⑤出産・子育て環境」が低いことがマイナスに影響し、第3子には「⑧暮らしの安定性」、「⑨共働き支援力」、「⑩家族・地域のきずな力」が高いことがプラスに影響していると考えられる。

- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西粟倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

美作市



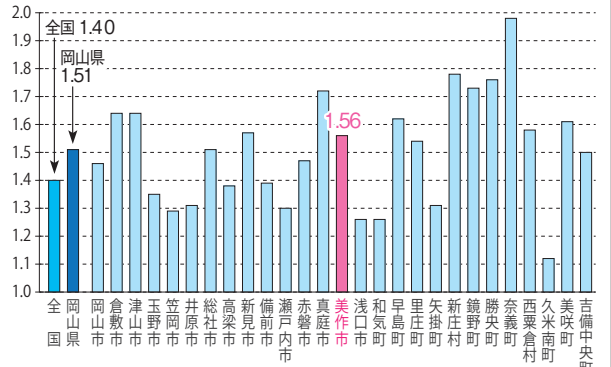
2015年の出生数
157人

合計特殊出生率 (2011年-2015年)

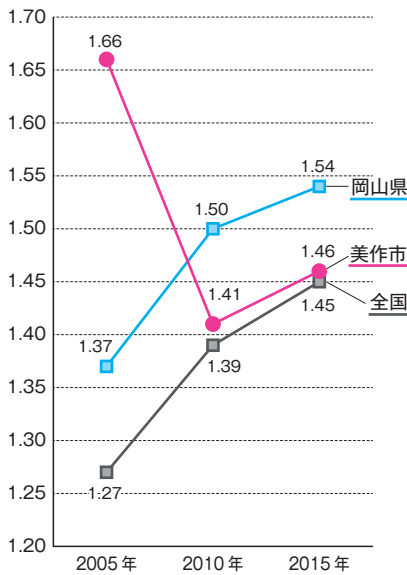
1.56

ベース推定値 1.62

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **+0.17**
ポイント

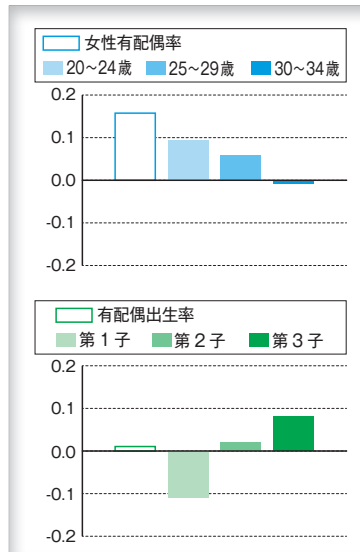


合計特殊出生率の推移

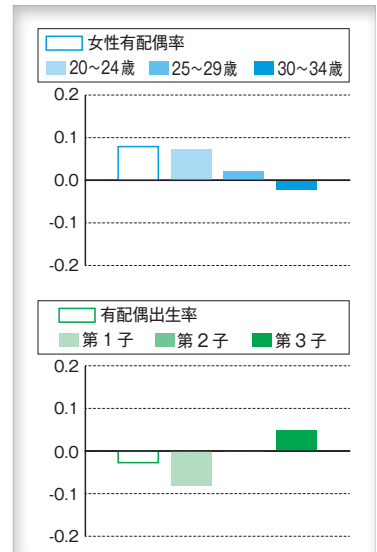


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

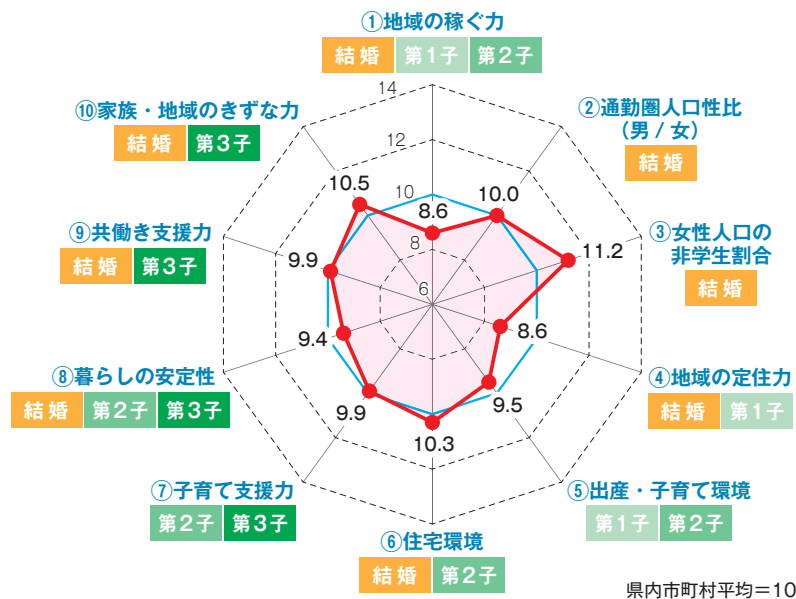
全国との差の要因分解



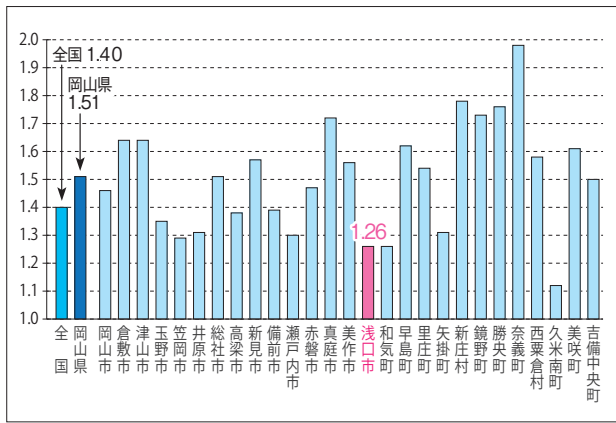
岡山県との差の要因分解



出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)



- 若い年齢階層の有配偶率が高く、「③女性人口の非学生割合」、「⑥住宅環境」、「⑩家族・地域のきずな力」が高いことがプラスに影響していると考えられる。
- 第1子の有配偶出生率は、全国、岡山県ともに下回っており、「①地域の稼ぐ力」、「④地域の定住力」、「⑤出産・子育て環境」が低いことがマイナスに影響していると考えられる。
- 第3子は、「⑧暮らしの安定性」がやや低いものの、第3子に関わるその他の要因が平均か、平均を上回っていることがプラスに影響していると考えられる。

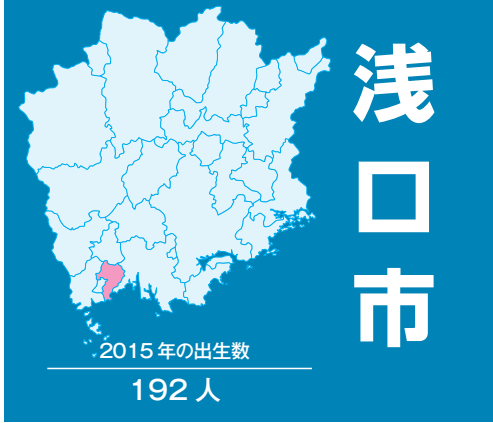


合計特殊出生率
(2011年-2015年)

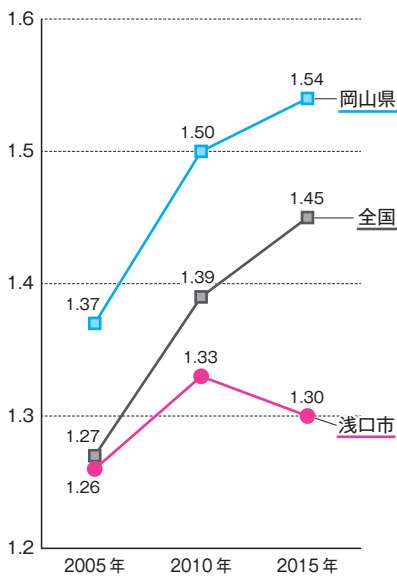
1.26

ベイズ推定値 1.45

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) -0.13
ポイント

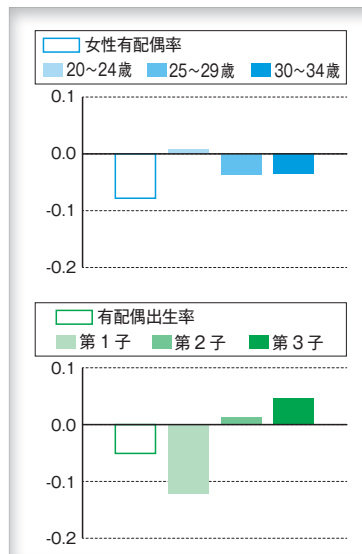


合計特殊出生率の推移

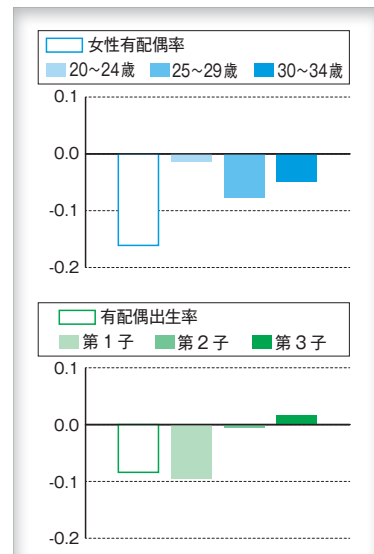


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

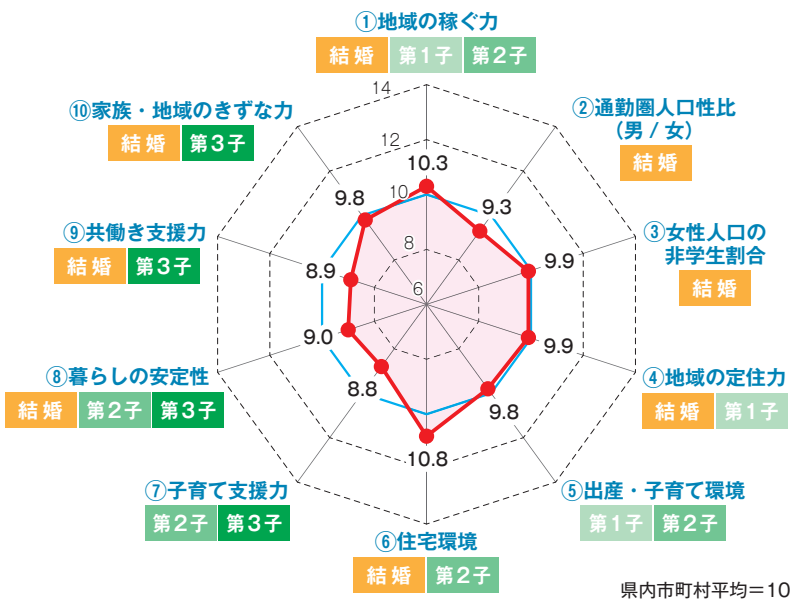
全国との差の要因分解



岡山県との差の要因分解



出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)

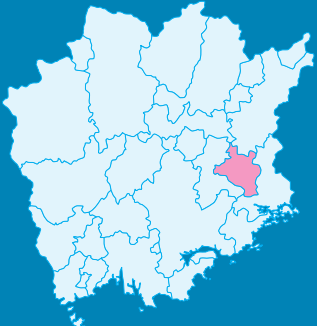


■ 25-29歳と30-34歳の有配偶率は、全国、岡山県ともに下回っており、「②通勤圏人口性比」のほか、30-34歳の有配偶率に影響する「⑨共働き支援力」が低いことがマイナスに影響していると考えられる。

■ 第1子の有配偶出生率は、全国、岡山県ともに下回っているが、第1子に関わる「①地域の稼ぐ力」等の要因はほぼ平均に近く、今回の分析対象とした指標以外の地域独自の要因がマイナスに影響していると考えられる。また、第3子は、全国、岡山県ともに上回るものの、第3子に関わる要因は平均を下回っており、今回の分析対象とした指標以外の地域独自の要因がプラスに影響していると考えられる。

- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西粟倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

和気町



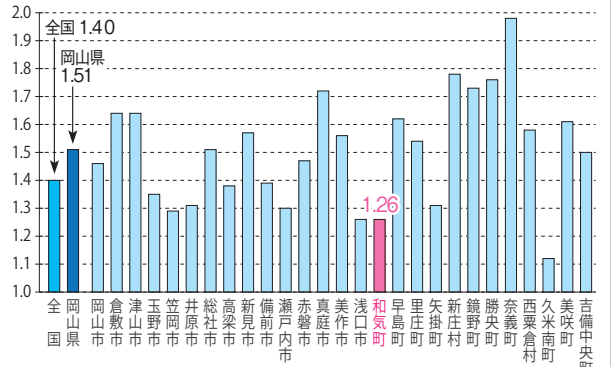
2015年の出生数
68人

合計特殊出生率 (2011年-2015年)

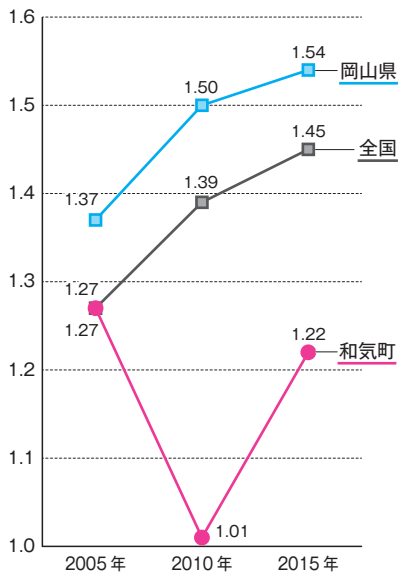
1.26

ベース推定値 1.43

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **-0.13**
ポイント

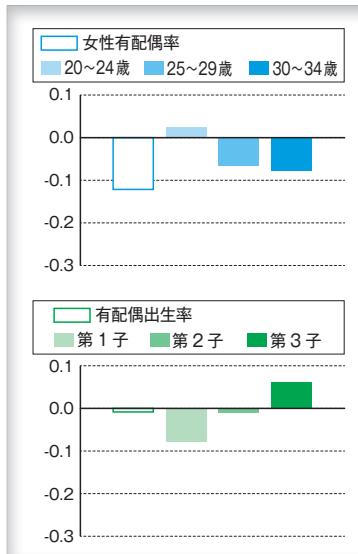


合計特殊出生率の推移

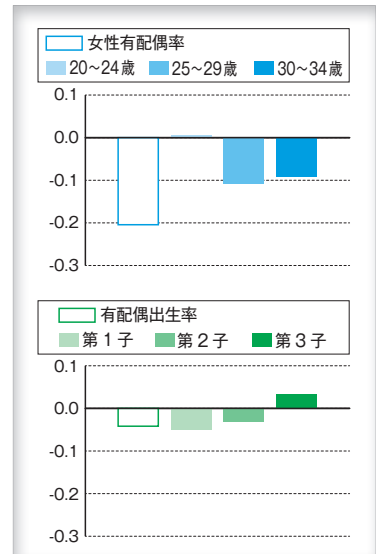


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

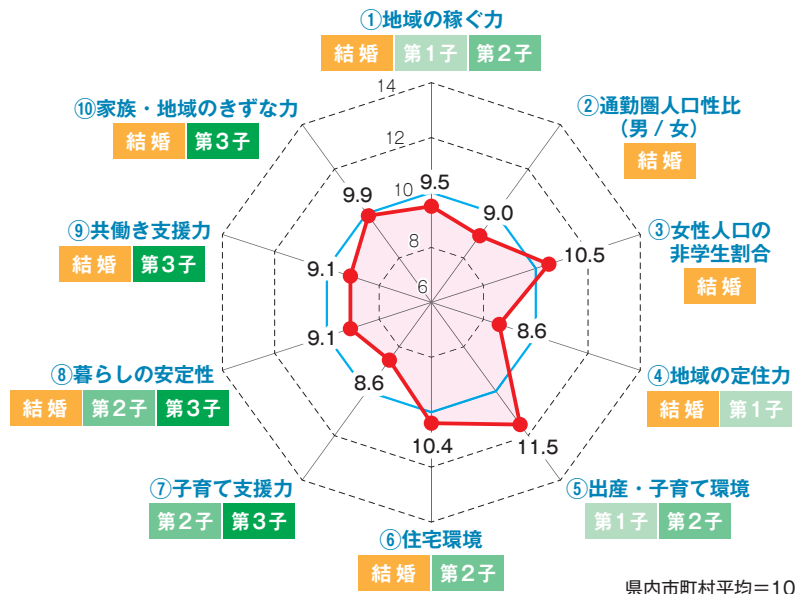
全国との差の要因分解



岡山県との差の要因分解

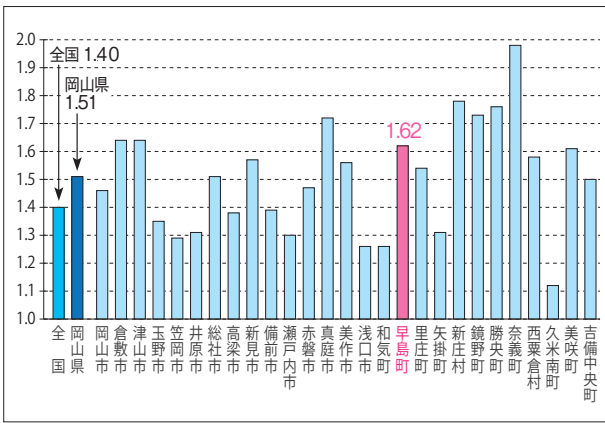


出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)



- 25-29歳と30-34歳の有配偶率は、全国、岡山県ともに下回っており、「③女性人口の非学生割合」、「⑤出産・子育て環境」、「⑥住宅環境」を除き、全般に結婚に影響する要因が低いことがマイナスに影響していると考えられる。
- 第1子の有配偶出生率は、全国、岡山県ともに下回っており、「①地域の稼ぐ力」と「④地域の定住力」が低いことがマイナスに影響していると考えられる。
- 第3子は、全国、岡山県ともに上回っているものの、第3子に関わる要因は平均を下回っている。このため、和気町の出生率には、多子世帯割合が市町村平均を上回っていること(2010年の市町村平均14.9%、和気町15.9%)など、今回の分析対象とした指標以外の地域独自の要因が影響していると考えられる。

早島町

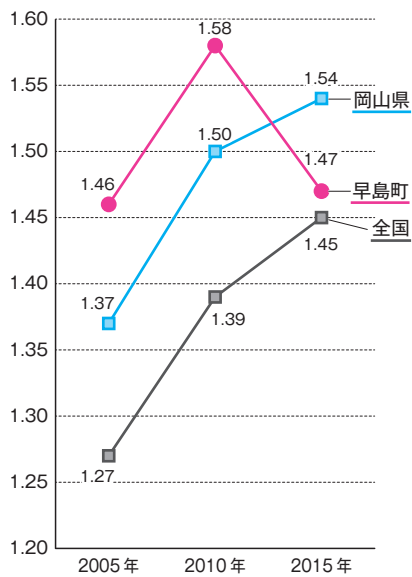


合計特殊出生率
(2011年-2015年)
1.62

ベイズ推定値 1.58

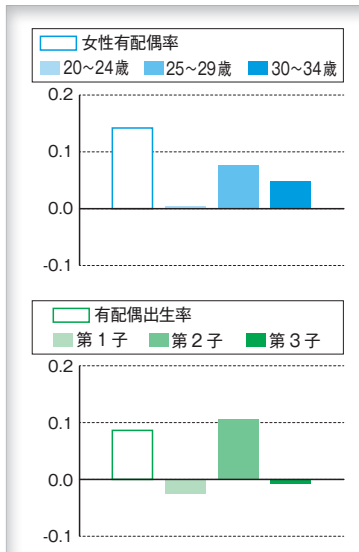
合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **+0.23**
ポイント

合計特殊出生率の推移

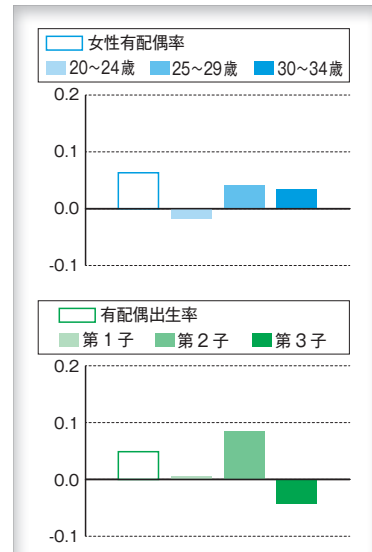


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

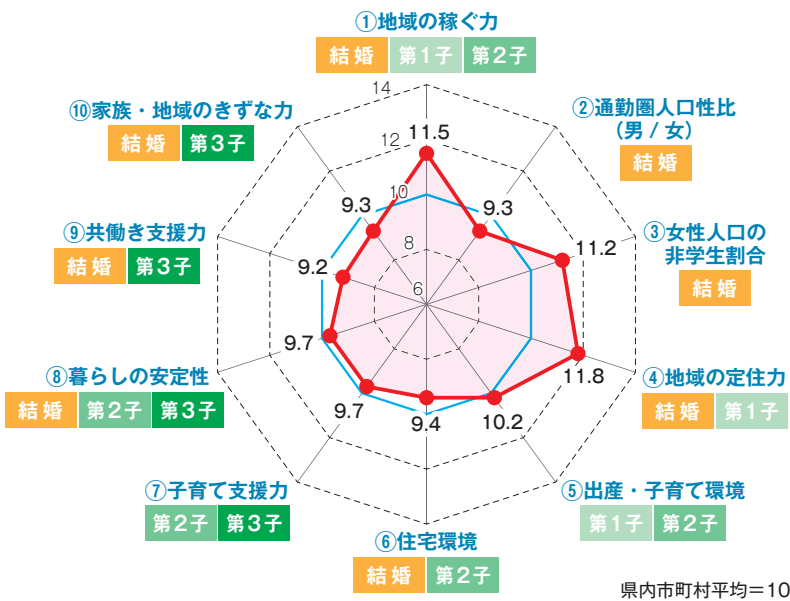
全国との差の要因分解



岡山県との差の要因分解



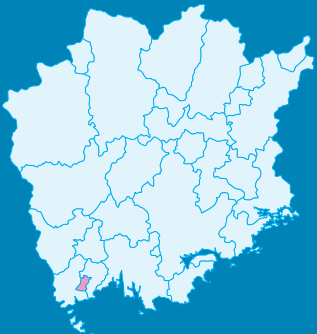
出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)



- 有配偶率は、全国、岡山県ともに上回っており、「①地域の稼ぐ力」、「④地域の定住力」等がプラスに影響していると考えられる。
- 有配偶出生率の特徴は、第2子が高いことであるが、第2子に影響する要因は、「①地域の稼ぐ力」と「⑤出産・子育て環境」が高いことがプラスに影響していると考えられる。
- 第3子は、岡山県を下回っており、第3子に関わる要因がいずれも平均より低くなっていることがマイナスに影響していると考えられる。

- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西粟倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

里庄町



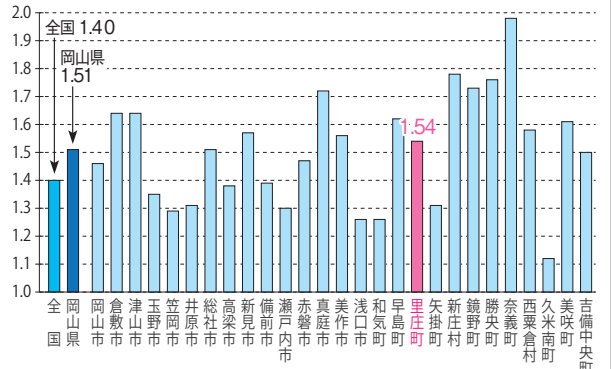
2015年の出生数
73人

合計特殊出生率 (2011年-2015年)

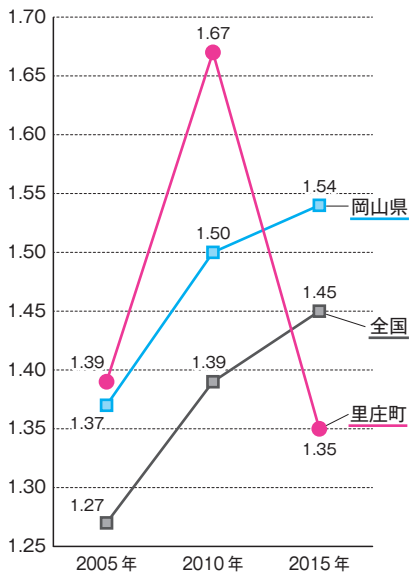
1.54

ベース推定値 1.56

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **+0.15**
ポイント

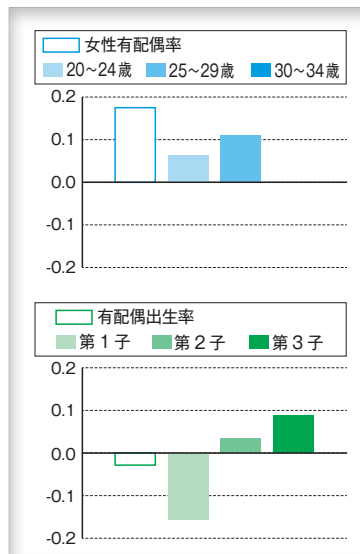


合計特殊出生率の推移

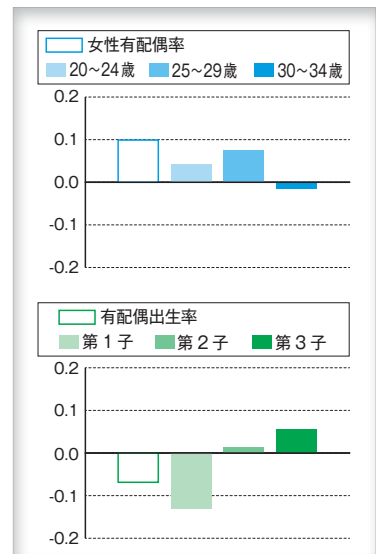


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

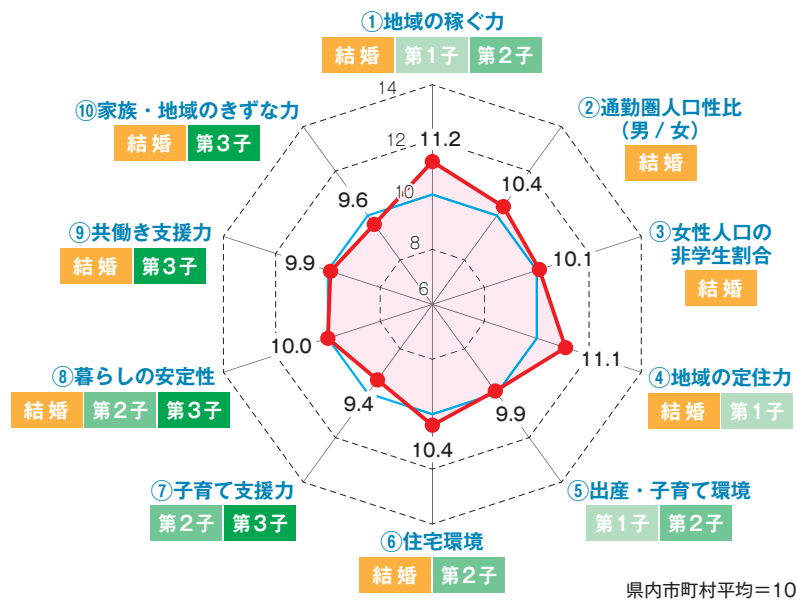
全国との差の要因分解



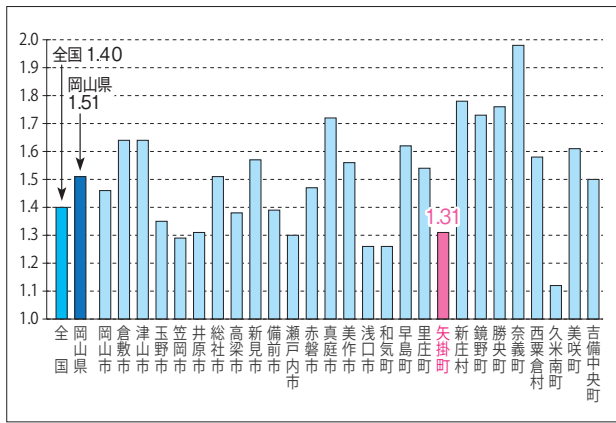
岡山県との差の要因分解



出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)



- 20歳代の有配偶率が高いことが特徴である。「①地域の稼ぐ力」、「④地域の定住力」、「⑥住宅環境」など結婚に関わる要因が平均を上回るものが多いことがプラスに影響していると考えられる。
- 有配偶出生率については、第1子が全国、岡山県ともに下回っているものの、第1子に関する要因は「⑤出産・子育て環境」を除き、平均を上回っていることから、今回の分析対象とした指標以外の地域独自の要因がマイナスに影響していると考えられる。
- 第2子、第3子は、全国、岡山県ともに上回っており、「①地域の稼ぐ力」と「⑥住宅環境」が高いほか、その他の要因もほぼ平均に近いことがプラスに影響していると考えられる。

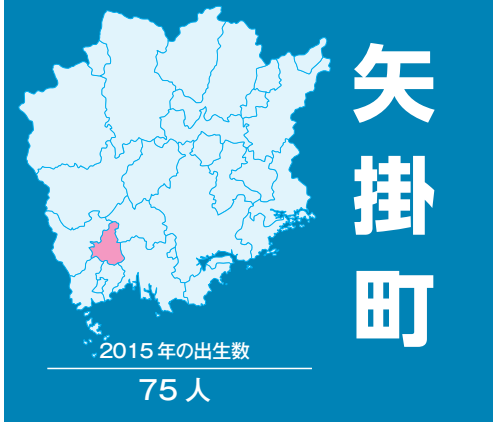


合計特殊出生率
(2011年-2015年)

1.31

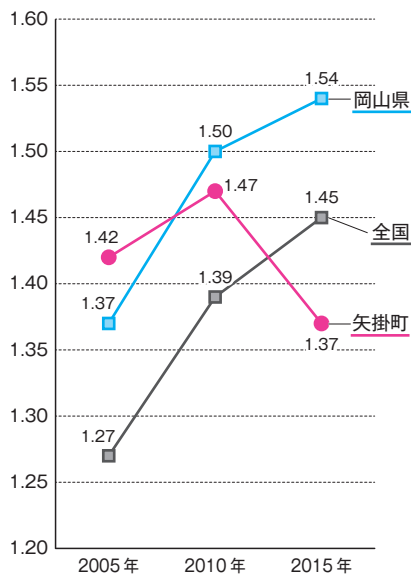
ベイズ推定値 1.52

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **-0.09**
ポイント



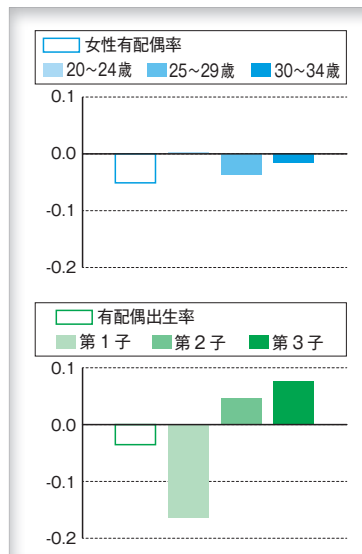
矢掛町

合計特殊出生率の推移

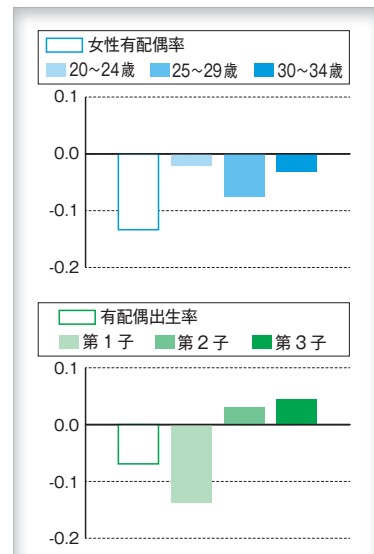


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

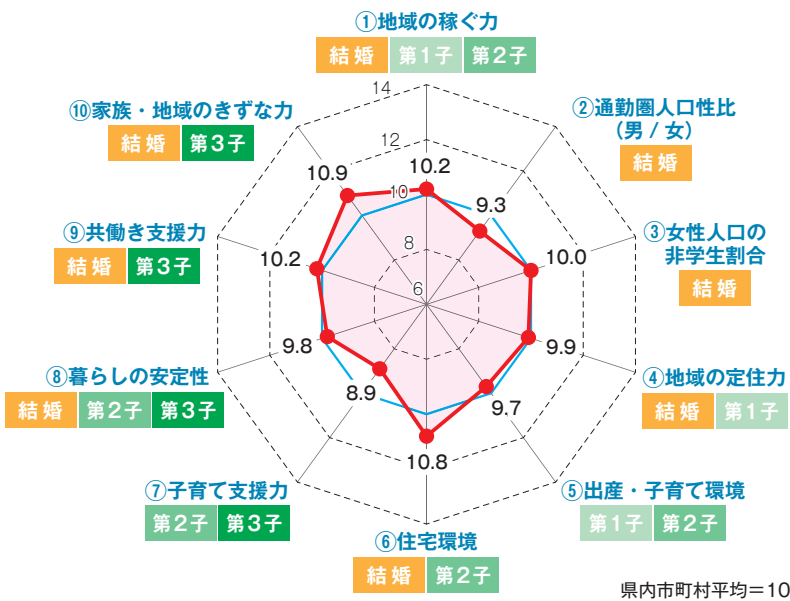
全国との差の要因分解



岡山県との差の要因分解



出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)



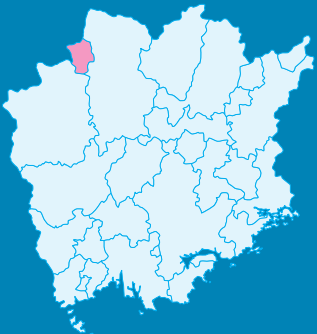
■有配偶率は、全国、岡山県ともに下回っており、結婚に関わる要因は平均に近いものが多いが、「②通勤圏人口性比」が低いことがマイナスに影響していると考えられる。

■第1子の有配偶出生率は、全国、岡山県ともに下回っているものの、第1子に関わる要因は平均に近く、今回の分析対象とした指標以外の地域独自の要因がマイナスに影響していることが考えられる。

■第2子・第3子は、全国、岡山県ともに上回っており、第2子には「⑥住宅環境」、第3子には「⑨共働き支援力」と「⑩家族・地域のきずな力」が高いことがプラスに影響していると考えられる。

- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西粟倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

新庄村



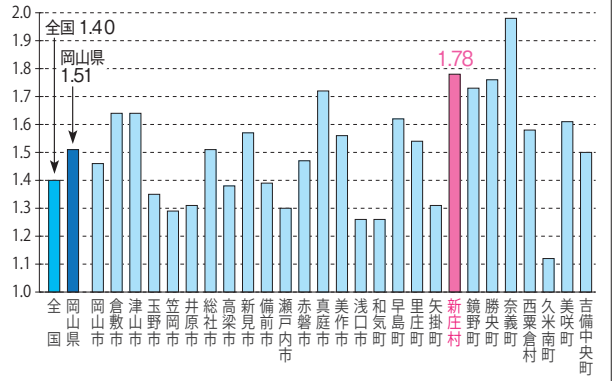
2015年の出生数
3人

合計特殊出生率 (2011年-2015年)

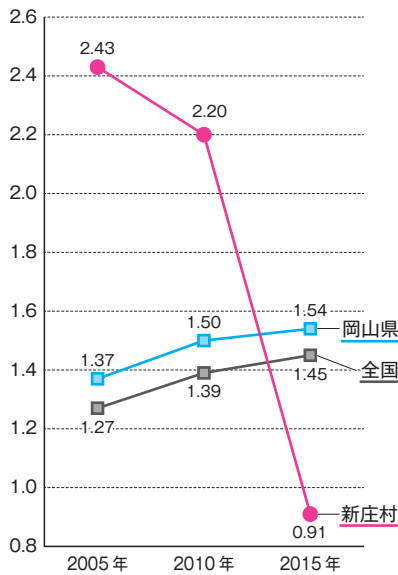
1.78

ベース推定値 1.72

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **+0.39**
ポイント

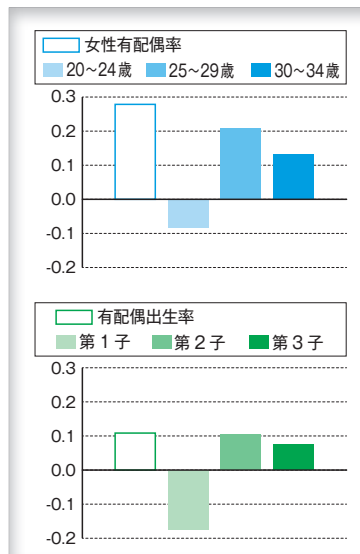


合計特殊出生率の推移

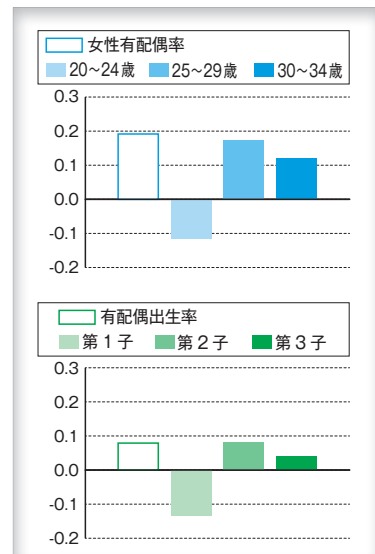


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

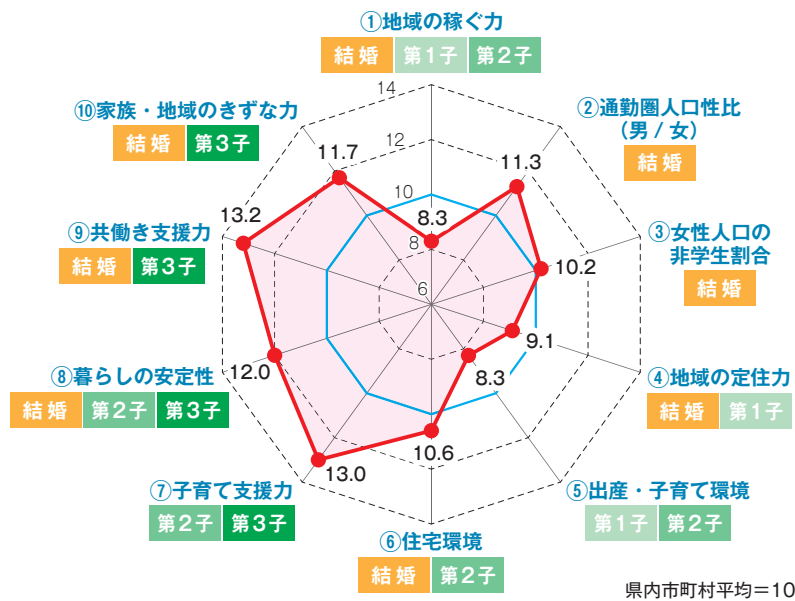
全国との差の要因分解



岡山県との差の要因分解

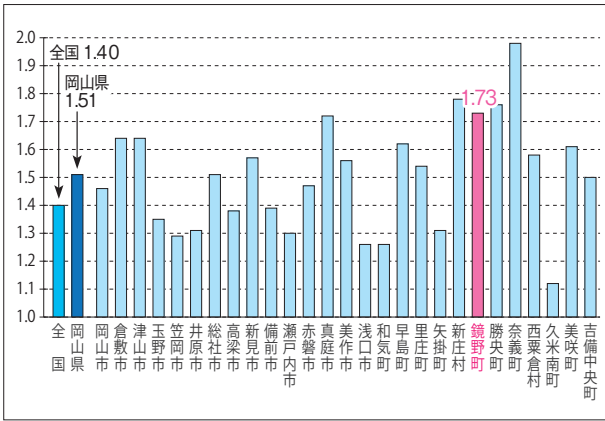
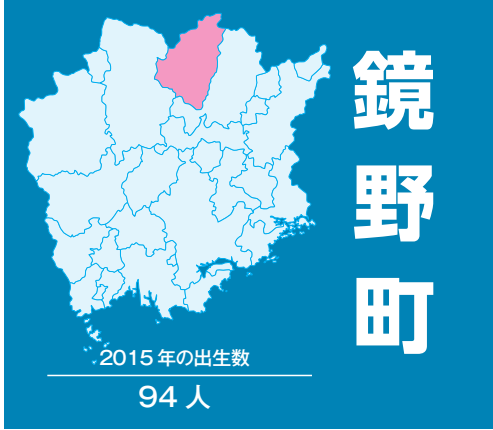


出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)

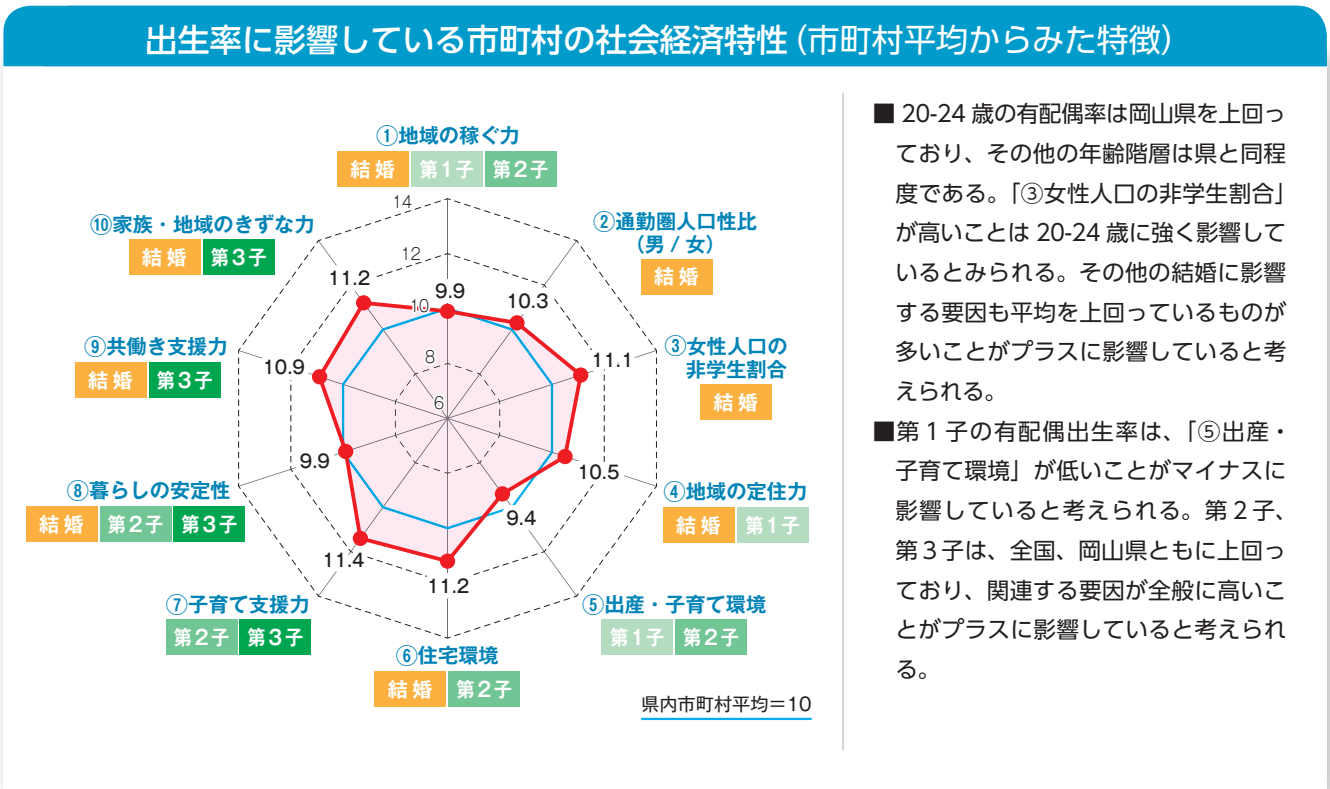
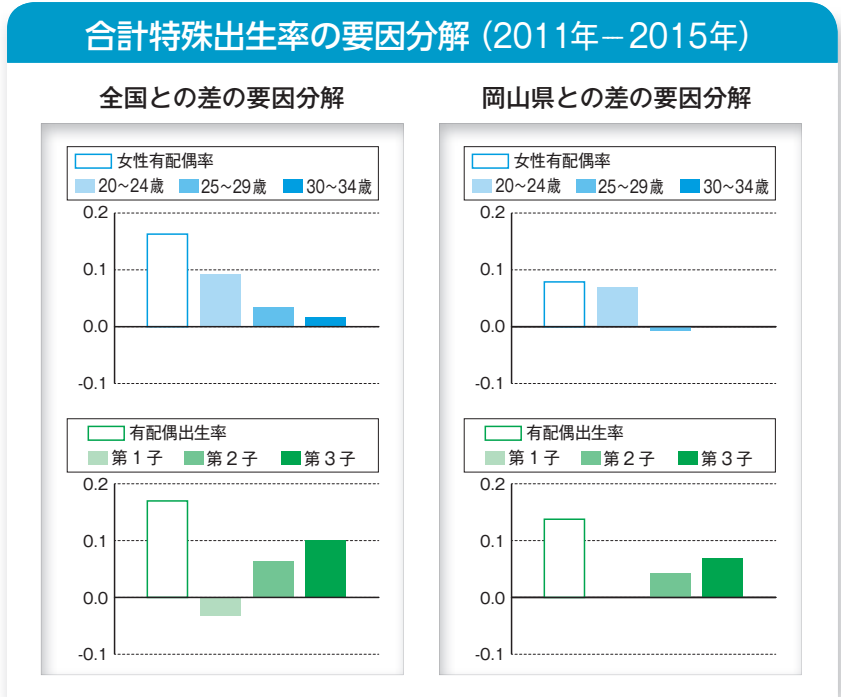
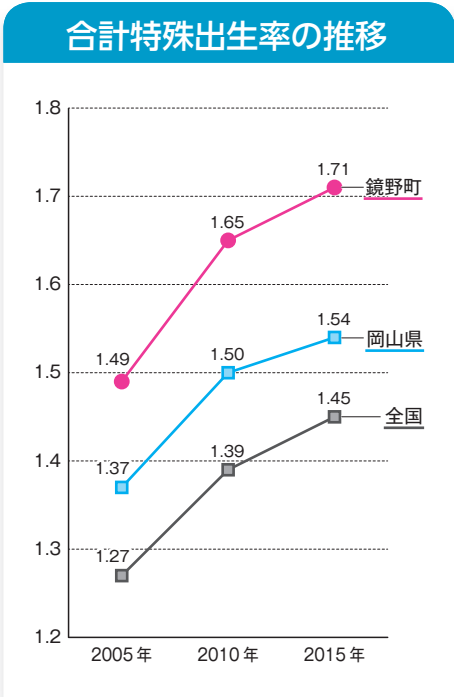


■有配偶率は、20-24歳が低く、25-29歳と30-34歳が高いことが特徴である。「①地域の稼ぐ力」や「④地域の定住力」が平均より低いが、「②通勤圏人口性比」が高く、また、30-34歳の有配偶率に影響する「⑨共働き支援力」が平均を上回るなど、それぞれの要因が有配偶率の傾向に影響していると考えられる。

■第1子出生率の低さには「①地域の稼ぐ力」と「④地域の定住力」が低いことがマイナスに影響し、第2子と第3子には「⑥住宅環境」、「⑦子育て支援力」、「⑧暮らしの安定性」、「⑨共働き支援力」等が高いことがプラスに影響していると考えられる。



合計特殊出生率
(2011年-2015年)
1.73
ベイズ推定値 1.66
合計特殊出生率の
全国との差 +0.33
(2011年-2015年) ポイント

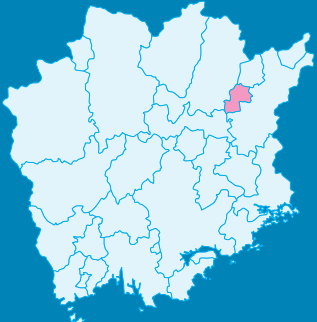


■ 20-24歳の有配偶率は岡山県を上回っており、その他の年齢階層は県と同程度である。「③女性人口の非学生割合」が高いことは20-24歳に強く影響しているとみられる。その他の結婚に影響する要因も平均を上回っているものが多いことがプラスに影響していると考えられる。

■ 第1子の有配偶出生率は、「⑤出産・子育て環境」が低いことがマイナスに影響していると考えられる。第2子、第3子は、全国、岡山県ともに上回っており、関連する要因が全般に高いことがプラスに影響していると考えられる。

- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西粟倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

勝央町



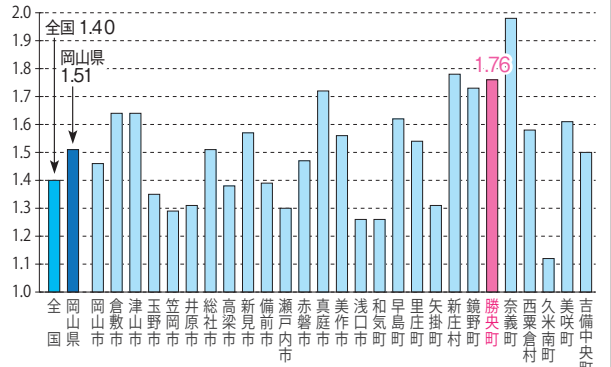
2015年の出生数
110人

合計特殊出生率 (2011年-2015年)

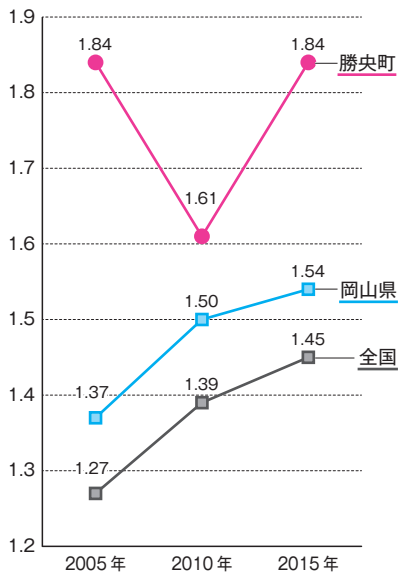
1.76

ベース推定値 1.66

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **+0.36**
ポイント

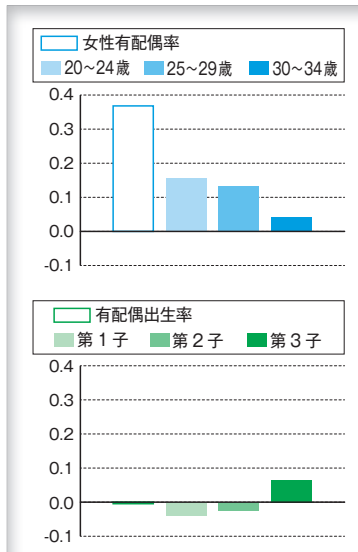


合計特殊出生率の推移

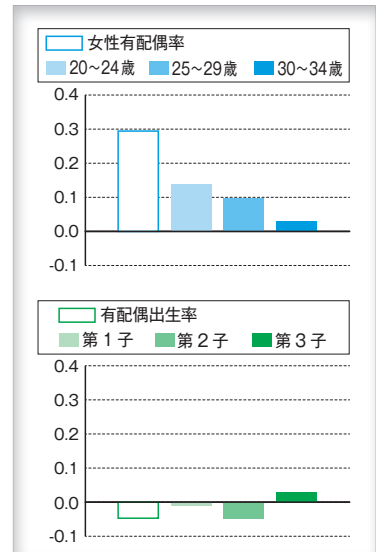


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

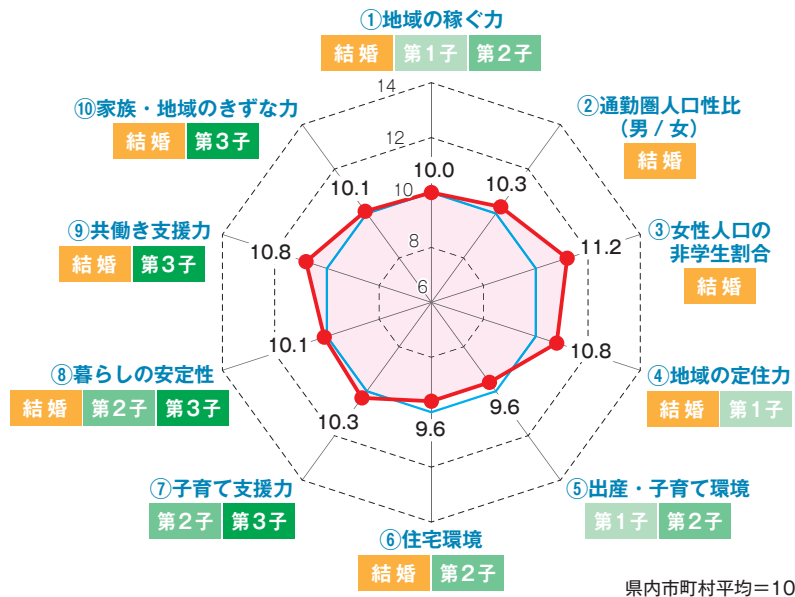
全国との差の要因分解



岡山県との差の要因分解

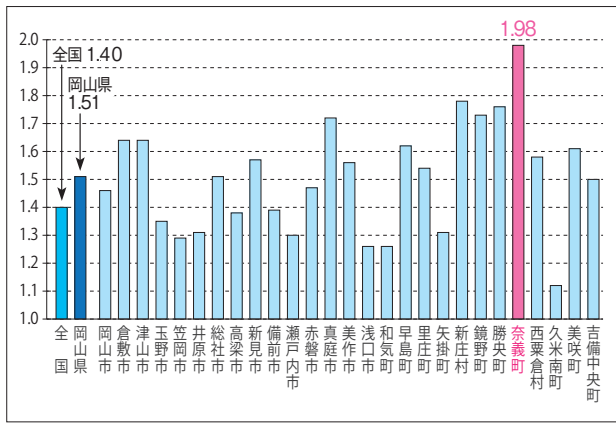


出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)



■有配偶率は、どの年齢階層も、全国、岡山県ともに上回っており、結婚に関わる要因は平均程度か、平均を上回っていることがプラスに影響していると考えられる。

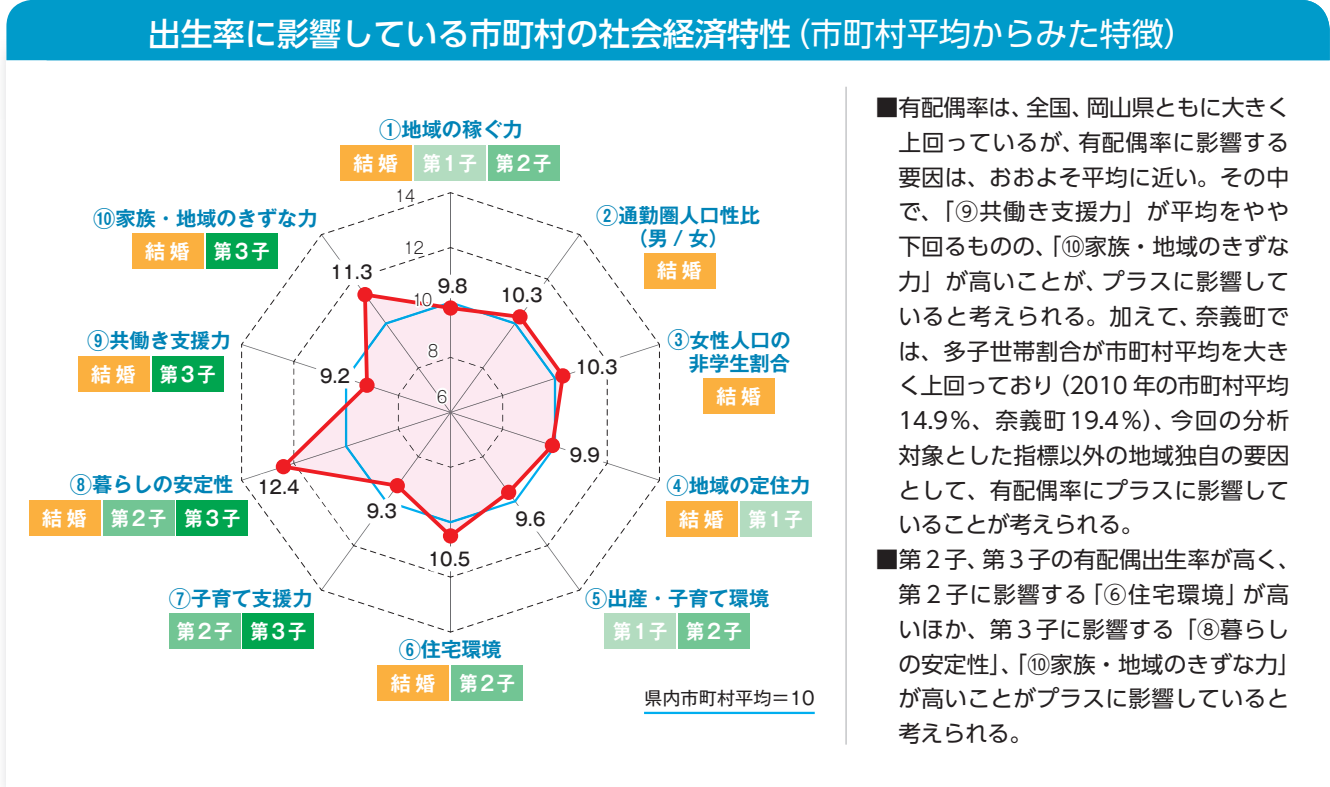
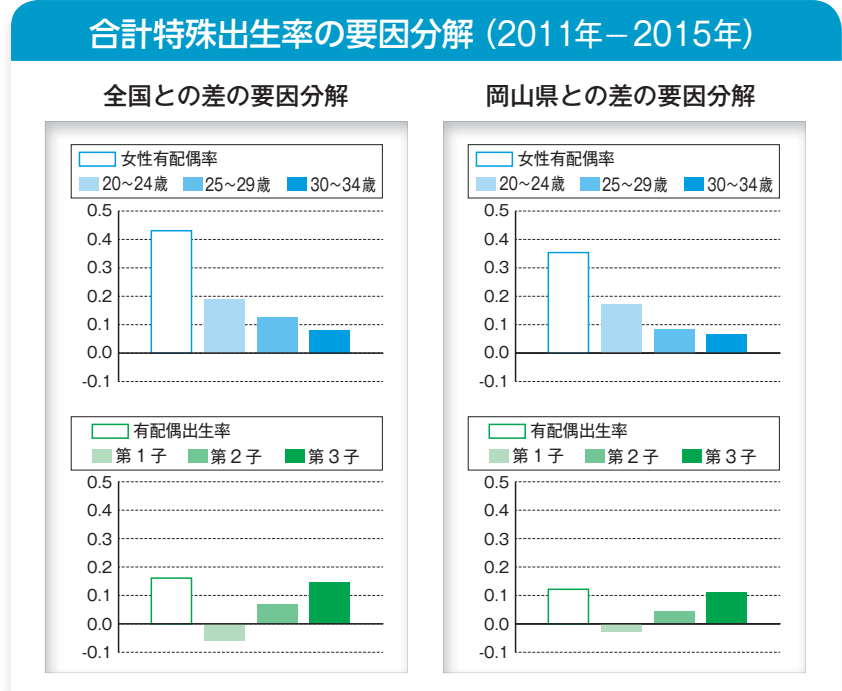
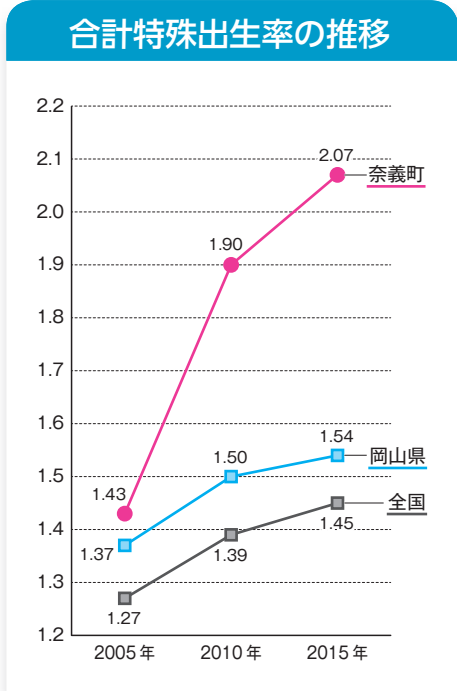
■有配偶出生率は、第3子が岡山県を上回るものの、全体的に県に近い。有配偶出生率に関わる要因も平均に近いものが多い。その中で、第1子、第2子に影響する「⑤出産・子育て環境」と「⑥住宅環境」が平均を下回っていることがマイナスに影響していると考えられる。



合計特殊出生率
(2011年-2015年)
1.98
ベイズ推定値 1.67
合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **+ 0.59**
ポイント



奈義町

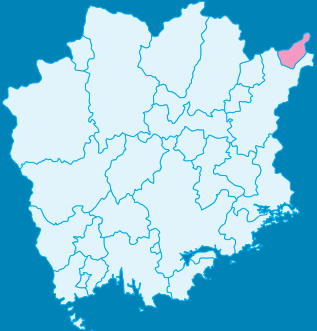


■有配偶率は、全国、岡山県ともに大きく上回っているが、有配偶率に影響する要因は、おおよそ平均に近い。その中で、「⑨共働き支援力」が平均をやや下回るものの、「⑩家族・地域のきずな力」が高いことが、プラスに影響していると考えられる。加えて、奈義町では、多子世帯割合が市町村平均を大きく上回っており (2010年の市町村平均14.9%、奈義町19.4%)、今回の分析対象とした指標以外の地域独自の要因として、有配偶率にプラスに影響していることが考えられる。

■第2子、第3子の有配偶出生率が高く、第2子に影響する「⑥住宅環境」が高いほか、第3子に影響する「⑧暮らしの安定性」、「⑩家族・地域のきずな力」が高いことがプラスに影響していると考えられる。

- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西粟倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

西粟倉村



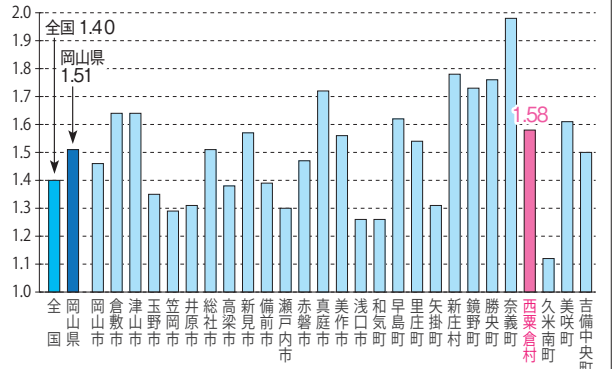
2015年の出生数
4人

合計特殊出生率
(2011年-2015年)

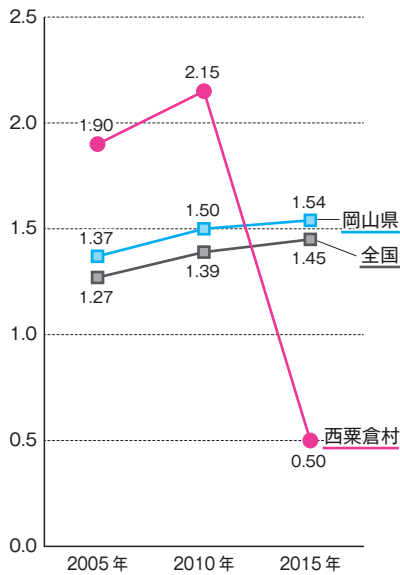
1.58

ベース推定値 1.64

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **+0.19**
ポイント

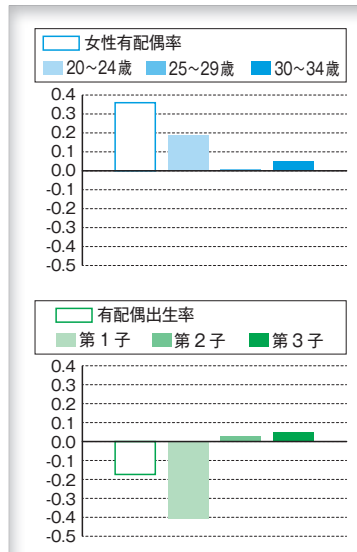


合計特殊出生率の推移

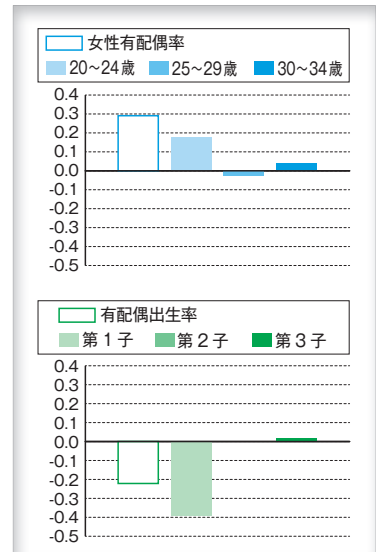


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

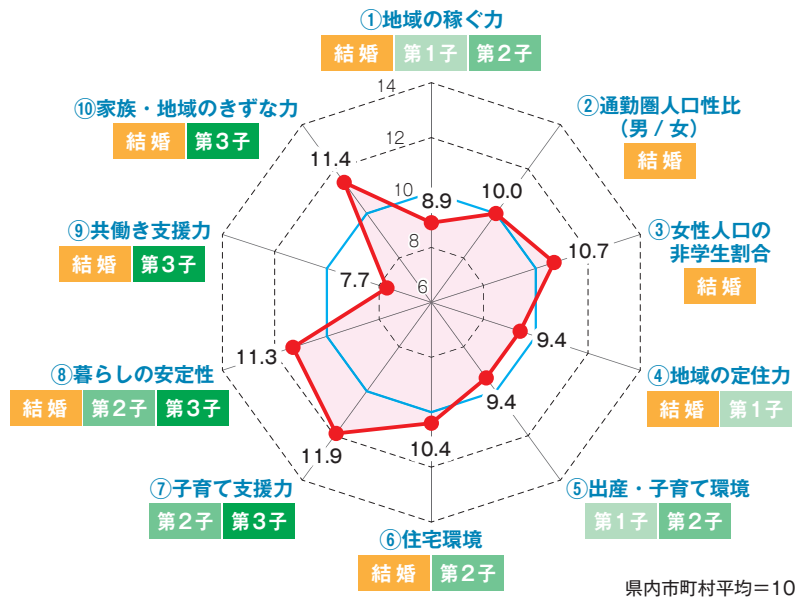
全国との差の要因分解



岡山県との差の要因分解



出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)

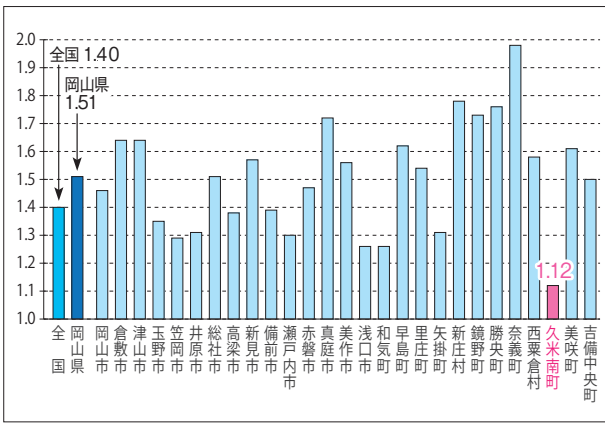


■ 20-24 歳有配偶率が岡山県を上回っていることが特徴であるが、「③女性人口の非学生割合」が高いことがプラスに影響していると考えられる。25-29 歳と 30-34 歳は県に近く、「②通勤圏人口性比」等が平均に近いことが影響していると考えられる。

■ 第 1 子の有配偶出生率については、全国、岡山県ともに下回っており、「①地域の稼ぐ力」、「④地域の定住力」等が低いことがマイナスに影響していると考えられる。

■ 第 3 子は、岡山県と同程度であるものの、「⑨共働き支援力」が低いことが、他の関連要因の高さを打ち消している可能性が考えられる。

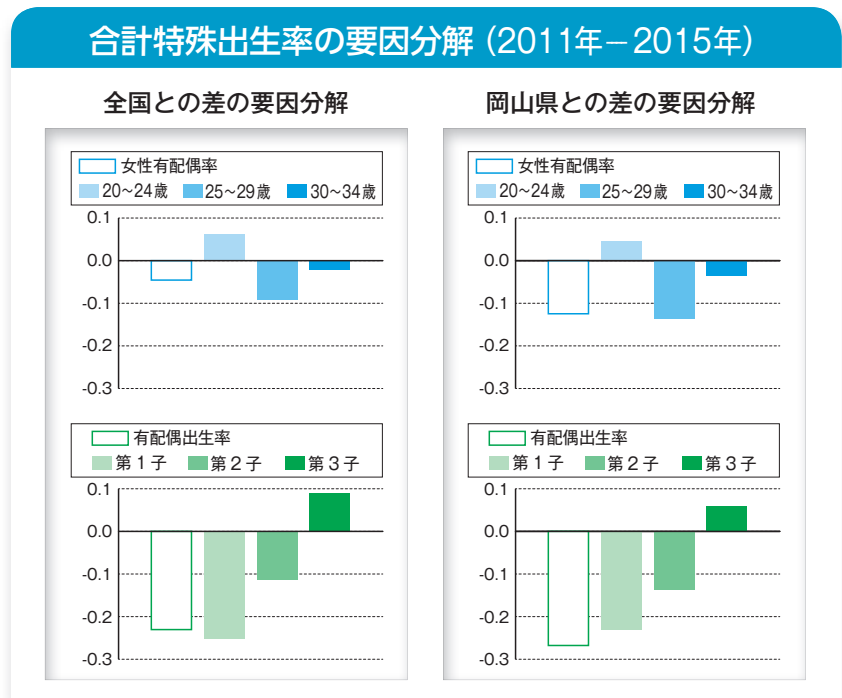
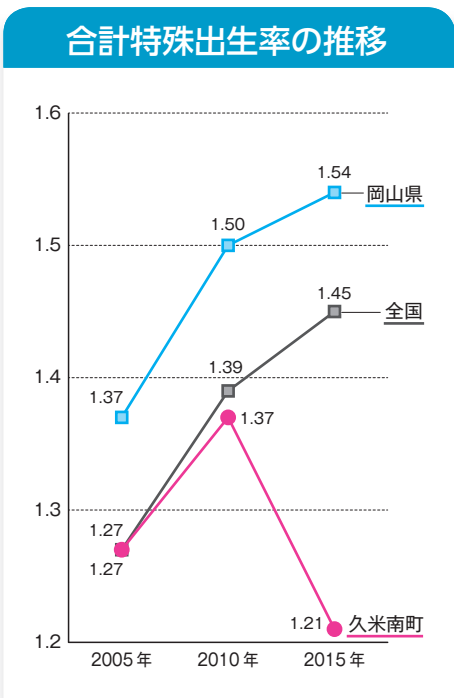
久米南町



合計特殊出生率
(2011年-2015年)
1.12

ベイズ推定値 1.62

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **-0.28**
ポイント



出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)

県内市町村平均=10

- ①地域の稼ぐ力: 結婚, 第1子, 第2子
- ②通勤圏人口性比 (男/女): 結婚
- ③女性人口の非学生割合: 結婚
- ④地域の定住力: 結婚, 第1子
- ⑤出産・子育て環境: 第1子, 第2子
- ⑥住宅環境: 結婚, 第2子
- ⑦子育て支援力: 第2子, 第3子
- ⑧暮らしの安定性: 結婚, 第2子, 第3子
- ⑨共働き支援力: 結婚, 第3子
- ⑩家族・地域のきずな力: 結婚, 第3子

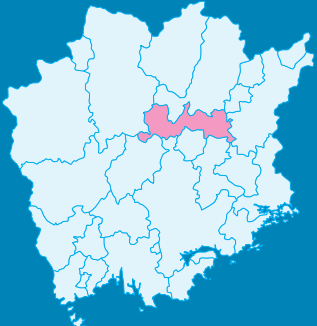
■ 25-29歳と30-34歳の有配偶率は、全国、岡山県ともに下回っており、結婚に関する要因が全般に高い中で、「①地域の稼ぐ力」と「③女性人口の非学生割合」が低いことが強く影響していることや、これ以外に、今回の分析対象にした指標以外の地域独自の要因が働いていると考えられる。

■ 第1子と第2子の有配偶出生率は、全国、岡山県ともに下回っており、「①地域の稼ぐ力」と「⑧暮らしの安定性」が低いことがマイナスに影響していると考えられる。

■ 第3子は、全国、岡山県ともに上回っており、「⑨共働き支援力」が高いことがプラスに影響していると考えられる。

- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西栗倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

美咲町



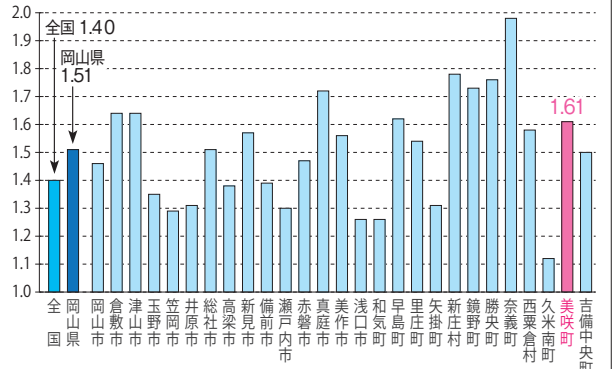
2015年の出生数
96人

合計特殊出生率 (2011年-2015年)

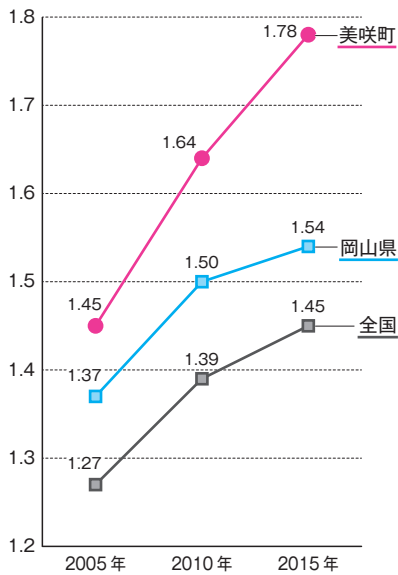
1.61

ベイズ推定値 1.64

合計特殊出生率の
全国との差
(2011年-2015年) **+0.21**
ポイント

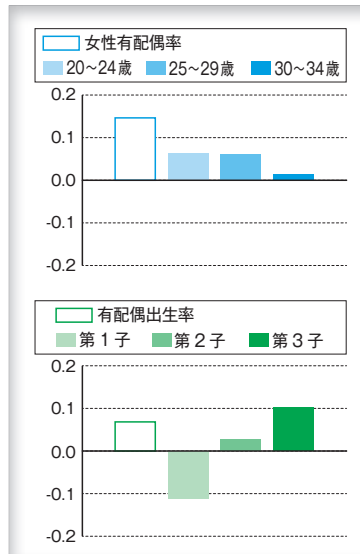


合計特殊出生率の推移

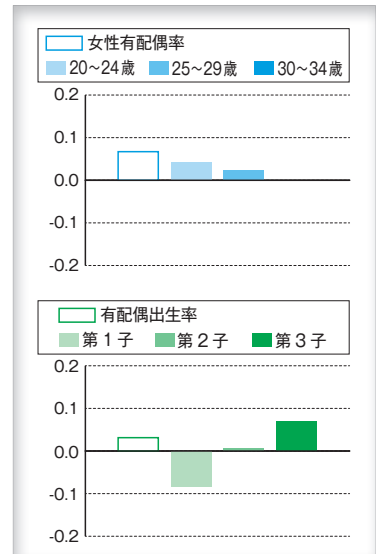


合計特殊出生率の要因分解 (2011年-2015年)

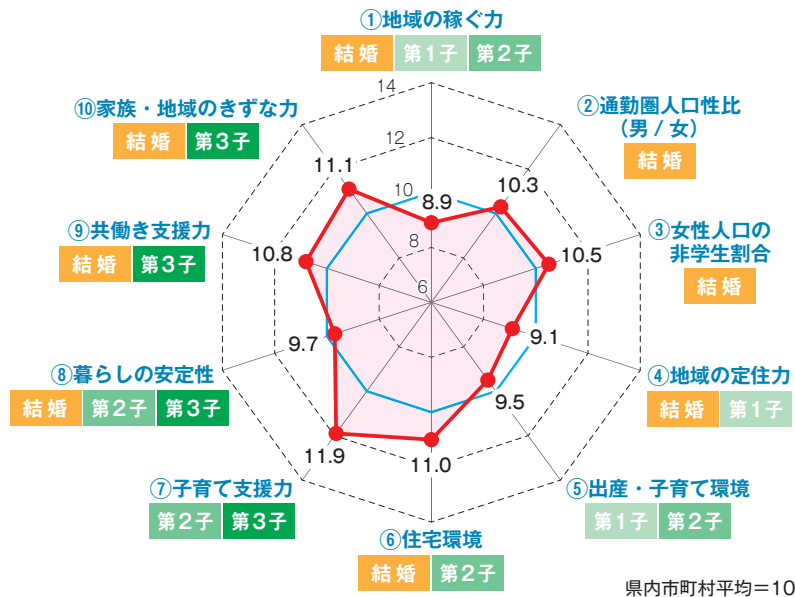
全国との差の要因分解



岡山県との差の要因分解

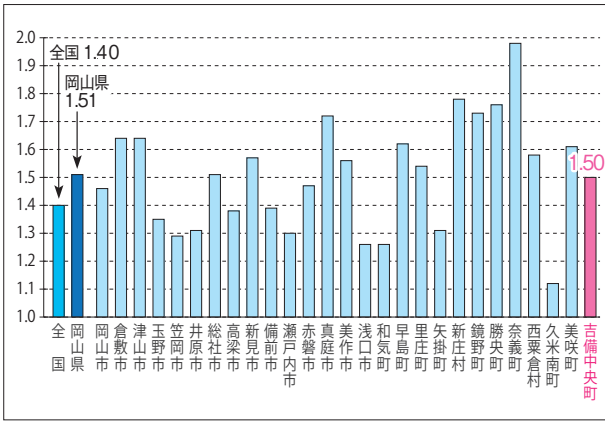


出生率に影響している市町村の社会経済特性 (市町村平均からみた特徴)



- 有配偶率は、全国、岡山県ともに上回っており、「①地域の稼ぐ力」と「④地域の定住力」は平均を下回るものの、その他の結婚に関わる要因が平均より高いことがプラスに影響していると考えられる。
- 第1子の有配偶出生率は、全国、岡山県ともに下回っており「①地域の稼ぐ力」、「⑤出産・子育て環境」等が低いことがマイナスに影響していると考えられる。
- 第2子、第3子は、全国、岡山県ともに上回っており、第2子は「⑥住宅環境」と「⑦子育て支援力」、第3子は「⑨共働き支援力」と「⑩家族・地域のきずな力」が高いことがプラスに影響していると考えられる。

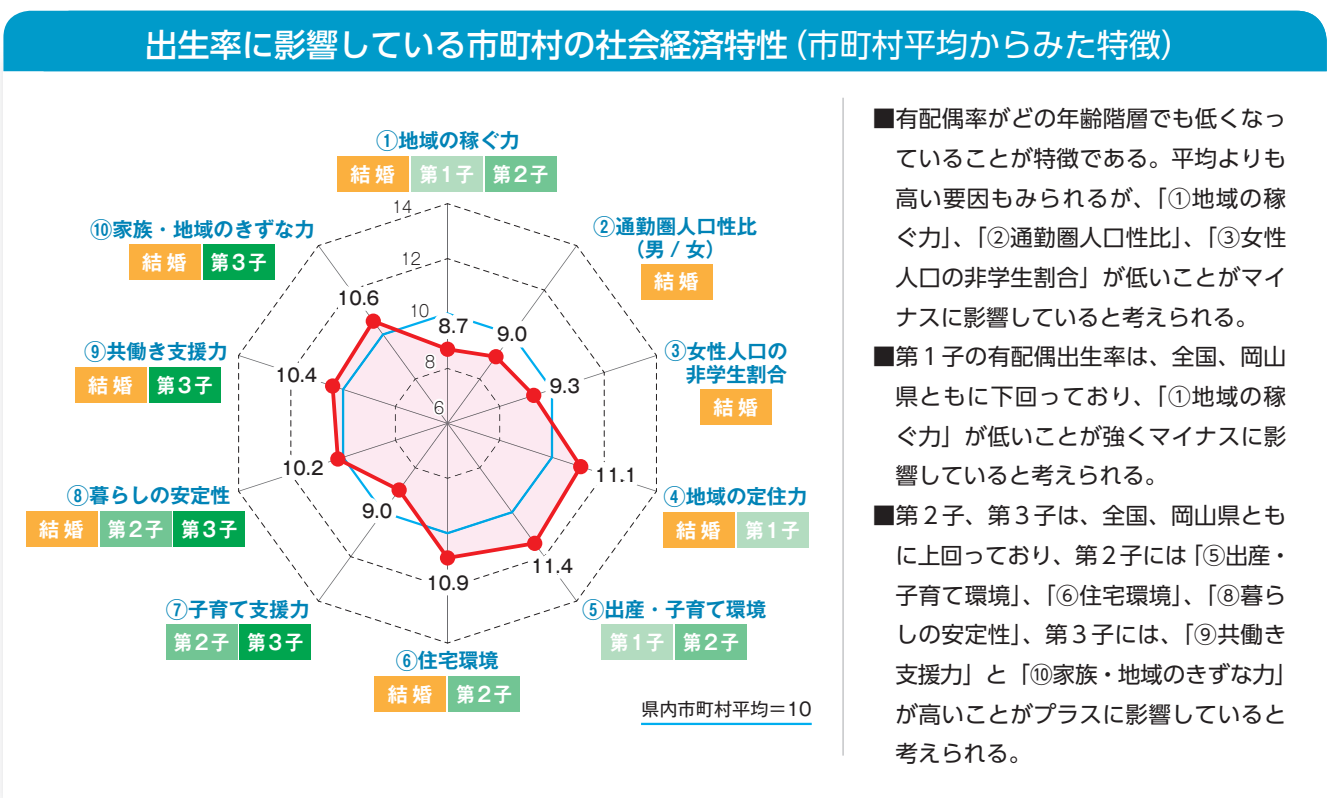
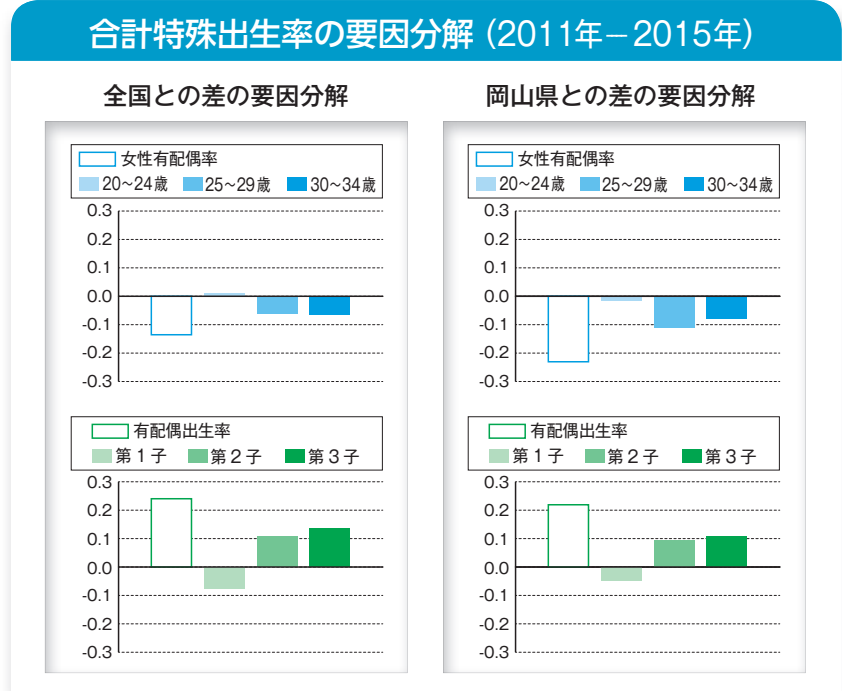
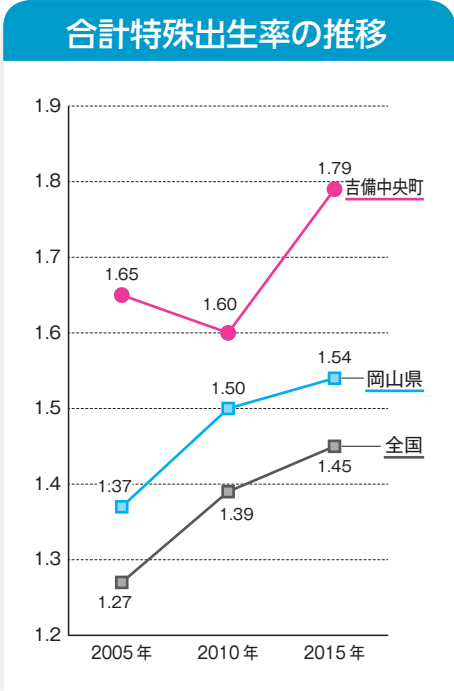
吉備中央町



合計特殊出生率
(2011年-2015年)
1.50

ベイズ推定値 **1.44**

合計特殊出生率の
全国との差 **+0.10**
(2011年-2015年) ポイント



- 岡山市
- 倉敷市
- 津山市
- 玉野市
- 笠岡市
- 井原市
- 総社市
- 高梁市
- 新見市
- 備前市
- 瀬戸内市
- 赤磐市
- 真庭市
- 美作市
- 浅口市
- 和気町
- 早島町
- 里庄町
- 矢掛町
- 新庄村
- 鏡野町
- 勝央町
- 奈義町
- 西粟倉村
- 久米南町
- 美咲町
- 吉備中央町

合計特殊出生率「見える化」分析
《岡山県出生率地域格差要因分析》

資料

1 出生順位別有配偶出生率に対する年齢階層別女性有配偶率の影響

出生順位別有配偶出生率の地域差を理解するために、出生構造要因である年齢階層別女性有配偶率を独立変数、出生順位別有配偶出生率を従属変数として因果関係を分析した。

分析の結果から、20歳代の有配偶率が高いほど第3子以上の有配偶出生率が上昇することが分かる。

出生順位別有配偶出生率の年齢階層別女性有配偶率による単回帰分析の結果 (有意判定)

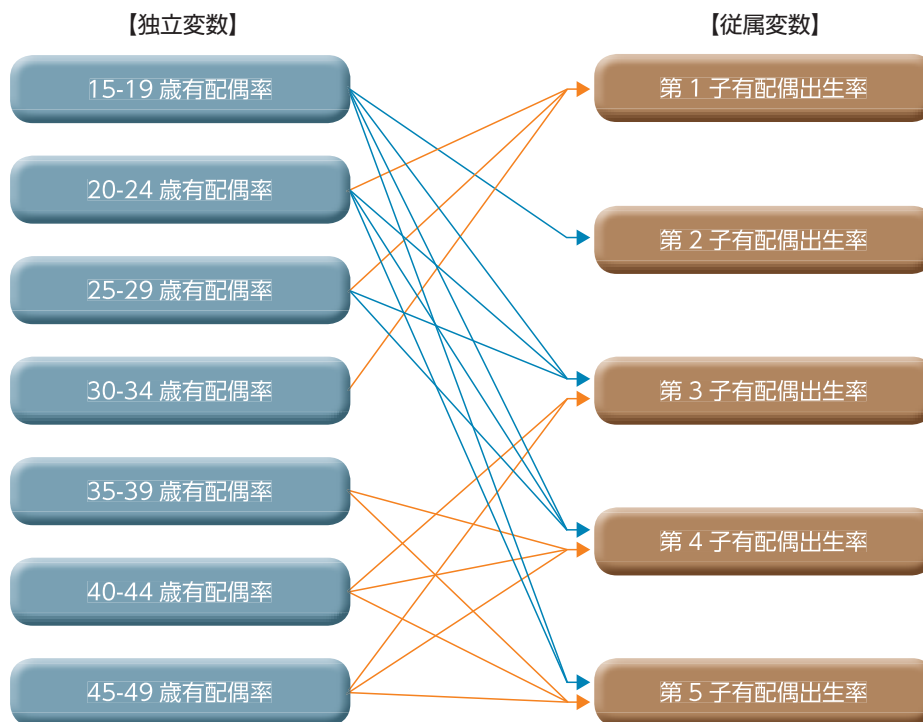
変数		年齢階層別女性有配偶率 (独立変数)						
		15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
出生順位別有配偶出生率 (従属変数)	第1子		**	**	**			
	第2子	*						
	第3子	**	**	**			*	*
	第4子	**	**	*		**	**	**
	第5子以上	**	**			*	**	**

** : 1%水準で有意、* : 5%水準で有意

出生順位別有配偶出生率の年齢階層別女性有配偶率による単回帰分析の結果 (回帰係数)

変数		年齢階層別女性有配偶率 (独立変数)						
		15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
出生順位別有配偶出生率 (従属変数)	第1子		-0.81	-0.86	-0.66			
	第2子	1.37						
	第3子	4.17	0.88	0.55			-5.90	-212.6
	第4子	2.19	0.34	0.16		-0.57	-3.30	-122.0
	第5子以上	1.19	0.15			-0.26	-1.51	-56.70

年齢階層別女性有配偶率と出生順位別有配偶出生率の関係



青色の矢印は正の因果関係、オレンジ色の矢印は負の因果関係

2 女性有配偶率・有配偶出生率に影響を及ぼす要因の理論・仮説

女性有配偶率に影響を及ぼす要因

区分	理論・仮説	説明変数の例	因果関係の想定
① 人口構造	<ul style="list-style-type: none"> 男女のマッチングである結婚は地域の人口性比のバランスに影響を受ける（男性の方が多い地域では女性有配偶率が上昇する） 	<ul style="list-style-type: none"> 人口性比（男/女） 就業者性比（男/女） 	正
	<ul style="list-style-type: none"> 学生の割合が少ないほど、女性有配偶率は高くなる 	<ul style="list-style-type: none"> 人口に占める学生でない者の割合 	正
	<ul style="list-style-type: none"> 平均初婚年齢は、年齢階層別の女性有配偶率に反映される 	<ul style="list-style-type: none"> 女性の平均初婚年齢 男性の平均初婚年齢 	負
② 所得・賃金	<ul style="list-style-type: none"> 所得が高くなると結婚の機会費用（結婚により仕事を辞めることや、自由に使える所得が減ることなど）が増加する 女性の所得を含む所得全体の上昇により、経済的安定を得るために結婚する必要性は低下する 	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学率 人口一人当たり所得 就業者一人当たり雇用者所得 人口一人当たり課税対象所得 二人以上世帯年間収入 女性就業率 	負
	<ul style="list-style-type: none"> 男女の所得差が小さいと、女性が家事労働に特化する比較優位が低下する 	<ul style="list-style-type: none"> 男女の賃金格差（女/男） 	正
	<ul style="list-style-type: none"> 経済的安定性を得るため、一定以上の所得が結婚の条件になる 	<ul style="list-style-type: none"> 人口一人当たり所得 雇用者一人当たり雇用者所得 二人以上世帯年間収入 女性就業率 	正
③ 雇用	<ul style="list-style-type: none"> 雇用の安定は、将来の経済的安定性の見通しにつながり、結婚を促す 	<ul style="list-style-type: none"> 正規雇用割合 完全失業率（逆相関） 	正
④ 結婚による規模効果	<ul style="list-style-type: none"> 世帯規模が大きくなることや、共働きにより、経済的メリットが得られる 	<ul style="list-style-type: none"> 共働き世帯比率（有配偶女性就業率） 保育所入所率 0-5歳児当たり保育所数、定員数 	正
⑤ 地域の定住性	<ul style="list-style-type: none"> 結婚時に定住条件のよい地域や勤め先のある地域に転居するため、転居先地域からみると有配偶率が上昇する 	<ul style="list-style-type: none"> 転入超過率 1万世帯当たり住宅着工戸数 新設事業所割合 	正
⑥ 住宅環境	<ul style="list-style-type: none"> 夫婦のいる世帯が住宅条件のよい地域に転居する、あるいは持ち家住宅を建設する 	<ul style="list-style-type: none"> 持ち家比率 一戸建て比率 住宅面積 	正
⑦ 社会関係性	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会のきずなや人的ネットワーク、コミュニティの活発さは、男女のマッチングである出会いの機会を増加させる 	<ul style="list-style-type: none"> 人口1万人当たり消防団員数 人口1万人当たり刑法犯認知件数（逆相関） 3世代世帯比率 親と子の同居率 	正
⑧ 男性のゆとりと家事・育児参加	<ul style="list-style-type: none"> 結婚による家事労働の増加や、結婚時点で予測される子供を持つことの負担感が軽減され、結婚を促す 	<ul style="list-style-type: none"> 通勤時間、就業時間（逆相関） 男性の家事・育児の参加度 貸家賃、教育費（逆相関） 	正

(注)「説明変数の例」では、本分析で単回帰分析を行って因果関係を確認した主な説明変数を挙げた

資料

2 女性有配偶率・有配偶出生率に影響を及ぼす要因の理論・仮説

有配偶出生率に影響を及ぼす要因

区 分	理論・仮説	説明変数の例	因果関係の想定
① 人口構造	<ul style="list-style-type: none"> 平均初婚年齢は、年齢階層別の有配偶出生率に影響を及ぼす 	<ul style="list-style-type: none"> 女性の平均初婚年齢 男性の平均初婚年齢 	負
② 所得	<ul style="list-style-type: none"> 所得が高くなると、子供数よりも子供一人当たり養育費・教育費を増やすことを志向する 所得が高くなると子供を持つことの機会費用（出産により仕事を辞めることや、自由に使える所得が減ることなど）が増加する 	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学率 人口一人当たり所得 就業者一人当たり雇用者所得 人口一人当たり課税対象所得 二人以上世帯年間収入 女性就業率 	負
	<ul style="list-style-type: none"> 養育費・教育費を確保するため、一定の所得が子供を持つこと条件になる 	<ul style="list-style-type: none"> 人口一人当たり所得 雇用者一人当たり雇用者所得 二人以上世帯年間収入 女性就業率 	正
③ 雇用	<ul style="list-style-type: none"> 雇用の安定は、将来の経済的安定性の見通しにつながり、子供を持つことを促す 	<ul style="list-style-type: none"> 正規雇用割合 完全失業率（逆相関） 	正
④ 共働きによる所得増加	<ul style="list-style-type: none"> 共働きによる所得増によって、子供の養育費・教育費が負担でき、経済的なゆとりが生まれる 	<ul style="list-style-type: none"> 共働き世帯比率（有配偶女性就業率） 保育所入所率 0-5歳児当たり保育所数、定員数 	正
⑤ 地域の定住性	<ul style="list-style-type: none"> 結婚時に定住条件のよい地域や勤め先のある地域に転居し、その後子供を持つと転居先地域からみて出生率が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> 転入超過率 1万世帯当たり住宅着工戸数 新設事業所割合 	正
⑥ 住宅環境	<ul style="list-style-type: none"> 夫婦と子供のいる世帯が住宅条件のよい地域に転居する、あるいは持ち家住宅を建設する 	<ul style="list-style-type: none"> 持ち家比率 一戸建て比率 住宅面積 	正
⑦ 出産・子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> 医療、教育等の出産・子育てに関する機能の高さは出生率を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 人口1万人当たり産婦人科医師数 人口1万人当たり小児科医師数 小学校当たり児童数 	正
⑧ 社会関係性	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会のきずなや人的ネットワークは、子供の養育・教育のための負担感を軽減する 	<ul style="list-style-type: none"> 人口1万人当たり消防団員数 人口1万人当たり刑法犯認知件数（逆相関） 3世代世帯比率 親と子の同居率 	正
⑨ 男性のゆとりと家事・育児参加	<ul style="list-style-type: none"> 子供を持つことによる家事・育児負担や費用負担が軽減される 	<ul style="list-style-type: none"> 通勤時間、就業時間（逆相関） 男性の家事・育児の参加度 貸家賃、教育費（逆相関） 	正
⑩ 慣性効果	<ul style="list-style-type: none"> 地域の過去における出生や周辺地域の出生の状況は、現在の個人の出生に関する価値観に影響を及ぼす 	<ul style="list-style-type: none"> 過去の多子世帯割合 	正
⑪ 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに関する補助や相談等の行政施策は出生率を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 人口1万人当たり子育て拠点施設数 0-17歳人口当たり児童福祉費 	正

(注)「説明変数の例」では、本分析で単回帰分析を行って因果関係を確認した主な説明変数を挙げた

3 参考文献

- [1] 姉崎猛・佐藤豊・中村明恵, “少子化の動向と出生率に関する研究サーベイ,” ESRI Research Note, No.17, 2011年.
- [2] 阿部一知・原田泰, “子育て支援策の出生率に与える影響: 市区町村データの分析,” 会計検査院事務総長官房調査課『会計検査研究』, Vol.38, pp.103-118, 2008年.
- [3] 石井憲雄, 『少子化における地域差の要因』, 2013年.
- [4] 岡山県, 『岡山県子育て家庭環境調査報告書』, 2016年.
- [5] 鎌田健司, “若者の就業行動と婚姻率の低下,” 小崎敏男・牧野文夫編著『少子化と若者の就業行動』, pp.123-149, 2012年.
- [6] 厚生労働省, 『平成 17 年厚生労働白書』, 2005年.
- [7] 厚生労働省, 『平成 23 年版労働経済の分析—世代ごとにみた働き方と雇用管理の動向—』, 2011年.
- [8] 小島寛之, 『完全独習ベイズ統計学入門』, 2015年.
- [9] 佐伯則英・平子哲夫・中田正, “人口動態市区町村別統計へのベイズ統計の応用について (2) 合計特殊出生率への応用,” 厚生労働統計協会『厚生指標』, 46(11), pp.3-10, 1999年.
- [10] 静岡県健康福祉部こども未来局こども未来課, 『静岡県と市町の輝く未来のために ふじのくに少子化突破戦略の羅針盤 (合計特殊出生率「2」の達成に向けた基礎分析書)』, 2014年.
- [11] 伊達雄高・清水谷諭, “日本の出生率低下の要因分析: 実証研究のサーベイと政策的含意の検討,” ESRI Discussion Paper Series, No.94, 2004年.
- [12] 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局, 『地域少子化対策検討のための手引き—働き方改革を中心に— (第1版)』, 2016年.
- [13] 内閣府, 『平成 27 年版少子化社会対策白書』, 2015年.
- [14] 中田正・齋藤重正・六車史, “最近のベイズ推定研究の小地域の人口動態指標推定への応用の研究,” 厚生労働統計協会『厚生指標』, 55 巻 5 号, pp.1-11, 2008年.
- [15] 西村教子, “鳥取県における少子化の構造的要因の分析,” 『鳥取環境大学紀要』, Vol.7, pp.41-55, 2009年.
- [16] 西本真弓・駿河輝和, “地域データによる晩婚化・少子化の分析,” 『阪南論集』, 46 巻 2 号, pp.19-39, 2011年.
- [17] 廣嶋清志, “近年の合計特殊出生率の要因分解: 夫婦出生率は寄与していないか?,” 『人口学研究』, 26 巻, pp.1-19, 2000年.
- [18] 廣嶋清志, “出生率低下をどのようにとらえるか?—年齢別有配偶出生率の問題性—,” 『理論と方法』, Vol.16, No.2, pp.163-183, 2001年.
- [19] 間瀬茂, 『ベイズ法の基礎と応用 条件付き分布による統計モデリングと MCMC 法を用いたデータ解析』, 2016年.
- [20] みずほ情報総研(株), 『社会経済及び社会保障における地域差についての統計的分析』, 2005年.
- [21] 山口一男, “少子化の決定要因と対策について: 夫の役割、職場の役割、政府の役割、社会の役割,” 家計経済研究所『家計経済研究』, 66 巻, pp.57-67, 2005年.
- [22] 美添泰人, “小地域統計の推定手法と応用,” 『経済研究』, 52 巻 3 号, pp.231-238, 2001年.
- [23] 涌井良幸, 『道具としてのベイズ統計』, 2009年.

4 分析に利用した主なデータ

都道府県

都道府県	合計特殊出生率		女性有配偶率							
			15-49 歳	15-19 歳	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳
年次	2010年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年
単位	-	-	%	%	%	%	%	%	%	%
全 国	1.39	1.45	49.3	0.5	7.5	34.6	59.1	68.3	70.5	71.6
北海道	1.26	1.31	47.1	0.5	8.9	35.4	56.2	64.2	65.3	65.9
青森県	1.38	1.42	47.6	0.5	9.5	37.4	56.6	63.8	66.2	68.3
岩手県	1.46	1.49	49.8	0.5	10.4	40.1	60.0	67.5	69.3	71.2
宮城県	1.30	1.36	48.5	0.5	7.6	35.4	58.9	68.2	71.0	72.4
秋田県	1.31	1.35	50.4	0.3	8.5	37.3	58.2	67.6	70.0	72.1
山形県	1.48	1.48	52.0	0.3	9.1	39.8	63.0	71.1	73.7	76.0
福島県	1.52	1.58	50.6	0.6	11.7	41.2	61.2	68.9	70.6	73.1
茨城県	1.44	1.48	51.1	0.5	9.4	37.0	60.8	70.1	72.8	75.0
栃木県	1.44	1.49	52.0	0.5	9.4	38.4	61.6	70.9	73.0	74.6
群馬県	1.46	1.49	50.9	0.4	8.9	37.2	61.0	70.1	72.3	73.7
埼玉県	1.32	1.39	50.3	0.4	6.5	33.7	60.5	70.6	72.4	74.0
千葉県	1.34	1.37	50.7	0.5	7.1	34.1	59.5	69.7	72.6	74.1
東京都	1.12	1.24	45.5	0.4	4.2	26.5	52.4	63.5	66.5	67.4
神奈川県	1.31	1.39	50.8	0.4	5.8	32.0	59.9	70.6	73.2	74.6
新潟県	1.43	1.44	50.6	0.4	7.7	37.3	61.2	69.8	72.3	74.0
富山県	1.42	1.51	53.0	0.3	7.6	37.5	62.3	71.3	74.7	76.3
石川県	1.44	1.54	51.5	0.4	8.2	37.4	62.5	71.0	73.9	74.9
福井県	1.61	1.62	53.1	0.4	8.4	37.8	63.9	73.6	76.3	78.5
山梨県	1.46	1.50	50.0	0.4	7.0	35.3	61.3	71.1	73.3	75.1
長野県	1.53	1.58	52.5	0.4	8.5	36.7	62.3	71.6	73.8	75.6
岐阜県	1.48	1.56	52.2	0.4	7.4	37.9	64.3	72.8	75.3	76.5
静岡県	1.54	1.54	52.8	0.4	9.1	39.3	64.0	71.8	73.2	73.7
愛知県	1.52	1.56	52.7	0.5	7.9	39.1	65.1	73.4	75.2	75.8
三重県	1.51	1.55	52.6	0.5	8.9	39.3	63.4	72.2	74.6	75.8
滋賀県	1.54	1.60	52.9	0.4	7.2	37.6	65.4	73.9	76.6	78.4
京都府	1.28	1.34	45.4	0.5	5.2	30.0	55.4	65.5	68.6	69.7
大阪府	1.33	1.38	47.2	0.6	7.6	32.6	56.6	65.7	67.8	67.6
兵庫県	1.41	1.47	49.3	0.5	6.8	34.1	58.8	68.1	70.8	71.6
奈良県	1.29	1.38	47.8	0.4	5.6	30.5	57.1	67.8	71.4	73.5
和歌山県	1.47	1.53	49.1	0.6	9.8	37.1	59.1	67.1	69.0	70.0
鳥取県	1.54	1.64	49.8	0.6	10.5	38.0	60.1	67.4	69.6	71.4
島根県	1.68	1.78	51.8	0.4	9.9	40.9	63.1	70.5	72.6	74.1
岡山県	1.50	1.54	49.0	0.5	8.3	37.4	60.8	69.1	71.1	72.3
広島県	1.55	1.60	51.1	0.6	9.3	39.4	62.9	70.1	71.5	71.9
山口県	1.56	1.60	50.1	0.6	10.9	40.1	60.5	67.3	69.6	70.1
徳島県	1.42	1.53	48.9	0.5	8.5	35.6	58.7	66.7	69.6	70.9
香川県	1.57	1.63	51.7	0.5	10.3	38.4	61.9	69.5	71.5	72.5
愛媛県	1.50	1.53	49.8	0.6	10.8	38.6	60.5	67.5	68.4	69.0
高知県	1.42	1.50	46.6	0.5	9.0	34.8	56.1	63.3	64.7	65.7
福岡県	1.44	1.52	46.4	0.6	8.0	33.6	56.4	65.3	67.1	67.3
佐賀県	1.61	1.64	48.4	0.6	10.4	37.4	59.7	67.8	69.7	70.7
長崎県	1.61	1.66	48.0	0.5	9.5	37.9	59.1	66.2	67.4	68.5
熊本県	1.62	1.68	48.4	0.5	9.8	38.6	59.6	67.0	68.4	69.6
大分県	1.56	1.59	49.3	0.5	9.8	38.6	59.8	67.0	68.9	69.5
宮崎県	1.68	1.70	49.3	0.6	11.2	40.1	61.8	67.5	67.6	68.5
鹿児島県	1.62	1.70	48.4	0.5	9.7	38.2	60.0	67.1	67.7	68.7
沖縄県	1.87	1.96	47.0	1.1	12.3	37.5	58.3	66.1	66.8	66.4

資料：厚生労働省「人口動態調査」、総務省「国勢調査」

(注) 1. 合計特殊出生率等は、日本人の出生および女性人口(基準人口)を対象に本分析で独自に算出したものである。

2. 2015年の合計特殊出生率は母の年齢5歳階級における出生率5倍の合計であり、厚生労働省公表値である母の年齢各歳における出生率の合計と異なる府県がある。

有配偶出生率												
20-24 歳			25-29 歳			30-34 歳			35-39 歳			
第1子	第2子	第3子	第1子	第2子	第3子	第1子	第2子	第3子	第1子	第2子	第3子	
2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
0.264	0.106	0.019	0.144	0.076	0.022	0.074	0.069	0.025	0.029	0.034	0.015	
0.255	0.099	0.016	0.129	0.074	0.021	0.066	0.061	0.024	0.026	0.030	0.013	
0.297	0.113	0.016	0.131	0.087	0.026	0.062	0.064	0.029	0.023	0.028	0.015	
0.290	0.100	0.021	0.134	0.087	0.027	0.056	0.061	0.030	0.023	0.025	0.015	
0.279	0.102	0.016	0.133	0.073	0.023	0.067	0.064	0.025	0.025	0.030	0.015	
0.282	0.103	0.014	0.135	0.081	0.020	0.060	0.066	0.026	0.023	0.027	0.012	
0.276	0.093	0.020	0.139	0.083	0.023	0.060	0.066	0.027	0.021	0.028	0.016	
0.275	0.113	0.020	0.132	0.086	0.032	0.059	0.062	0.031	0.023	0.027	0.018	
0.272	0.115	0.020	0.135	0.082	0.022	0.066	0.066	0.026	0.025	0.031	0.014	
0.273	0.105	0.017	0.138	0.079	0.021	0.065	0.067	0.024	0.025	0.032	0.014	
0.265	0.092	0.014	0.148	0.082	0.021	0.068	0.071	0.027	0.025	0.031	0.014	
0.260	0.095	0.017	0.142	0.071	0.019	0.074	0.070	0.021	0.029	0.034	0.013	
0.243	0.093	0.017	0.137	0.072	0.018	0.073	0.068	0.022	0.029	0.034	0.013	
0.249	0.076	0.013	0.149	0.051	0.011	0.098	0.063	0.015	0.046	0.042	0.013	
0.248	0.095	0.015	0.149	0.063	0.015	0.083	0.070	0.019	0.034	0.038	0.013	
0.256	0.097	0.015	0.140	0.080	0.018	0.066	0.071	0.027	0.026	0.031	0.015	
0.292	0.092	0.009	0.156	0.082	0.017	0.071	0.074	0.025	0.025	0.031	0.016	
0.273	0.102	0.015	0.150	0.082	0.020	0.068	0.074	0.029	0.025	0.032	0.017	
0.279	0.116	0.012	0.160	0.083	0.025	0.066	0.077	0.034	0.025	0.031	0.018	
0.274	0.104	0.013	0.146	0.081	0.025	0.071	0.072	0.029	0.028	0.032	0.017	
0.272	0.109	0.019	0.149	0.085	0.022	0.072	0.073	0.029	0.027	0.033	0.017	
0.267	0.099	0.018	0.156	0.088	0.023	0.065	0.078	0.029	0.022	0.032	0.015	
0.262	0.107	0.016	0.141	0.081	0.021	0.067	0.071	0.025	0.025	0.032	0.014	
0.246	0.096	0.018	0.149	0.073	0.018	0.075	0.075	0.023	0.028	0.034	0.015	
0.259	0.113	0.021	0.137	0.087	0.021	0.067	0.072	0.026	0.023	0.032	0.014	
0.250	0.114	0.016	0.155	0.084	0.022	0.072	0.076	0.028	0.026	0.033	0.017	
0.260	0.110	0.019	0.147	0.074	0.021	0.082	0.072	0.025	0.031	0.036	0.016	
0.243	0.102	0.020	0.140	0.071	0.021	0.080	0.068	0.023	0.031	0.035	0.015	
0.262	0.123	0.024	0.153	0.079	0.022	0.077	0.074	0.026	0.028	0.034	0.016	
0.273	0.112	0.026	0.150	0.078	0.023	0.069	0.083	0.028	0.027	0.033	0.015	
0.295	0.125	0.024	0.141	0.089	0.023	0.068	0.068	0.027	0.024	0.031	0.015	
0.276	0.106	0.020	0.141	0.089	0.033	0.070	0.078	0.035	0.024	0.028	0.020	
0.304	0.119	0.026	0.135	0.099	0.034	0.067	0.077	0.039	0.027	0.031	0.021	
0.268	0.113	0.026	0.149	0.088	0.026	0.066	0.071	0.028	0.025	0.032	0.016	
0.251	0.115	0.023	0.143	0.084	0.027	0.068	0.071	0.030	0.026	0.032	0.015	
0.263	0.123	0.024	0.136	0.090	0.028	0.061	0.070	0.032	0.023	0.029	0.017	
0.286	0.123	0.020	0.158	0.088	0.024	0.071	0.075	0.026	0.024	0.032	0.016	
0.286	0.121	0.024	0.147	0.091	0.027	0.067	0.070	0.029	0.024	0.031	0.016	
0.280	0.114	0.023	0.135	0.087	0.027	0.060	0.067	0.029	0.022	0.029	0.017	
0.304	0.117	0.022	0.149	0.091	0.028	0.065	0.068	0.034	0.025	0.031	0.016	
0.288	0.124	0.024	0.145	0.085	0.027	0.074	0.071	0.032	0.029	0.035	0.018	
0.296	0.115	0.026	0.147	0.096	0.035	0.060	0.068	0.040	0.023	0.029	0.019	
0.305	0.122	0.016	0.142	0.093	0.039	0.065	0.071	0.041	0.026	0.031	0.020	
0.292	0.133	0.023	0.144	0.093	0.035	0.064	0.069	0.040	0.026	0.030	0.021	
0.288	0.112	0.021	0.146	0.086	0.029	0.064	0.072	0.033	0.024	0.030	0.017	
0.296	0.127	0.022	0.132	0.096	0.038	0.059	0.068	0.041	0.021	0.028	0.019	
0.292	0.131	0.028	0.143	0.096	0.037	0.066	0.071	0.038	0.024	0.031	0.021	
0.273	0.147	0.039	0.136	0.096	0.044	0.071	0.069	0.044	0.028	0.035	0.029	

資料

4 分析に利用した主なデータ

都道府県

都道府県	人口性比(男/女)							15-24歳人口に占める学生割合	平均初婚年齢		就業者一人当たり雇用者所得	世帯主35歳未満二人以上世帯年間収入	15-19歳	20-24歳
	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳		男	女				
年次	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	※1	2014年	2010年	2010年
単位	-	-	-	-	-	-	-	%	歳	歳	千円	千円	%	%
全国	1.058	1.051	1.041	1.034	1.036	1.033	1.026	24.1	31.1	29.4	4,066	5,321	39.0	63.2
北海道	1.066	1.029	1.000	0.981	0.980	0.979	0.936	18.7	30.7	29.3	3,851	4,932	35.8	61.0
青森県	1.050	1.070	1.045	1.019	1.014	0.988	0.954	14.2	30.6	29.0	3,155	5,343	56.1	69.8
岩手県	1.081	1.057	1.075	1.048	1.058	1.077	1.033	12.1	30.9	29.0	3,214	4,755	56.2	69.0
宮城県	1.078	1.083	1.046	1.007	1.031	1.045	1.046	23.9	30.8	29.3	3,825	4,826	41.9	61.5
秋田県	1.055	1.101	1.048	1.047	1.053	1.008	0.986	13.5	30.8	29.3	2,897	5,630	58.4	70.4
山形県	1.059	1.082	1.055	1.049	1.067	1.034	1.012	13.8	30.6	28.8	3,249	4,796	61.6	73.4
福島県	1.090	1.148	1.120	1.104	1.112	1.110	1.076	9.0	30.3	28.6	3,716	5,298	57.2	72.8
茨城県	1.078	1.111	1.139	1.092	1.097	1.099	1.093	14.4	30.8	29.1	4,100	5,511	48.6	67.4
栃木県	1.053	1.069	1.133	1.125	1.108	1.112	1.085	12.9	30.9	29.1	4,224	5,226	50.6	71.0
群馬県	1.053	1.088	1.121	1.084	1.083	1.071	1.064	16.9	31.0	29.2	3,655	5,006	44.4	69.2
埼玉県	1.059	1.069	1.061	1.063	1.086	1.098	1.093	17.0	31.5	29.6	5,249	5,618	29.2	59.4
千葉県	1.074	1.089	1.064	1.063	1.066	1.078	1.092	18.9	31.5	29.6	5,223	5,431	32.1	61.1
東京都	1.042	1.038	1.032	1.060	1.058	1.041	1.069	57.7	32.4	30.5	4,137	6,077	21.1	52.5
神奈川県	1.075	1.103	1.097	1.076	1.074	1.067	1.098	21.6	31.9	30.1	5,565	5,836	28.1	57.5
新潟県	1.052	1.067	1.064	1.059	1.061	1.042	1.043	15.3	30.8	29.3	3,556	5,630	49.3	73.5
富山県	1.074	1.094	1.097	1.087	1.086	1.066	1.039	13.1	30.8	29.1	3,630	5,179	55.7	74.6
石川県	1.107	1.163	1.070	1.033	1.035	1.030	1.002	26.2	30.7	29.1	3,472	5,623	45.9	66.3
福井県	1.079	1.126	1.081	1.039	1.054	1.043	1.003	14.7	30.6	28.9	3,478	5,590	53.4	73.0
山梨県	1.083	1.063	1.086	1.062	1.047	1.071	1.046	21.6	31.3	29.3	3,786	5,286	41.8	63.5
長野県	1.083	1.060	1.063	1.052	1.056	1.064	1.049	9.6	31.3	29.5	3,723	5,348	44.9	70.4
岐阜県	1.042	1.003	1.051	1.049	1.051	1.035	1.004	11.6	30.6	28.7	3,776	5,582	48.3	70.9
静岡県	1.065	1.056	1.108	1.089	1.082	1.073	1.068	11.5	31.0	29.2	3,670	5,210	54.9	73.7
愛知県	1.069	1.099	1.136	1.120	1.097	1.086	1.092	25.6	30.8	29.0	4,081	6,011	47.4	68.7
三重県	1.055	1.036	1.076	1.068	1.052	1.048	1.028	9.4	30.7	28.9	3,953	5,547	56.9	72.3
滋賀県	1.074	1.112	1.090	1.051	1.022	1.039	1.019	23.3	30.7	29.1	4,063	5,529	39.2	62.3
京都府	1.046	1.060	0.999	0.963	0.983	0.976	0.974	57.4	31.3	29.7	3,987	5,346	23.9	49.1
大阪府	1.040	1.006	0.971	0.976	0.973	0.983	0.987	26.8	31.1	29.6	4,101	4,890	27.5	56.1
兵庫県	1.029	0.972	0.991	0.968	0.959	0.969	0.960	23.9	30.8	29.3	4,531	5,255	37.8	61.4
奈良県	1.028	0.953	0.935	0.935	0.935	0.935	0.906	17.3	31.0	29.4	5,150	4,740	27.7	57.6
和歌山県	1.038	1.018	1.004	0.969	0.985	0.976	0.920	10.3	30.2	28.7	3,253	4,229	41.4	67.4
鳥取県	1.122	1.103	1.044	1.028	1.038	1.025	0.995	15.6	30.8	29.0	3,169	5,306	50.1	65.7
島根県	1.118	1.090	1.065	1.054	1.072	1.052	1.028	13.4	30.4	29.1	3,176	4,035	55.1	71.4
岡山県	1.040	1.002	1.007	1.007	1.022	1.020	0.987	22.4	30.2	28.8	3,747	5,103	48.7	70.3
広島県	1.068	1.063	1.055	1.041	1.026	1.022	1.009	23.0	30.3	28.9	3,781	5,343	40.2	66.8
山口県	1.076	1.110	1.070	1.018	1.009	1.016	0.942	16.3	30.1	28.6	3,859	5,042	59.6	72.8
徳島県	1.031	1.053	1.037	1.024	1.019	0.975	0.963	22.2	30.6	29.0	3,401	4,815	48.6	65.5
香川県	1.105	1.070	1.046	1.023	1.021	1.021	1.011	12.2	30.2	28.9	3,821	5,380	50.7	72.9
愛媛県	1.075	1.040	0.988	0.994	1.001	0.989	0.944	14.7	30.2	28.7	3,262	4,864	47.9	69.5
高知県	1.078	1.070	0.981	0.985	1.019	0.987	0.946	15.9	31.3	29.7	3,312	4,833	35.7	62.5
福岡県	1.043	0.990	0.933	0.949	0.963	0.971	0.940	23.9	30.7	29.4	3,952	4,857	35.2	58.1
佐賀県	1.048	0.987	0.961	0.975	0.990	0.982	0.935	11.4	30.2	28.9	2,790	4,811	56.3	70.0
長崎県	1.045	0.976	0.978	0.968	0.970	0.964	0.920	16.1	30.3	29.1	3,174	4,565	53.3	70.0
熊本県	1.068	0.975	0.965	0.975	0.978	0.970	0.914	17.9	30.3	29.0	3,284	4,822	42.2	64.0
大分県	1.048	1.053	1.041	1.011	1.016	0.989	0.950	15.9	30.3	29.0	3,544	4,758	58.4	71.2
宮崎県	1.030	1.021	0.950	0.946	0.967	0.962	0.924	12.2	29.9	28.7	3,059	4,983	48.1	68.3
鹿児島県	1.023	0.923	0.914	0.926	0.949	0.950	0.916	12.5	30.4	29.0	3,261	4,137	41.3	65.0
沖縄県	1.053	1.022	0.983	0.962	0.979	1.008	0.995	13.2	30.3	29.0	2,998	3,593	22.5	48.9
資料	①							①	②		③	④	①	

資料：① 総務省「国勢調査」 ② 厚生労働省「人口動態調査」 ③ 内閣府「県民経済計算」 ④ 総務省「全国消費実態調査」 ⑤ 厚生労働省「社会福祉行政業務報告」、総務省「国勢調査」 ⑥ 総務省「平成23年社会生活基本調査」 ⑦ 消防庁「防災白書」、総務省「国勢調査」 ⑧ 警察庁「警察白書」、総務省「国勢調査」 1) 2011年度～2013年度の平均額 2) 主成分分析により生成された縮約化指標の都道府県や市町村の値 3) 指標の縮約化では3世代世帯比率を対数変換した

男性正規雇用割合					0-5歳児 保育所 入所率	25-34歳 男性通勤 時間	25-34歳 男性就業 時間	25-34歳 男性家事 時間	25-34歳 男性育児 時間	3世代 世帯比率	人口1万人 当たり 消防団員数	人口1万人 当たり窃盗 犯認知件数	多子世帯 割合	主成分得点 ²⁾	
25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳										2015年	2011年
%	%	%	%	%	%	分	分	分	分	%	人	件	%	-	-
82.6	88.8	91.7	92.7	93.1	37.6	49	404	9	12	5.7	68.6	64.4	11.7	-	-
80.0	86.9	90.4	91.3	91.9	30.3	34	394	12	10	3.2	47.9	44.4	10.1	0.41	-1.16
81.0	87.1	90.5	91.6	92.0	47.7	29	387	9	12	11.0	147.5	27.7	11.0	0.63	1.71
79.7	87.0	90.3	91.0	91.6	48.9	38	436	10	15	12.2	174.2	26.8	12.1	0.58	2.13
79.3	87.0	91.1	92.2	93.2	30.6	50	388	29	20	9.1	85.8	54.8	11.7	2.76	0.06
80.3	88.2	91.2	91.9	92.1	53.5	39	444	6	14	13.4	169.8	21.5	8.9	-0.07	2.35
83.2	89.5	92.2	92.9	93.2	43.7	35	421	7	23	17.8	228.6	30.7	10.9	1.51	2.98
83.0	89.0	91.6	92.4	92.8	30.6	37	423	9	5	12.0	178.9	47.4	13.9	-0.80	1.54
82.3	88.3	91.8	93.1	93.5	34.2	51	393	6	7	9.4	82.2	77.4	11.7	-1.65	-0.62
83.3	88.7	91.4	92.1	92.8	34.9	49	441	7	11	9.7	76.4	55.4	11.0	-0.93	0.01
83.7	89.0	91.7	91.8	92.1	46.6	44	436	9	4	7.6	60.9	59.4	11.5	-1.35	-0.53
82.1	88.8	91.8	92.9	93.5	28.3	59	399	9	18	4.7	19.9	78.0	10.8	-0.31	-2.04
82.7	88.6	91.8	93.2	93.7	31.0	55	395	14	16	4.7	43.0	75.8	10.0	0.23	-1.74
80.4	87.3	90.4	91.8	92.4	34.6	64	394	9	11	1.8	17.8	82.4	9.8	-1.53	-3.25
82.7	88.9	91.9	93.3	93.9	28.9	62	355	8	7	3.0	20.2	52.1	10.0	-2.03	-1.75
85.8	91.4	93.6	94.1	94.3	59.1	35	449	10	17	13.8	166.3	45.4	11.6	1.01	1.63
87.9	92.2	94.3	94.9	95.0	58.1	46	424	6	14	13.2	90.0	39.5	10.6	-0.45	0.97
86.1	90.8	93.0	93.7	94.3	55.3	39	411	7	9	8.8	46.3	51.4	12.7	-0.60	-0.28
87.3	91.9	93.4	94.3	94.5	59.8	35	431	4	13	14.9	74.6	35.3	13.8	-0.19	1.08
82.8	89.5	91.7	92.0	92.4	51.2	35	416	7	20	7.9	184.2	62.8	12.3	1.11	0.67
84.6	89.8	92.0	92.8	93.4	52.8	30	367	16	9	9.9	170.4	39.1	12.8	0.99	1.49
86.4	91.1	93.1	93.8	94.3	41.0	42	433	10	11	11.1	104.0	65.8	12.6	-0.18	0.13
86.0	90.5	92.7	93.0	93.5	27.3	41	440	5	10	9.7	56.1	45.6	11.6	-0.83	0.10
86.4	90.8	93.1	93.8	94.1	36.3	48	417	7	12	6.1	31.7	74.7	12.3	-0.72	-1.54
84.9	90.0	92.8	93.2	93.6	46.2	48	410	4	7	7.5	77.6	64.2	11.5	-1.72	-0.52
84.2	89.7	92.0	92.7	93.4	33.4	43	434	6	10	8.8	66.0	58.9	13.9	-0.83	-0.31
79.1	86.7	90.3	91.8	92.6	45.8	59	426	8	7	4.1	69.5	69.1	11.8	-1.92	-1.42
80.5	87.4	90.4	91.4	91.8	30.0	51	399	6	6	2.9	12.1	119.9	12.0	-1.79	-3.93
82.3	88.6	91.7	92.8	93.1	29.9	58	406	6	11	4.6	78.9	77.3	11.9	-1.53	-1.44
81.5	89.1	92.5	93.8	94.5	37.0	55	407	7	14	6.5	63.2	51.3	11.5	-0.85	-0.44
82.5	88.8	91.9	92.6	92.6	46.0	42	407	4	8	6.2	123.8	53.6	11.5	-1.24	0.06
80.7	88.8	92.1	92.0	92.7	55.9	35	414	8	18	11.8	89.9	46.2	13.8	0.95	0.65
85.5	90.7	92.5	93.0	93.3	70.3	35	436	8	21	11.6	177.4	35.4	14.3	1.34	1.85
85.4	90.5	93.1	93.8	94.2	44.8	35	384	12	15	7.1	150.3	55.5	13.8	1.03	0.43
85.3	90.3	93.0	93.8	94.3	41.7	34	457	6	19	4.5	79.1	44.8	11.9	0.88	-0.50
86.4	91.2	93.8	94.3	94.6	39.5	36	460	12	15	4.7	95.6	35.6	12.3	0.90	0.01
81.3	88.5	91.4	92.2	92.8	45.4	35	401	6	16	7.9	144.7	41.4	10.7	0.47	0.91
86.4	91.4	93.8	94.0	94.3	45.3	36	463	6	9	6.6	79.7	51.8	11.5	-0.58	-0.27
85.6	90.5	93.1	93.4	94.2	37.7	35	461	10	12	4.8	148.5	62.1	11.9	0.33	-0.22
77.8	86.7	90.1	90.9	91.5	65.0	35	402	9	17	4.5	113.9	60.1	11.9	0.94	-0.59
80.3	88.1	91.4	92.4	93.0	41.4	42	397	6	12	4.5	49.8	80.1	13.2	-0.47	-1.84
83.0	89.6	92.5	92.7	93.3	47.2	33	389	7	9	12.0	232.6	47.5	16.9	-0.23	2.09
82.4	88.4	91.4	92.5	92.5	50.3	42	423	8	14	6.5	146.4	24.1	14.5	0.00	1.23
80.4	88.1	91.2	92.0	92.7	56.1	32	386	7	14	8.0	193.3	42.1	14.6	0.50	1.39
84.3	89.7	93.0	93.3	93.9	35.9	34	365	9	29	5.8	134.1	30.9	12.9	2.65	0.78
82.4	88.7	91.2	92.4	92.5	50.5	34	394	12	8	4.6	134.8	45.7	14.3	0.14	0.09
82.1	89.2	91.6	92.4	92.4	43.8	38	423	21	16	2.6	94.2	35.8	15.2	1.98	-0.66
68.5	78.8	83.8	85.5	86.3	42.8	34	415	12	18	4.5	12.0	48.8	24.0	1.46	-1.29
①					⑤	⑥				①	⑦	⑧	①	-	-

資料

4 分析に利用した主なデータ

市町村 単年

市町村	合計特殊出生率		女性有配偶率								有配偶出生率					
			15-49歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	20-24歳			25-29歳		
年次 単位	2010年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年
	-	-	%	%	%	%	%	%	%	%	-	-	-	-	-	-
岡山県	1.50	1.54	49.0	0.5	8.3	37.4	60.8	69.1	71.1	72.3	0.268	0.113	0.026	0.149	0.088	0.026
岡山市	1.45	1.49	47.8	0.4	6.9	35.4	59.9	69.2	70.7	70.4	0.265	0.101	0.017	0.157	0.078	0.020
倉敷市	1.62	1.66	50.2	0.7	9.0	40.3	63.6	69.7	71.5	72.7	0.276	0.128	0.041	0.155	0.093	0.025
津山市	1.75	1.70	49.7	0.5	11.6	42.4	63.4	70.6	70.8	70.5	0.274	0.110	0.023	0.135	0.094	0.036
玉野市	1.32	1.48	47.5	0.6	11.0	39.5	55.6	63.7	66.3	69.6	0.153	0.105	0.016	0.125	0.097	0.032
笠岡市	1.28	1.32	46.0	0.3	10.5	30.7	54.0	62.6	69.6	70.1	0.340	0.068	0.019	0.124	0.087	0.044
井原市	1.42	1.22	48.4	0.2	7.4	30.2	55.3	67.2	72.1	75.3	0.229	0.115	0.019	0.106	0.084	0.044
総社市	1.47	1.46	51.0	0.4	8.1	37.1	64.0	72.3	75.1	77.1	0.262	0.123	0.023	0.160	0.080	0.025
高梁市	1.47	1.43	43.6	0.4	6.4	36.8	57.6	64.9	69.0	74.9	0.175	0.132	0.022	0.142	0.083	0.047
新見市	1.45	1.58	50.2	0.3	8.7	43.1	62.6	72.5	75.0	79.4	0.330	0.141	0.047	0.124	0.100	0.062
備前市	1.32	1.49	46.4	1.1	10.7	35.7	54.2	62.8	66.2	72.3	0.316	0.115	0.029	0.148	0.114	0.042
瀬戸内市	1.34	1.31	50.0	0.4	5.7	37.7	57.7	68.5	71.9	76.0	0.371	0.173	0.049	0.122	0.081	0.018
赤磐市	1.36	1.56	51.2	0.8	8.5	38.8	63.4	68.5	71.0	76.6	0.226	0.135	0.045	0.148	0.104	0.036
真庭市	1.79	1.83	54.7	0.2	13.6	43.2	64.4	73.0	74.4	81.2	0.331	0.102	0.000	0.111	0.108	0.036
美作市	1.41	1.46	51.0	0.4	13.2	36.0	56.6	67.6	72.0	74.7	0.198	0.000	0.022	0.089	0.150	0.017
浅口市	1.33	1.30	47.4	0.2	8.4	33.8	54.2	65.2	68.9	73.9	0.396	0.126	0.000	0.136	0.096	0.031
和気町	1.01	1.22	46.6	1.0	6.7	29.9	48.7	63.3	67.2	70.2	0.213	0.071	0.071	0.112	0.056	0.056
早島町	1.58	1.47	53.1	0.7	10.1	42.3	64.4	72.7	72.5	72.4	0.124	0.083	0.000	0.123	0.069	0.008
里庄町	1.67	1.35	50.9	0.0	11.1	43.4	60.8	66.5	70.5	76.2	0.119	0.040	0.079	0.125	0.071	0.098
矢掛町	1.47	1.37	48.9	0.0	8.7	34.5	52.7	72.7	69.1	74.6	0.397	0.198	0.000	0.104	0.104	0.013
新庄村	2.20	0.91	55.1	0.0	0.0	54.5	61.5	89.5	72.2	75.0	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
鏡野町	1.65	1.71	53.0	0.5	15.6	34.5	61.7	68.6	75.1	77.4	0.257	0.073	0.000	0.138	0.092	0.034
勝央町	1.61	1.84	53.9	0.9	15.6	45.4	63.8	70.6	75.4	75.3	0.279	0.186	0.000	0.158	0.079	0.014
奈義町	1.90	2.07	54.9	1.6	21.8	47.7	73.2	69.5	77.5	80.3	0.159	0.119	0.000	0.117	0.117	0.020
西粟倉村	2.15	0.50	58.3	5.0	30.5	25.9	67.4	88.4	79.4	64.5	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
久米南町	1.37	1.21	43.3	1.7	10.0	31.2	52.8	63.5	65.2	72.8	0.283	0.142	0.142	0.050	0.150	0.050
美咲町	1.64	1.78	52.7	0.4	9.2	35.2	59.0	70.8	71.1	78.9	0.261	0.157	0.000	0.171	0.144	0.053
吉備中央町	1.60	1.79	45.9	0.0	7.3	29.3	50.0	61.5	72.4	81.1	0.361	0.451	0.090	0.208	0.146	0.104

資料

4 分析に利用した主なデータ

2011年-2015年

市町村	有配偶出生率											
	20-24歳			25-29歳			30-34歳			35-39歳		
	第1子	第2子	第3子	第1子	第2子	第3子	第1子	第2子	第3子	第1子	第2子	第3子
単位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	0.252	0.110	0.019	0.140	0.090	0.028	0.062	0.068	0.028	0.022	0.028	0.016
岡山市	0.251	0.095	0.014	0.148	0.082	0.022	0.070	0.071	0.025	0.025	0.031	0.015
倉敷市	0.252	0.118	0.025	0.146	0.093	0.029	0.063	0.070	0.029	0.022	0.028	0.017
津山市	0.257	0.103	0.019	0.128	0.086	0.034	0.057	0.063	0.033	0.020	0.027	0.017
玉野市	0.255	0.104	0.020	0.120	0.094	0.029	0.053	0.063	0.028	0.018	0.023	0.014
笠岡市	0.219	0.126	0.030	0.115	0.093	0.035	0.045	0.066	0.028	0.017	0.022	0.015
井原市	0.242	0.140	0.012	0.121	0.090	0.037	0.048	0.061	0.032	0.015	0.026	0.015
総社市	0.267	0.110	0.020	0.136	0.096	0.034	0.052	0.065	0.033	0.017	0.027	0.018
高梁市	0.189	0.124	0.017	0.124	0.094	0.037	0.050	0.065	0.037	0.017	0.022	0.017
新見市	0.273	0.103	0.037	0.114	0.083	0.046	0.047	0.061	0.033	0.014	0.029	0.016
備前市	0.227	0.112	0.018	0.131	0.114	0.042	0.042	0.063	0.026	0.019	0.024	0.012
瀬戸内市	0.233	0.128	0.010	0.126	0.100	0.029	0.051	0.057	0.032	0.018	0.024	0.016
赤磐市	0.258	0.156	0.025	0.119	0.100	0.028	0.051	0.059	0.034	0.015	0.030	0.016
真庭市	0.256	0.144	0.012	0.110	0.100	0.042	0.046	0.063	0.036	0.019	0.024	0.020
美作市	0.274	0.115	0.026	0.109	0.108	0.039	0.057	0.062	0.035	0.015	0.023	0.016
浅口市	0.264	0.122	0.035	0.122	0.097	0.035	0.048	0.065	0.028	0.016	0.024	0.015
和気町	0.264	0.091	0.025	0.126	0.080	0.045	0.056	0.065	0.034	0.021	0.028	0.011
早島町	0.234	0.180	0.009	0.147	0.078	0.021	0.063	0.078	0.021	0.022	0.035	0.016
里庄町	0.254	0.157	0.037	0.113	0.112	0.040	0.052	0.047	0.030	0.016	0.031	0.021
矢掛町	0.271	0.135	0.010	0.094	0.112	0.033	0.050	0.069	0.037	0.015	0.023	0.017
新庄村	0.793	0.000	0.000	0.108	0.145	0.072	0.017	0.066	0.033	0.000	0.035	0.000
鏡野町	0.350	0.132	0.008	0.140	0.106	0.049	0.056	0.071	0.032	0.016	0.025	0.023
勝央町	0.284	0.091	0.011	0.141	0.094	0.037	0.052	0.061	0.034	0.019	0.022	0.017
奈義町	0.250	0.094	0.021	0.168	0.111	0.038	0.045	0.074	0.061	0.018	0.023	0.011
西粟倉村	0.088	0.132	0.088	0.033	0.099	0.017	0.047	0.055	0.039	0.025	0.038	0.006
久米南町	0.140	0.140	0.023	0.133	0.082	0.041	0.017	0.030	0.048	0.016	0.022	0.010
美咲町	0.303	0.117	0.000	0.113	0.108	0.044	0.045	0.061	0.040	0.019	0.023	0.019
吉備中央町	0.322	0.186	0.037	0.137	0.158	0.062	0.039	0.056	0.037	0.022	0.016	0.021

2011年-2015年(バイズ推定値)

市町村	合計特殊出生率 ¹⁾	15-49歳
単位	-	%
岡山県	-	-
岡山市	1.46	48.4
倉敷市	1.63	50.8
津山市	1.64	51.0
玉野市	1.42	48.0
笠岡市	1.43	47.9
井原市	1.46	50.3
総社市	1.55	51.2
高梁市	1.44	45.1
新見市	1.51	50.8
備前市	1.43	48.1
瀬戸内市	1.40	49.6
赤磐市	1.45	50.3
真庭市	1.72	56.2
美作市	1.62	52.6
浅口市	1.45	49.0
和気町	1.43	48.1
早島町	1.58	51.6
里庄町	1.56	55.2
矢掛町	1.52	50.5
新庄村	1.72	56.2
鏡野町	1.66	52.3
勝央町	1.66	53.4
奈義町	1.67	52.8
西粟倉村	1.64	52.7
久米南町	1.62	48.9
美咲町	1.64	52.6
吉備中央町	1.44	48.0

資料：厚生労働省「人口動態調査」、総務省「国勢調査」

(注) 合計特殊出生率等は、日本人の出生および女性人口(基準人口)を対象に本分析で独自に算出したものである。

2011年-2015年

有配偶出生率					
30-34歳			35-39歳		
第1子	第2子	第3子	第1子	第2子	第3子
2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年
-	-	-	-	-	-
0.066	0.071	0.028	0.025	0.032	0.016
0.075	0.072	0.025	0.030	0.034	0.016
0.069	0.073	0.025	0.022	0.032	0.015
0.062	0.059	0.035	0.023	0.035	0.016
0.070	0.060	0.034	0.022	0.030	0.022
0.047	0.068	0.038	0.024	0.020	0.018
0.051	0.055	0.037	0.016	0.035	0.021
0.047	0.065	0.029	0.022	0.026	0.018
0.053	0.068	0.040	0.026	0.023	0.019
0.051	0.070	0.025	0.007	0.022	0.018
0.057	0.070	0.027	0.018	0.020	0.012
0.042	0.060	0.027	0.018	0.037	0.021
0.047	0.061	0.036	0.021	0.032	0.014
0.055	0.063	0.047	0.032	0.023	0.023
0.048	0.083	0.054	0.021	0.033	0.016
0.042	0.085	0.017	0.014	0.024	0.007
0.075	0.090	0.037	0.017	0.030	0.004
0.047	0.090	0.017	0.028	0.043	0.009
0.029	0.047	0.035	0.005	0.030	0.015
0.058	0.064	0.039	0.017	0.033	0.008
0.000	0.000	0.000	0.000	0.118	0.000
0.048	0.112	0.021	0.026	0.031	0.018
0.058	0.097	0.029	0.016	0.024	0.020
0.054	0.097	0.054	0.020	0.041	0.000
0.034	0.000	0.000	0.000	0.026	0.000
0.000	0.000	0.108	0.000	0.049	0.016
0.040	0.074	0.040	0.021	0.041	0.021
0.039	0.049	0.049	0.026	0.020	0.013

市町村	合計特殊出生率	女性有配偶率							
		15-49歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
単位		%	%	%	%	%	%	%	%
岡山県	1.51	49.7	0.6	9.5	38.2	61.1	69.4	72.0	74.7
岡山市	1.46	48.4	0.5	7.9	36.4	60.5	69.1	70.8	72.4
倉敷市	1.64	50.8	0.8	10.5	40.8	63.1	70.1	72.5	75.1
津山市	1.64	51.0	0.6	13.0	44.0	64.4	71.3	71.7	74.1
玉野市	1.35	47.8	0.8	11.5	36.4	55.8	63.7	68.3	73.1
笠岡市	1.29	47.7	0.4	11.1	31.7	54.8	66.1	70.8	74.7
井原市	1.31	50.5	0.4	9.3	34.0	58.2	69.1	74.6	78.7
総社市	1.51	51.4	0.6	8.7	38.9	63.3	72.6	76.5	79.9
高梁市	1.38	44.9	0.4	7.5	38.1	57.8	66.3	72.4	78.1
新見市	1.57	51.0	0.2	10.7	44.7	66.0	72.7	77.5	80.9
備前市	1.39	47.7	0.9	12.2	34.9	55.1	64.7	70.8	74.6
瀬戸内市	1.30	50.3	0.4	8.3	34.7	58.5	69.5	74.4	77.6
赤磐市	1.47	51.3	0.5	9.6	39.1	61.5	68.3	73.4	79.8
真庭市	1.72	56.1	0.4	15.8	44.2	66.6	74.1	77.7	81.8
美作市	1.56	52.5	0.7	13.1	39.8	58.3	70.1	74.0	77.5
浅口市	1.26	47.9	0.4	8.8	32.4	54.8	66.2	71.4	76.9
和気町	1.26	47.4	0.8	9.8	29.9	49.8	64.7	69.6	72.9
早島町	1.62	53.1	0.5	8.6	41.4	65.2	70.8	74.1	74.1
里庄町	1.54	51.3	0.6	11.5	43.8	59.1	68.4	73.5	77.2
矢掛町	1.31	49.9	0.3	8.5	32.2	57.4	71.0	72.6	78.7
新庄村	1.78	58.4	0.0	5.6	50.0	77.4	77.3	73.0	77.8
鏡野町	1.73	52.7	0.9	12.7	37.8	61.3	70.2	77.0	78.6
勝央町	1.76	54.3	0.8	16.7	45.5	64.8	73.2	76.2	77.4
奈義町	1.98	54.4	1.1	18.6	44.1	68.6	71.7	77.8	83.3
西粟倉村	1.58	55.3	2.0	19.6	35.8	66.2	82.9	75.0	73.2
久米南町	1.12	45.0	1.3	12.1	28.1	56.1	61.3	67.7	75.1
美咲町	1.61	53.1	0.6	11.6	39.9	61.2	69.5	74.5	80.2
吉備中央町	1.50	46.7	0.0	8.9	31.2	50.9	64.7	75.4	79.6

資料

4 分析に利用した主なデータ

女性有配偶率 ²⁾							有配偶出生率 ³⁾											
15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	20-24歳			25-29歳			30-34歳			35-39歳		
%	%	%	%	%	%	%	第1子	第2子	第3子	第1子	第2子	第3子	第1子	第2子	第3子	第1子	第2子	第3子
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.5	7.9	36.4	60.5	69.1	70.9	72.4	0.251	0.096	0.015	0.147	0.083	0.022	0.069	0.071	0.025	0.025	0.030	0.015
0.8	10.4	40.8	63.1	70.1	72.5	75.1	0.252	0.120	0.025	0.145	0.093	0.029	0.063	0.069	0.029	0.022	0.028	0.017
0.6	13.1	43.9	64.3	71.3	71.8	74.3	0.262	0.106	0.020	0.129	0.089	0.036	0.056	0.063	0.033	0.020	0.026	0.017
0.6	10.4	36.4	57.1	65.4	69.5	73.1	0.251	0.103	0.017	0.139	0.090	0.027	0.062	0.069	0.027	0.023	0.029	0.015
0.4	10.8	32.3	55.5	66.7	71.2	75.1	0.249	0.122	0.026	0.136	0.094	0.031	0.056	0.068	0.029	0.020	0.027	0.017
0.4	10.0	33.1	57.3	68.4	74.0	78.1	0.251	0.123	0.024	0.138	0.094	0.031	0.057	0.068	0.030	0.020	0.027	0.017
0.7	9.4	39.2	63.1	71.7	75.2	78.8	0.253	0.120	0.025	0.140	0.094	0.031	0.057	0.068	0.030	0.020	0.028	0.017
0.3	7.9	39.1	58.6	67.0	73.2	78.9	0.221	0.115	0.029	0.119	0.088	0.042	0.049	0.063	0.035	0.016	0.025	0.017
0.3	10.0	43.7	65.2	72.0	76.8	80.2	0.251	0.113	0.031	0.119	0.088	0.043	0.049	0.063	0.035	0.015	0.027	0.016
0.6	10.3	36.0	57.3	66.6	70.9	74.1	0.250	0.105	0.016	0.143	0.094	0.031	0.061	0.069	0.026	0.024	0.029	0.015
0.5	8.3	35.9	59.1	69.1	72.4	76.2	0.250	0.108	0.016	0.142	0.090	0.026	0.063	0.068	0.027	0.023	0.029	0.015
0.5	9.1	37.2	60.9	68.4	72.1	77.8	0.251	0.115	0.017	0.140	0.091	0.026	0.062	0.068	0.028	0.022	0.030	0.015
0.4	15.7	44.3	66.7	74.1	77.7	81.8	0.258	0.144	0.012	0.109	0.101	0.042	0.046	0.063	0.036	0.019	0.025	0.020
0.7	13.3	39.6	58.6	70.3	74.0	77.4	0.270	0.108	0.024	0.124	0.097	0.037	0.056	0.063	0.035	0.019	0.025	0.017
0.7	9.7	35.5	58.1	68.5	72.2	76.4	0.252	0.122	0.026	0.138	0.094	0.031	0.058	0.068	0.030	0.020	0.027	0.017
0.5	8.7	35.6	56.6	67.4	70.7	73.0	0.251	0.102	0.016	0.144	0.086	0.028	0.066	0.070	0.026	0.024	0.030	0.015
0.7	9.9	40.7	63.6	70.3	73.2	75.2	0.251	0.123	0.025	0.142	0.093	0.030	0.061	0.069	0.029	0.021	0.028	0.017
0.7	10.1	44.8	70.4	76.1	76.4	76.7	0.251	0.123	0.025	0.139	0.094	0.031	0.060	0.068	0.030	0.021	0.028	0.017
0.7	9.9	37.4	60.9	70.3	72.8	76.8	0.252	0.122	0.025	0.138	0.094	0.030	0.059	0.069	0.030	0.021	0.027	0.017
0.4	15.5	44.3	66.9	74.1	77.6	81.8	0.271	0.000	0.000	0.109	0.101	0.042	0.046	0.063	0.036	0.000	0.025	0.000
0.7	13.1	40.5	63.1	70.8	74.5	77.0	0.278	0.108	0.020	0.130	0.095	0.038	0.055	0.064	0.035	0.019	0.026	0.018
0.7	14.3	44.3	64.2	71.7	74.2	76.5	0.271	0.106	0.020	0.131	0.094	0.037	0.055	0.063	0.035	0.019	0.026	0.017
0.7	14.1	43.3	64.7	71.2	74.0	78.0	0.267	0.107	0.023	0.132	0.095	0.037	0.055	0.064	0.038	0.019	0.026	0.017
0.8	13.7	39.5	59.2	72.3	74.0	77.2	0.265	0.107	0.026	0.127	0.094	0.037	0.055	0.063	0.035	0.019	0.026	0.017
0.7	13.2	40.1	63.1	69.8	71.7	75.4	0.264	0.108	0.023	0.129	0.093	0.037	0.055	0.063	0.036	0.019	0.026	0.017
0.7	12.8	41.5	63.1	70.5	73.6	78.1	0.273	0.108	0.018	0.127	0.095	0.037	0.055	0.063	0.036	0.019	0.026	0.018
0.5	8.5	35.9	57.5	67.7	71.6	75.4	0.251	0.108	0.017	0.144	0.092	0.029	0.065	0.069	0.026	0.024	0.029	0.015

1) 二次保健医療圏によるベイズ推定値
 2) 通勤圏によるベイズ推定値
 3) 二次保健医療圏によるベイズ推定値

市町村

市町村	1世帯当たり課税対象所得	人口一人当たり雇用者所得	人口一人当たり課税対象所得	完全失業率(30-34歳)	正規雇用割合	転入超過率(生産年齢人口)	1万世帯当たり住宅着工戸数	3世代世帯比率	人口1万人当たり消防団員数	人口1万人当たり刑法犯認知件数	持ち家比率(世帯主15-64歳)
年次	2012年	2013年度	2012年	2010年	2010年	2015年	2015年	2015年	2016年	2016年	2015年
単位	千円	千円	千円	%	%	-	戸	%	人	件	%
岡山県	2,990	1,783	1,203	13.3	67.9	-0.12	150.5	7.1	149.5	76.9	56.0
岡山市	3,174	1,930	1,353	15.0	66.5	0.24	198.1	5.0	66.1	103.1	46.3
倉敷市	3,177	1,849	1,269	11.8	68.6	0.05	161.0	6.1	41.8	75.8	57.7
津山市	2,626	1,674	1,058	10.8	67.9	-0.44	83.1	9.4	206.1	95.9	57.0
玉野市	2,841	1,646	1,203	13.0	68.1	-1.15	102.9	6.0	90.7	57.7	68.1
笠岡市	2,567	1,562	1,054	17.3	69.6	-1.08	67.4	8.0	189.0	55.3	70.0
井原市	2,762	1,600	1,000	12.7	72.8	-0.88	84.0	13.4	328.9	41.0	70.8
総社市	3,253	1,754	1,155	13.0	67.5	0.29	197.8	9.7	145.6	49.6	61.9
高梁市	2,413	1,509	963	7.0	69.7	-1.09	34.5	9.4	457.2	33.7	52.2
新見市	2,435	1,498	915	11.9	74.5	-1.27	53.9	13.4	391.9	33.1	66.8
備前市	2,561	1,604	1,034	10.6	67.6	-0.75	44.3	8.5	290.0	56.4	75.5
瀬戸内市	2,966	1,676	1,084	12.2	66.0	-0.56	125.8	9.2	121.8	54.2	79.5
赤磐市	2,881	1,645	1,078	13.3	65.3	-0.03	134.4	8.8	233.7	46.0	80.9
真庭市	2,619	1,515	900	9.3	73.7	-1.08	83.4	16.8	556.6	25.0	72.7
美作市	2,060	1,390	807	15.0	68.6	-1.27	41.7	11.6	684.4	56.9	75.0
浅口市	2,924	1,556	1,074	16.8	68.0	-0.53	93.9	10.7	259.6	44.3	78.8
和気町	2,478	1,474	970	12.7	66.3	-1.53	64.0	11.4	457.3	64.7	74.7
早島町	3,299	1,785	1,227	10.9	67.6	0.34	184.3	8.7	124.7	47.3	63.5
里庄町	3,154	1,747	1,159	11.8	69.0	0.11	141.7	8.5	230.2	35.3	73.3
矢掛町	3,065	1,521	993	16.1	70.9	-0.28	61.7	16.2	395.0	36.3	76.8
新庄村	1,847	1,437	698	0.0	70.0	-0.42	0.0	10.9	871.8	0.0	70.1
鏡野町	2,468	1,623	957	13.9	70.0	-0.04	97.4	13.8	647.8	25.1	82.5
勝央町	2,652	1,608	969	11.4	69.2	0.23	103.9	11.3	340.4	42.6	66.5
奈義町	2,576	1,553	957	3.8	73.9	-0.11	51.8	13.3	570.2	9.7	74.3
西粟倉村	2,335	1,402	791	0.0	67.2	-0.49	35.1	12.1	809.0	19.9	70.4
久米南町	1,853	1,295	757	14.9	64.7	-0.20	99.9	8.4	501.3	25.6	81.1
美咲町	2,224	1,405	857	15.3	69.9	-0.91	51.6	13.6	603.3	27.8	83.0
吉備中央町	2,012	1,410	817	7.6	67.6	-0.45	195.3	11.2	472.8	26.5	79.0
資料	②	③	②	①		④	⑤	①	⑥	⑦	①

資料

4 分析に利用した主なデータ

市町村	通勤圏人口性比(男/女)							地域の稼ぐ力	暮らしの安定性	地域の定住力
	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳			
年次	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	-	-	-
単位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	1.040	1.002	1.007	1.007	1.022	1.020	0.987	-	-	-
岡山市	1.054	1.019	0.963	0.988	1.007	1.012	0.960	3.34	-1.25	2.25
倉敷市	1.001	0.928	0.990	0.989	0.998	1.000	0.993	2.73	-0.13	1.53
津山市	1.102	0.924	1.069	1.027	1.040	1.068	0.992	0.54	-0.19	-0.10
玉野市	1.054	1.019	0.963	0.988	1.007	1.012	0.960	1.25	-0.49	-0.76
笠岡市	1.040	0.986	1.078	1.073	1.072	0.972	0.986	0.01	-0.75	-1.12
井原市	1.040	0.986	1.078	1.073	1.072	0.972	0.986	0.23	0.86	-0.65
総社市	1.001	0.928	0.990	0.989	0.998	1.000	0.993	2.06	-0.64	2.31
高梁市	0.941	1.024	1.267	1.097	1.116	1.040	1.020	-0.73	0.92	-1.56
新見市	0.941	1.024	1.267	1.097	1.116	1.040	1.020	-0.92	1.48	-1.54
備前市	1.054	1.019	0.963	0.988	1.007	1.012	0.960	0.09	-0.25	-0.99
瀬戸内市	1.054	1.019	0.963	0.988	1.007	1.012	0.960	1.11	-0.92	0.29
赤磐市	1.054	1.019	0.963	0.988	1.007	1.012	0.960	0.85	-1.32	1.09
真庭市	0.955	1.083	1.156	1.054	1.130	1.053	1.059	-0.65	1.66	-0.92
美作市	1.081	1.145	1.044	1.033	1.091	1.006	0.978	-2.23	-0.65	-1.69
浅口市	1.001	0.928	0.990	0.989	0.998	1.000	0.993	0.55	-1.10	-0.08
和気町	1.054	1.019	0.963	0.988	1.007	1.012	0.960	-0.75	-0.94	-1.74
早島町	1.001	0.928	0.990	0.989	0.998	1.000	0.993	2.50	-0.30	2.21
里庄町	1.040	0.986	1.078	1.073	1.072	0.972	0.986	1.91	-0.03	1.36
矢掛町	1.001	0.928	0.990	0.989	0.998	1.000	0.993	0.32	-0.18	-0.17
新庄村	0.955	1.083	1.156	1.054	1.130	1.053	1.059	-2.74	2.10	-1.15
鏡野町	1.102	0.924	1.069	1.027	1.040	1.068	0.992	-0.24	-0.08	0.60
勝央町	1.102	0.924	1.069	1.027	1.040	1.068	0.992	0.00	0.08	1.03
奈義町	1.102	0.924	1.069	1.027	1.040	1.068	0.992	-0.36	2.59	-0.08
西粟倉村	1.081	1.145	1.044	1.033	1.091	1.006	0.978	-1.87	1.34	-0.78
久米南町	1.102	0.924	1.069	1.027	1.040	1.068	0.992	-3.06	-1.73	0.43
美咲町	1.102	0.924	1.069	1.027	1.040	1.068	0.992	-1.77	-0.32	-1.10
吉備中央町	1.054	1.019	0.963	0.988	1.007	1.012	0.960	-2.19	0.24	1.33
資料				①						

一戸建て比率 (全世帯)	住宅面積 100㎡以上割合 (世帯主15-64歳)	有配偶 女性就業率 (30-34歳)	0-5歳児 一人当たり保 育所在者数	0-5歳児 一人当たり 保育所定員数	0-5歳児 1万人当たり 保育所数	人口1万人 当たり子育て 支援拠点数	0-17歳 人口当たり 児童福祉費	20-44歳女性 人口1万人当たり 産婦人科医師数 (二次保健医療圏)	0-9歳児 1万人当たり 小児科医師数 (二次保健医療圏)	小学校 1校当たり 児童数	女性人口 (15-49歳)の 非学生割合
2015年	2010年	2010年	2015年	2015年	2015年	2016年	2014年度	2014年	2014年	2015年	2010年
%	%	%	人	人	所	拠点	千円	人	人	人	%
68.2	42.0	33.3	0.41	0.45	42.8	0.92	327.9	6.6	36.5	251.4	85.4
55.3	31.8	30.8	0.37	0.41	31.1	0.76	335.5	7.5	41.8	415.1	85.1
68.6	42.6	33.4	0.39	0.43	37.7	0.44	327.9	6.0	32.1	430.7	86.1
72.1	47.6	39.9	0.52	0.52	48.1	0.58	357.7	5.7	30.7	216.9	85.7
81.8	52.9	30.3	0.37	0.54	52.8	0.65	295.7	7.5	41.8	185.3	86.0
82.3	53.5	33.0	0.56	0.61	70.0	1.57	344.6	6.0	32.1	123.0	86.1
84.7	56.2	41.1	0.45	0.42	49.5	1.92	306.7	6.0	32.1	122.1	86.1
74.1	49.0	33.8	0.42	0.39	39.6	1.34	331.4	6.0	32.1	262.2	84.1
73.6	41.7	38.3	0.47	0.51	64.8	1.26	326.1	4.3	31.3	79.6	75.3
84.1	52.8	47.5	0.51	0.51	87.3	1.61	279.3	4.3	31.3	79.1	79.5
86.5	58.8	31.8	0.38	0.50	79.8	2.50	274.1	7.5	41.8	106.2	85.6
89.6	62.6	34.9	0.52	0.56	52.1	1.32	308.9	7.5	41.8	196.9	84.9
89.5	65.6	34.9	0.55	0.67	81.3	1.80	317.6	7.5	41.8	201.8	85.8
87.2	62.5	46.4	0.50	0.54	81.2	1.05	345.1	3.6	29.6	89.5	87.8
88.0	57.2	33.2	0.50	0.55	56.5	2.07	306.7	5.7	30.7	132.4	88.9
90.8	63.9	29.5	0.33	0.33	39.5	0.85	255.1	6.0	32.1	215.3	85.2
89.2	59.3	32.0	0.35	0.35	56.1	1.36	225.6	7.5	41.8	94.3	86.9
77.3	54.5	33.7	0.42	0.37	24.7	1.63	304.8	6.0	32.1	748.0	89.0
87.1	61.7	36.9	0.58	0.48	35.3	0.91	298.8	6.0	32.1	307.0	85.8
90.7	65.5	37.0	0.52	0.58	70.5	1.37	251.2	6.0	32.1	92.3	85.5
94.8	63.1	66.7	0.69	0.77	256.4	10.50	351.5	3.6	29.6	38.0	86.1
92.6	68.9	36.3	0.68	0.70	105.3	0.74	454.3	5.7	30.7	81.5	88.7
81.3	53.2	39.1	0.67	0.66	81.3	0.89	370.2	5.7	30.7	320.5	88.9
88.5	62.0	36.8	0.31	0.37	37.3	3.22	237.2	5.7	30.7	280.0	86.4
94.4	58.8	40.0	0.00	0.00	0.0	6.63	358.9	5.7	30.7	69.0	87.4
92.9	62.5	40.0	0.46	1.08	179.6	3.93	330.4	5.7	30.7	69.0	83.7
92.9	61.8	40.7	0.61	0.74	63.4	3.97	421.3	5.7	30.7	145.6	86.9
93.1	64.0	36.6	0.46	0.53	132.5	0.83	273.1	7.5	41.8	49.9	83.7
①			⑧			⑨	⑩	⑪		⑫	①

主成分得点 ¹⁾				
家族・地域の きずな力	住宅環境	共働き支援力	子育て支援力	出産・子育て 環境
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-3.34	-5.01	-1.47	-0.18	2.30
-2.51	-2.75	-1.12	-0.39	-0.03
-1.95	-2.23	0.04	0.07	-0.60
-1.94	-0.60	-0.92	-0.76	2.06
-1.24	-0.40	0.30	0.15	-0.36
0.49	-0.02	-0.35	-0.20	-0.36
-0.90	-1.72	-1.09	-0.05	-0.21
0.24	-2.84	-0.03	-0.15	-1.55
0.86	-0.54	0.86	-0.88	-1.55
-0.92	0.55	-0.63	-0.37	1.97
-1.17	1.25	-0.04	-0.36	2.07
-0.74	1.53	0.66	-0.09	2.07
2.13	0.68	0.78	0.05	-2.24
0.68	0.50	-0.22	-0.15	-0.69
-0.27	1.37	-1.80	-1.25	-0.26
-0.13	0.70	-1.38	-1.49	1.96
-1.07	-1.05	-1.30	-0.32	0.32
-0.55	0.65	-0.14	-0.64	-0.16
1.31	1.35	0.32	-1.14	-0.39
2.45	1.03	5.14	3.21	-2.29
1.80	2.04	1.52	1.45	-0.75
0.09	-0.70	1.28	0.34	-0.49
1.88	0.82	-1.37	-0.73	-0.53
2.03	0.73	-3.70	2.05	-0.76
0.37	1.54	2.82	0.78	-0.76
1.57	1.61	1.23	2.04	-0.68
0.82	1.53	0.60	-1.01	1.91

- 資料：① 総務省「国勢調査」
 ② ㈱JPS「個人所得指標」
 ③ 岡山県「市町村経済計算」
 ④ 総務省「住民基本台帳人口移動報告」
 「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」
 ⑤ 国土交通省「建築着工統計」
 ⑥ 一般財団法人岡山県消防協会資料
 ⑦ 岡山県警察生活安全部生活安全企画課資料
 ⑧ 厚生労働省「社会福祉施設等調査」
 ⑨ 岡山県保健福祉部子ども未来課調べ
 ⑩ 総務省「市町村別決算状況調査」
 ⑪ 厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」
 ⑫ 文部科学省「学校基本調査」

1) 主成分分析により生成された縮約化指標の都道府県や市町村の値

合計特殊出生率「見える化」分析
《岡山県出生率地域格差要因分析業務報告書》

平成 29 年（2017 年）3 月

発行：岡山県保健福祉部子ども未来課
〒700-8570
岡山県岡山市北区内山下 2-4-6
TEL: 086-226-7347(直通) / FAX: 086-226-7902
編集：公益社団法人中国地方総合研究センター



合計特殊出生率「見える化」分析

《岡山県出生率地域格差要因分析業務報告書》

岡山県